

# 「岐阜市地震防災に関する住民調査」

## アンケート調査報告書

平成 27 年 7 月

岐阜大学 地震工学研究室

岐阜市 都市防災部 都市防災政策課

## 目次

1, アンケート調査の概要	2
(1) 調査の目的	2
(2) 調査時期	2
(3) 調査範囲と対象者	2
(4) 配布・回収方法	2
2, アンケート調査の結果	4
(1) 回収数・回収率	4
(2) 集計にあたって	4
(3) アンケート集計結果	5
A.回答者について	
B.地震について	
C.地震が起こったら	
D.災害への備えについて	
E.自宅の耐震診断・耐震補強について	
F.防災活動について	
G.最後に	
3, 参考資料	
○「東日本大震災を機に具体的に行った防災行動」記述一覧	74
○「災害時に市役所に望むこと」記述回答一覧	96
○アンケート調査票	

## 1. アンケート調査の概要

### (1) 調査の目的

岐阜市都市防災部と岐阜大学地震工学研究室は、岐阜市内の3つの地区(小学校区)においてお子様がそれぞれの小学校に通うご家族の方々に、2007年と2010年に地震災害に関する事前の対策や意識についてのアンケート調査を行っている。その後2011年の東北地方での海溝型巨大地震による未曾有の大災害を経験し、近い将来の海溝型地震発生の確率が非常に高いこの東海地域における住民の方々の地震防災に関する3回目のアンケート調査を実施させて頂くこととした。

調査の目的は、過去2回の調査と比較して住民の方々の防災意識にどのような変化があったか、また、どのような観点から今後の防災意識啓発を推進してゆくべきか、等について新たな有効な知見を得ることにある。

これまでの調査と同様、各設問において、その背景や重要な情報の解説欄を設け、回答することにより意識啓発に繋がるように工夫した。

### (2) 調査時期

平成26年12月

### (3) 調査範囲と対象者

アンケートの対象地域は、下記の3地区である。(次ページに地図記載)

鏡島地区

長良地区

三輪南地区

延べ配布数 1283部

### (4) 配布・回収方法

調査対象となる地区の小学校(鏡島小学校、長良小学校、三輪南小学校)のご協力を得て、担任の先生から全長子生徒に配布し、それぞれのご家庭の方に回答して頂いたものを回収した。

調査対象範囲

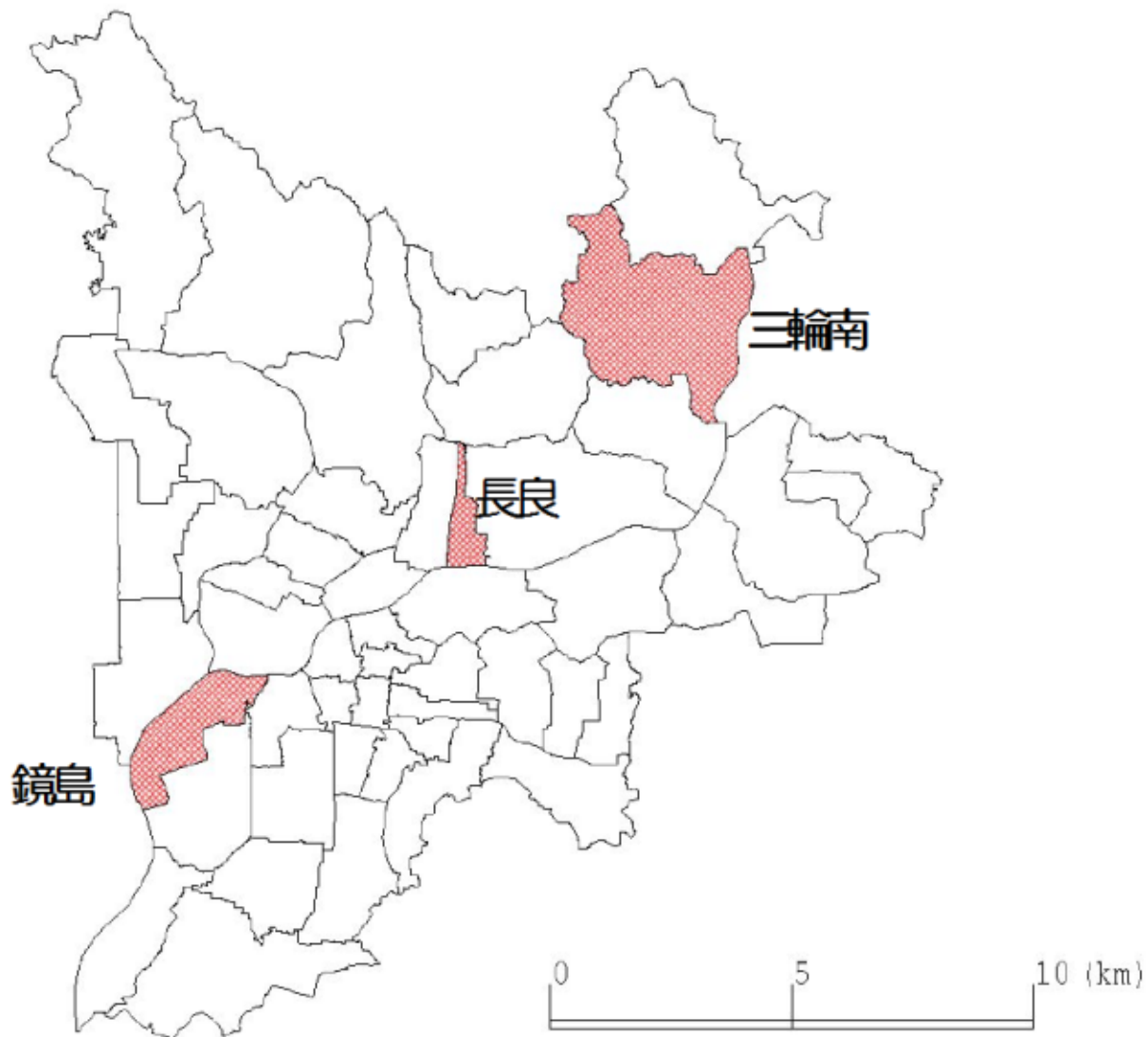


図 1 アンケート調査の対象とした岐阜市における 3 地区の位置

## 2. アンケート調査の結果

### (1) 回収数・回収率

表 1 に、対象 3 地区における回収数、回収率等を示した。どの地区も 80%以上の高い回収率であった。

表 1 アンケート対象地区における配布数・回収数・回収率

地区（小学校区）	配布数	回収数	回収率
鏡島小学校	496	400	81%
長良小学校	316	283	90%
三輪南小学校	471	406	86%
合計	1283	1089	85%

### (2) 集計にあたって

アンケート結果は、個々の回答について、各小学校と全体合計の計 4 結果を単純計算した。記述回答については、学校ごとではなく全体としてまとめ、各設問の集計結果の後に記載した。回答比率については、その設問の回答者数を母数として算出した。ただし、複数回答の設問については、回答数を母数として算出した。

### (3) アンケート結果について

本アンケートは質問内容を A~G の 7 項目に分けた。そのうち  
 B:地震について C:地震が起こったら D:災害への備えについて  
 E:自宅の耐震診断・耐震補強について F:防災活動について G:最後に  
 の 6 項目に関して、第 1 回アンケート、第 2 回アンケートに同じ質問があった場合は、結果を末尾に表示し本アンケートの結果と過去 2 回のアンケートの結果との比較が出来るようにした。

過去 2 回のアンケート結果に関しては 3 校を合わせた「全体」結果のみを表示した。

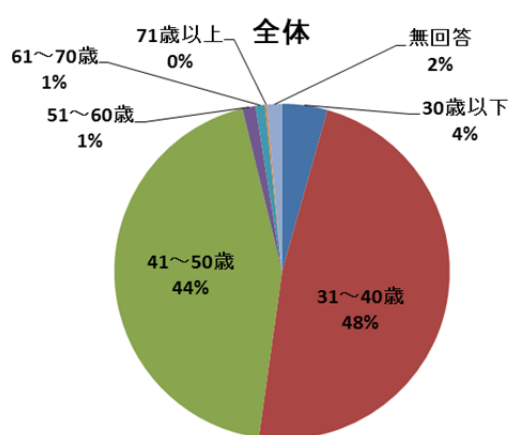
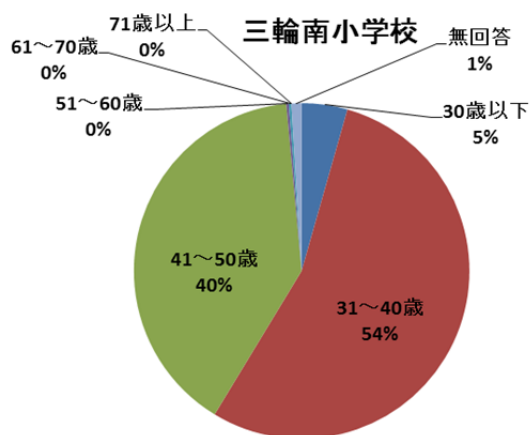
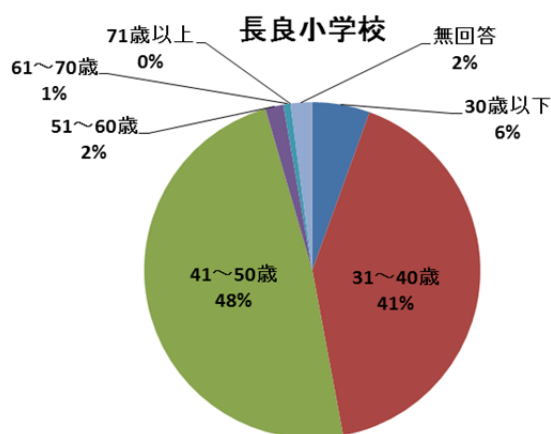
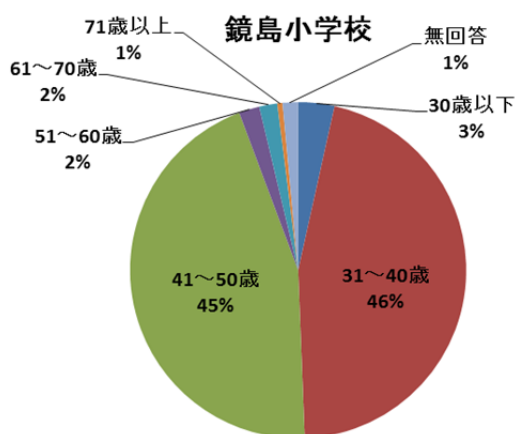
(3) アンケート集計結果

**A.回答者の属性について**

1. あなたは何歳でしょうか？

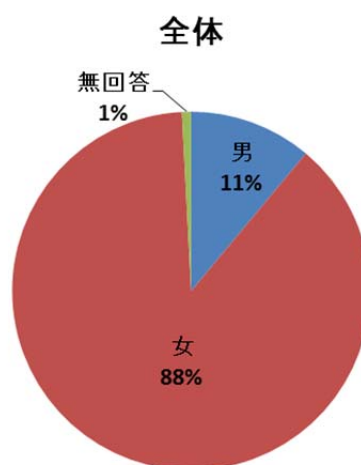
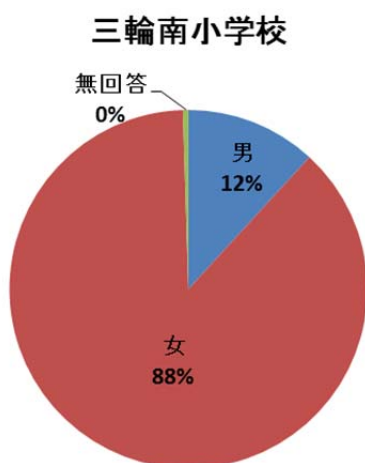
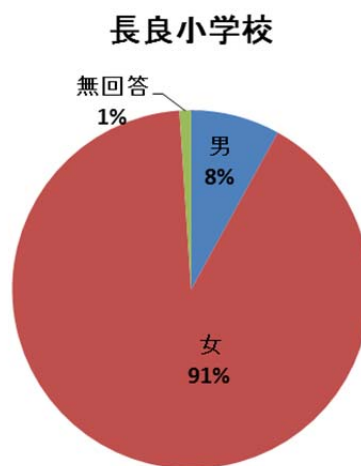
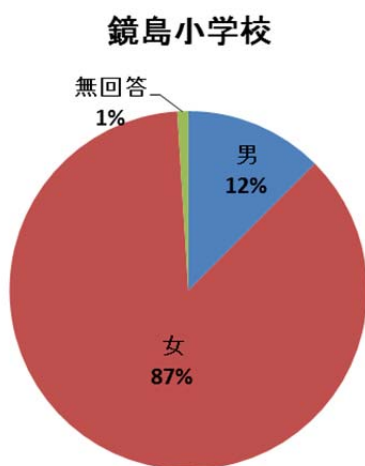
長良小学校では、他校と比較して、「41～50 歳」の割合が多い。三輪南小学校では「31～40 歳」の割合が多く半数を超えている。三輪南小学校では、51 歳以上の回答者がいないことも特徴的である。

鏡島小学校では「31～40 歳」と「41～50 歳」の割合がほぼ 1：1 となっている。



## 2. あなたの性別は？

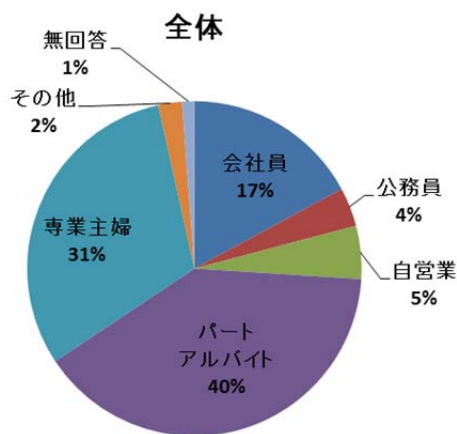
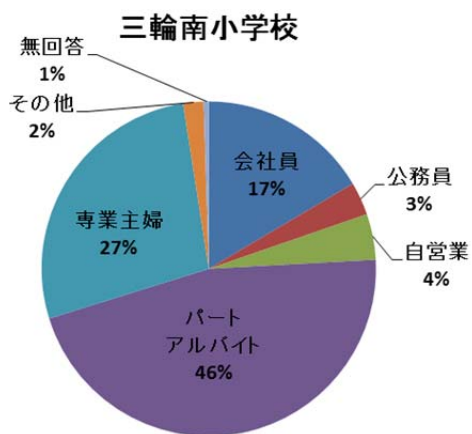
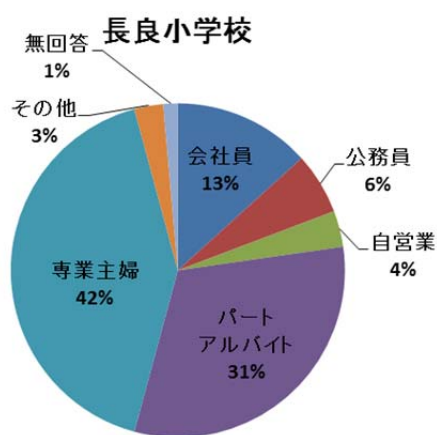
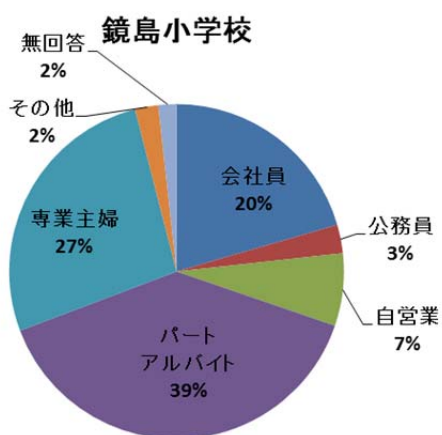
各小学校とも回答の構成比率は同じような傾向を示している。  
 回答者全体では、「女性」が88%、「男性」が11%で、女性が約9割を占めている。



### 3. あなたのご職業は？

長良小学校で「専業主婦」の割合が高く、42%となっている。  
 全体では、「パート・アルバイト」が最も多く 40%、次いで「専業主婦」31%、その次に「会社員」17%となっている。

「その他」の記述では、無職（1）、自営手伝い（1）、団体職員（2）、薬剤師（1）、保育士（1）、家業手伝い（1）、看護師（1）、施設職員（1）、在宅ワーク（1）、僧侶（1）、学生（1）などの回答があった。





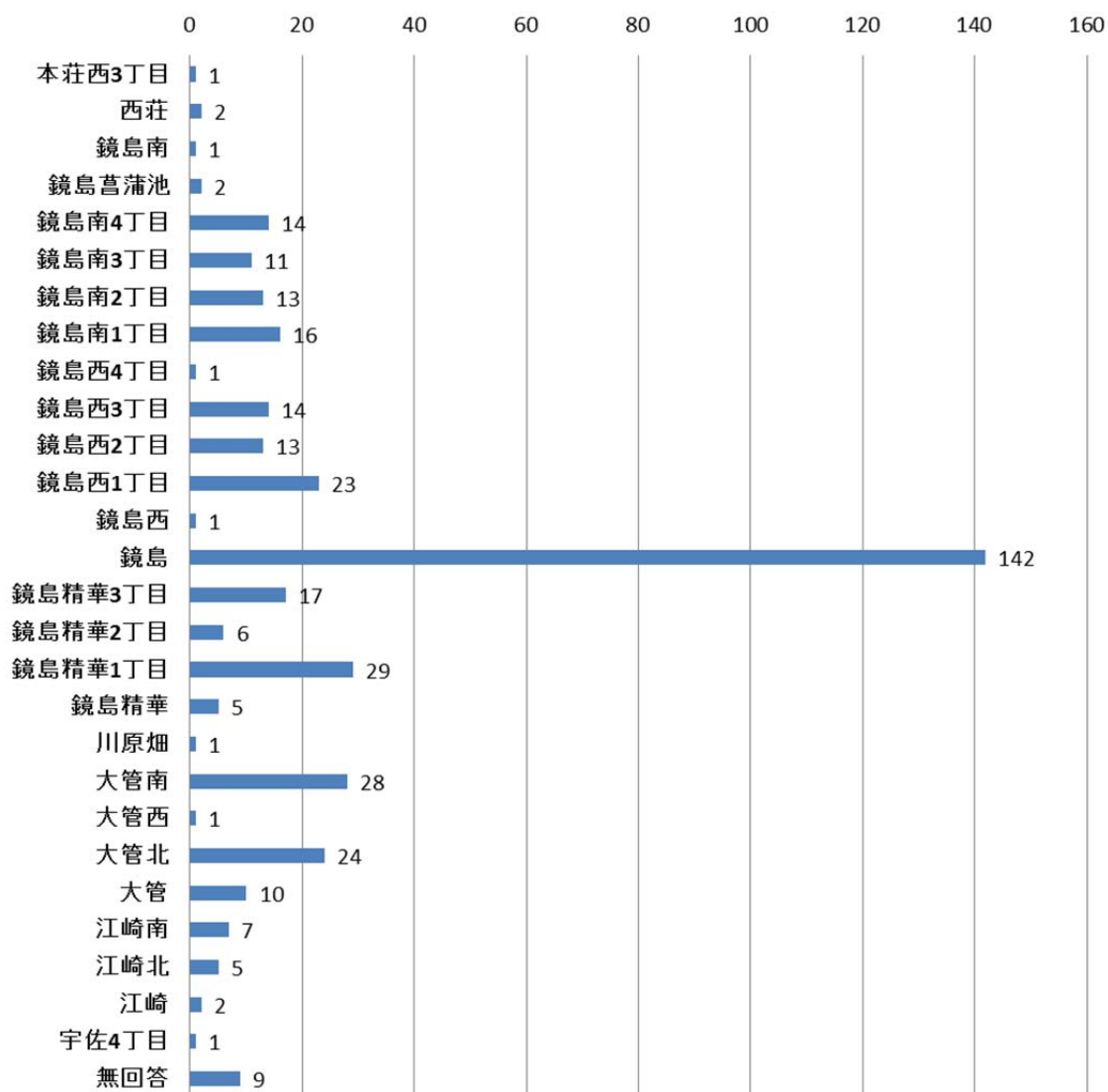
#### 4. お住まいはどちらですか？

鏡島小学校区では、「鏡島」が最も多く 142 軒、「鏡島精華 1 丁目」が 29 軒、「大管南」が 28 軒、「大管北」が 24 軒、「鏡島西 1 丁目」が 23 軒、以下 20 軒未満の地区総数が 144 軒となっている。

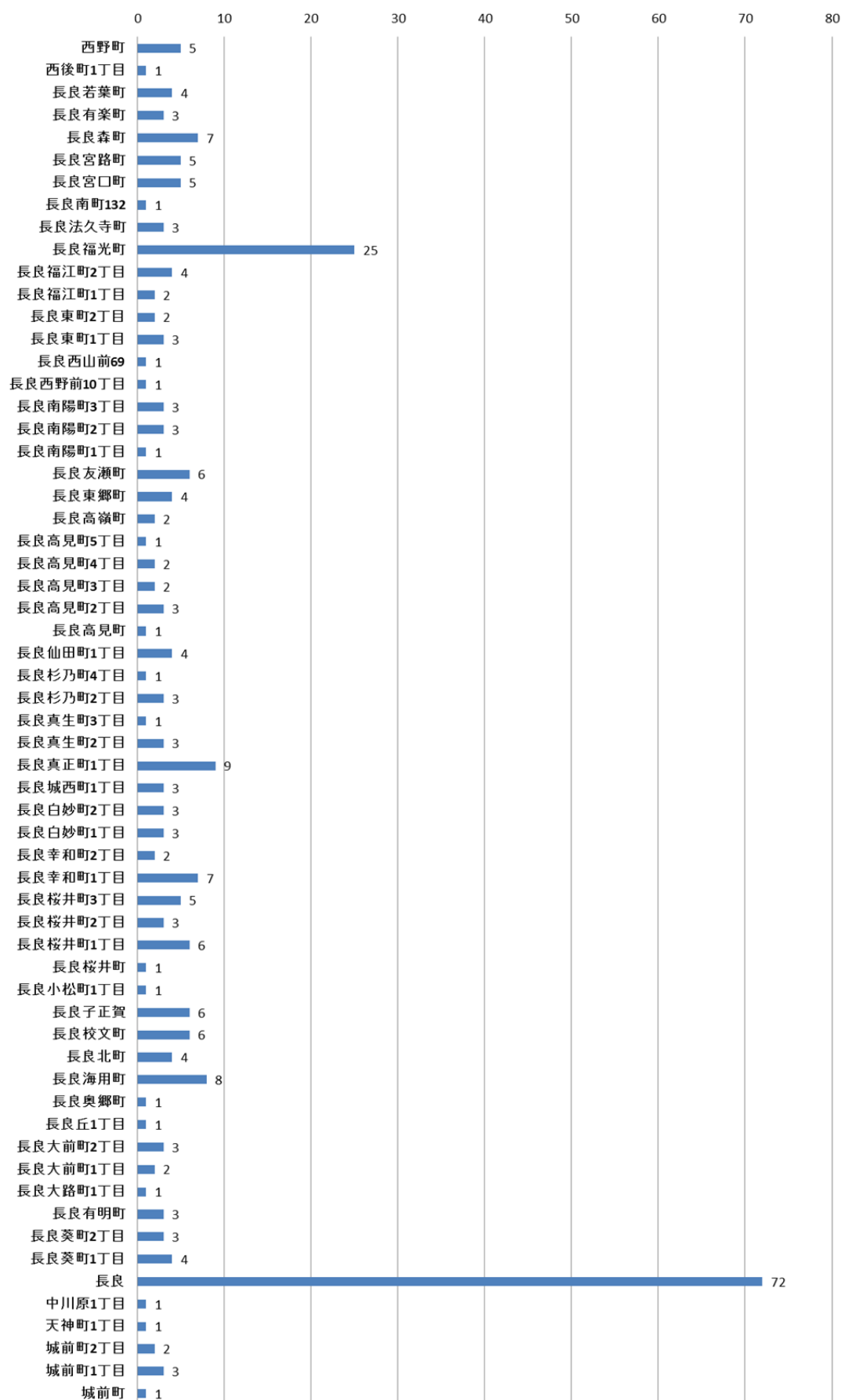
長良小学校区では、「長良」が 72 軒、「長良福光町」が 25 軒、以下 10 軒未満の地区総数が 180 軒となっている。

三輪南小学校区では、「福富」54 軒、「石原 2 丁目」36 軒、「太郎丸」35 軒、「石原 3 丁目」23 軒、以下 20 軒未満の地区総数が 239 軒となっている。

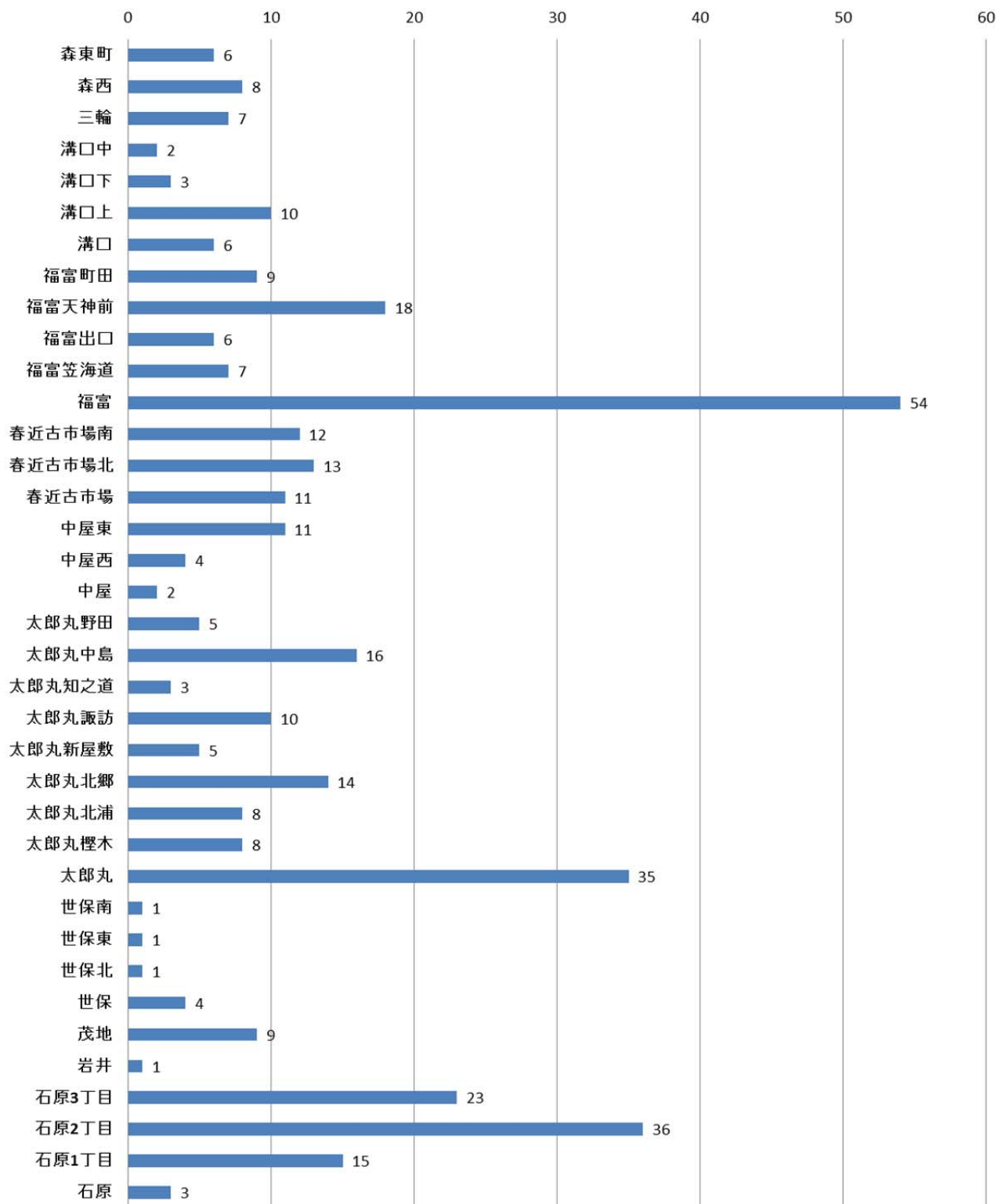
### 鏡島小学校



### 長良小学校



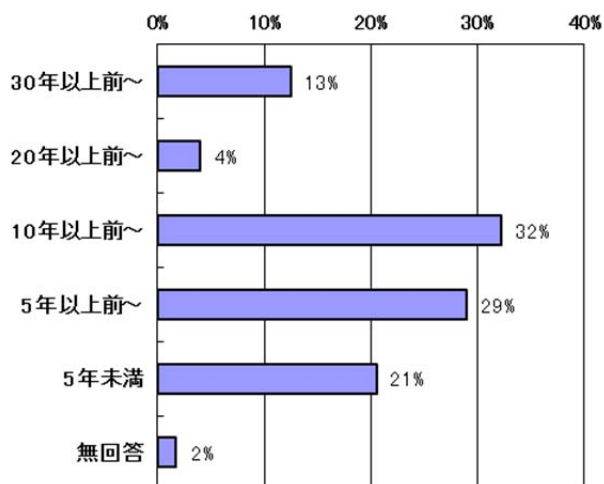
### 三輪南小学校



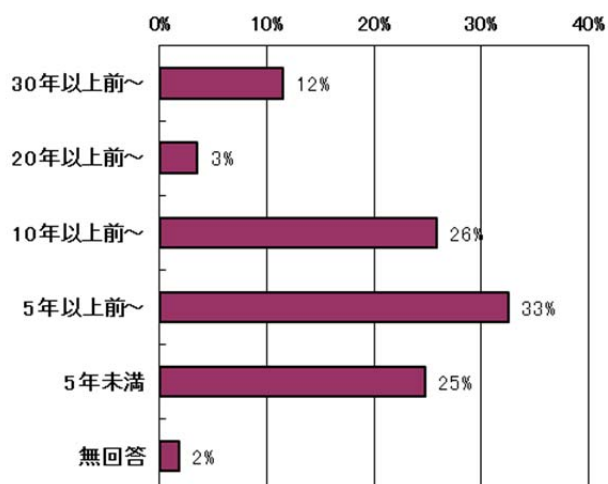
## 5. あなたはいつ頃から現在地にお住まいですか？

各小学校とも「10 年以上前」、「5 年以上前」、「5 年未満」が多く、結婚や出産後に、現在地に移り住んできた人が多いと考えられる。

鏡島小学校

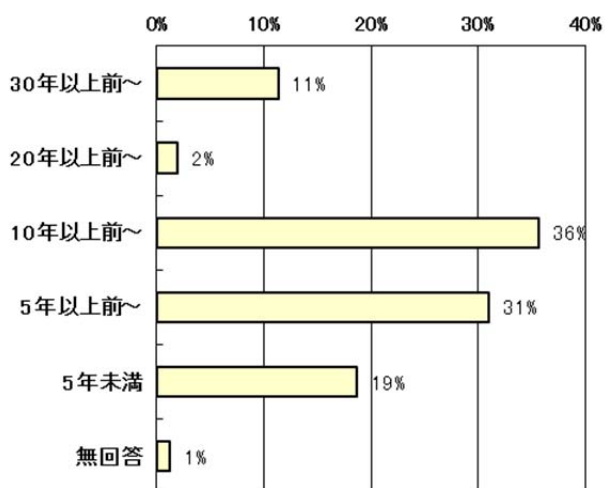


長良小学校

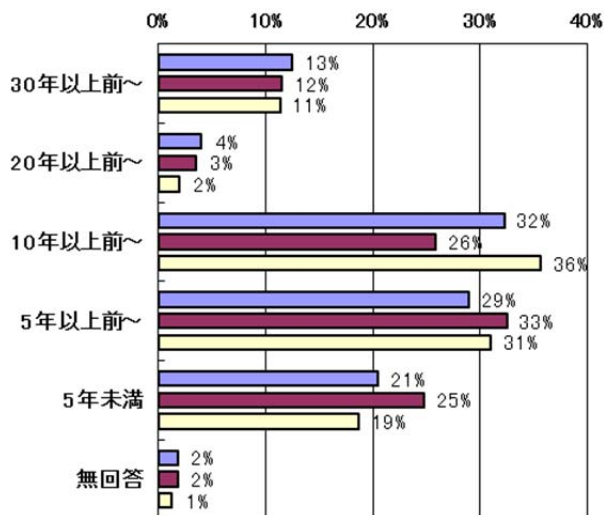


学校別

三輪南小学校



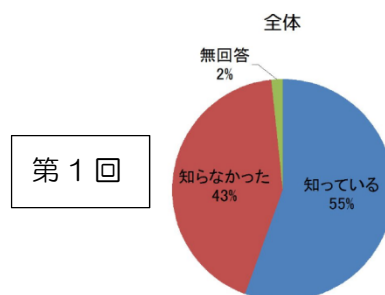
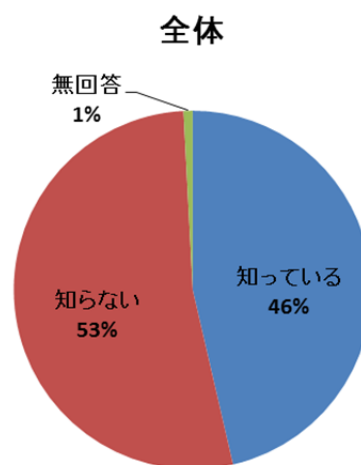
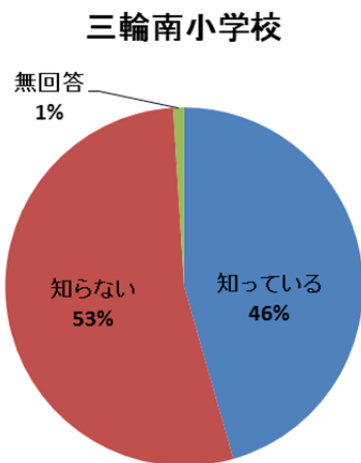
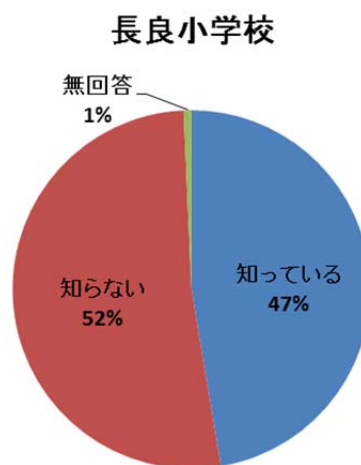
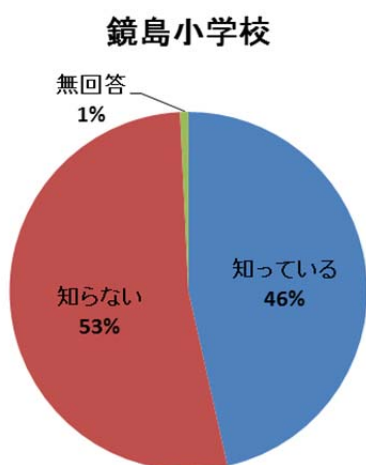
■鏡島小学校 ■長良小学校 □三輪南小学校



## B. 地震について

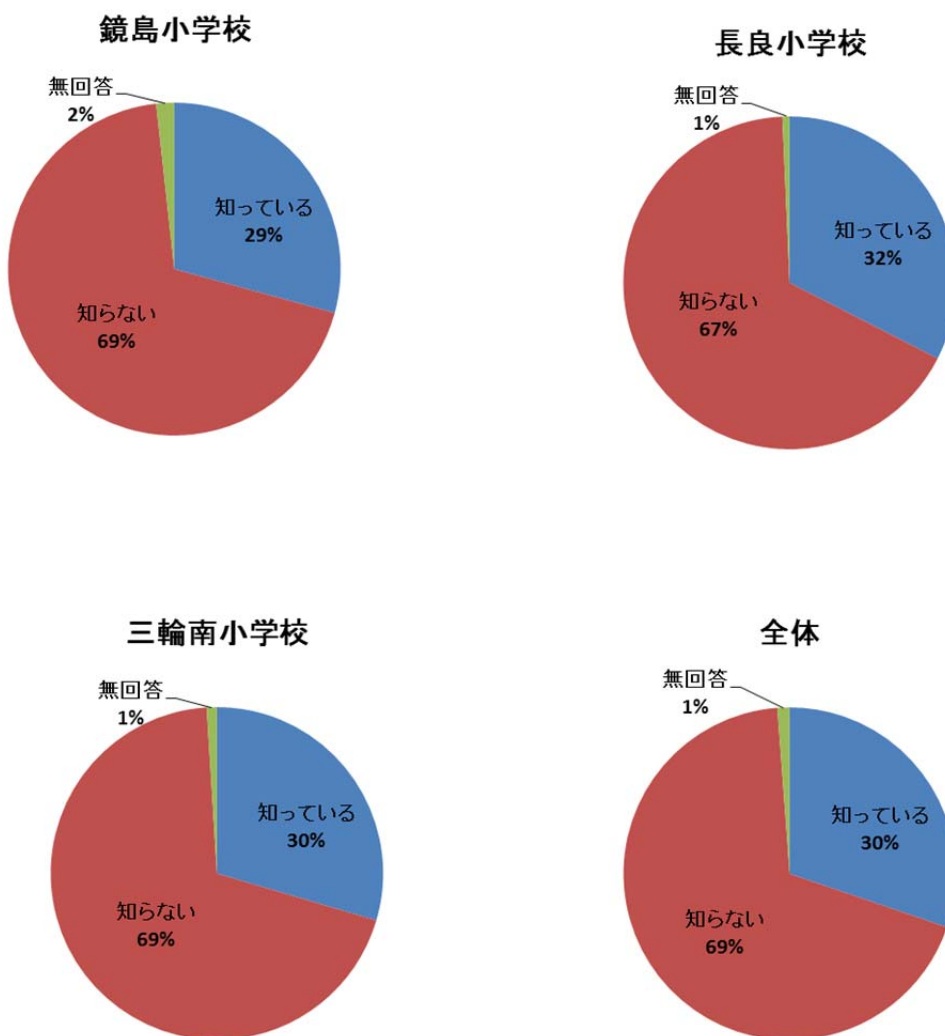
### 1. 日本では約5年に1度、大地震が発生していると知っていましたか？

各小学校とも回答の比率は同じような傾向を示している。全体では53%の人が「知らない」と回答しており、「知っている」の46%を上回っている。



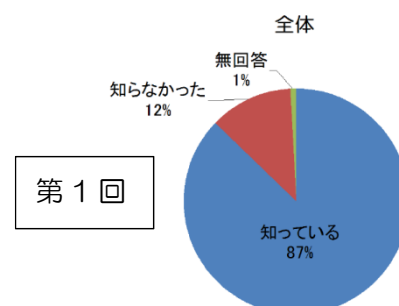
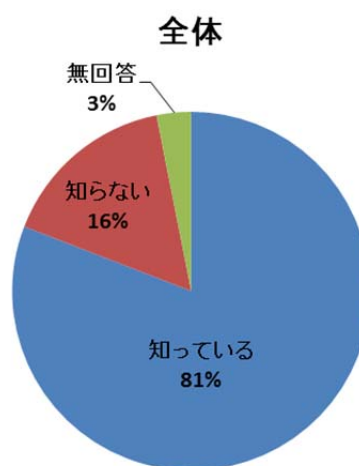
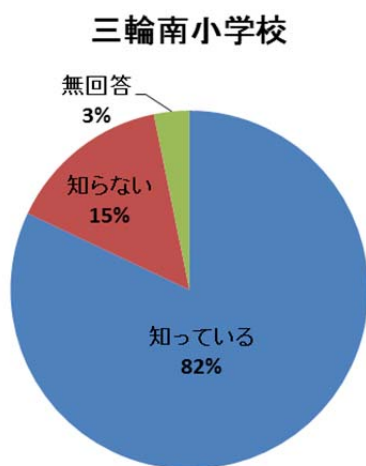
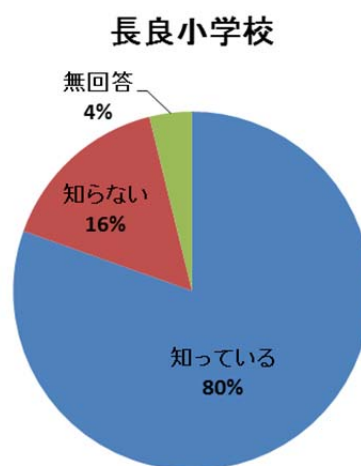
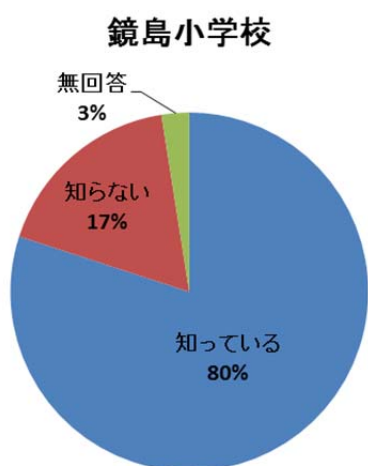
## 2. 日本において、人間社会に被害を及ぼす地震には 2 種類あると知っていましたか？

各小学校とも回答の比率は同じような傾向を示している。7割近い人が、人間社会に被害を及ぼす地震には 2 種類あるということを「知らない」と回答している。



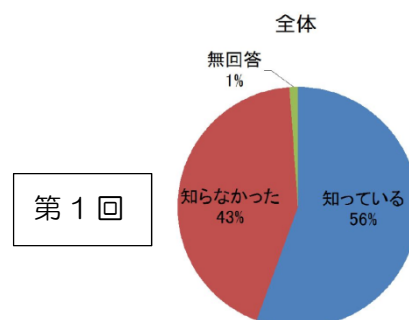
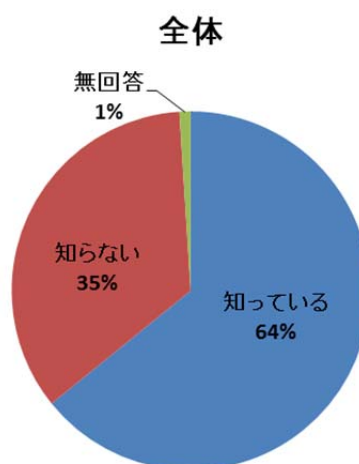
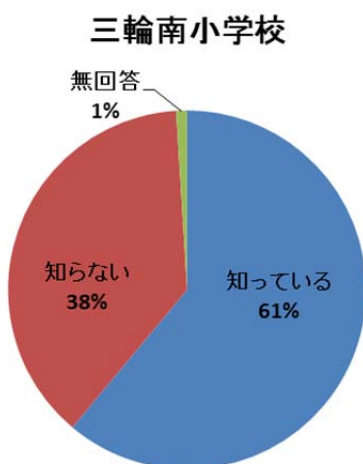
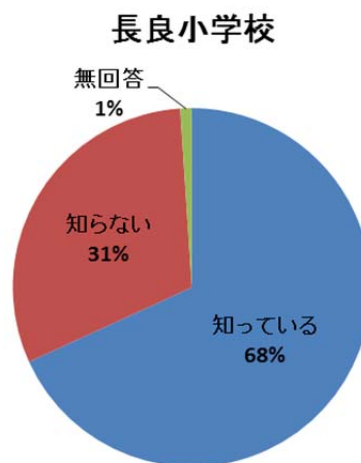
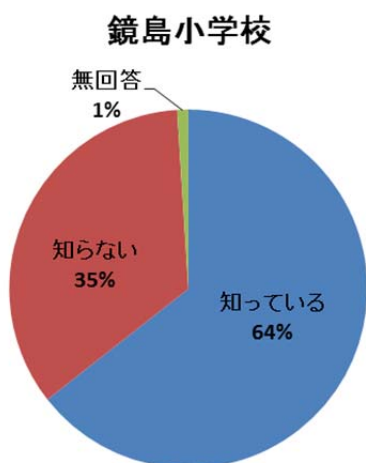
3. 東海地震は過去に周期的にくり返し発生していることから「近年、いつ発生してもおかしくない」と言われ、「今後 30 年以内に再発生する確率が 88%」と言われて  
 いますが、知っていましたか？

各小学校とも回答の比率は同じような傾向を示している。「知っている」と回答した人は全体の 81%で、広く認知されていることが分かる。質問 1, 質問 2 よりも認知度が高く、自分たちの関わる地域の問題として関心の高さがうかがえる。



4. 近い将来、必ず起こることが予測されている「南海トラフの巨大地震」は、東海地震・東南海地震・南海地震の3つの地震が連動して同時に起こると言われ、東北地方太平洋沖地震を上回るマグニチュード8~9クラスの大地震だと知っていましたか？

各小学校とも回答の比率は同じような傾向を示している。全体では64%の人が「知っている」と回答しており、「知らない」の35%を大きく上回っている。

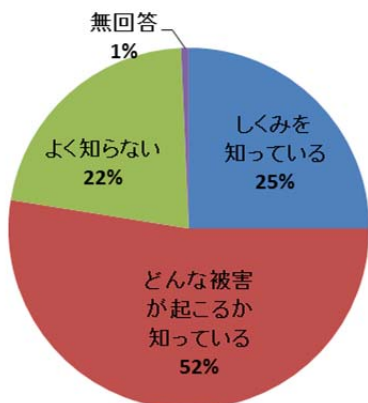




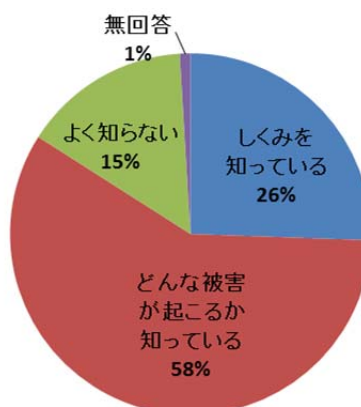
## 5. 液状化とはどういう現象か知っていますか？（〇いくつでも）

各小学校とも回答の比率は同じような傾向を示している。「しくみを知っている」24%と「どんな被害が起こるか知っている」54%を合わせると、8割近い人が液状化についてなんらかの知識を持っていることとなる。

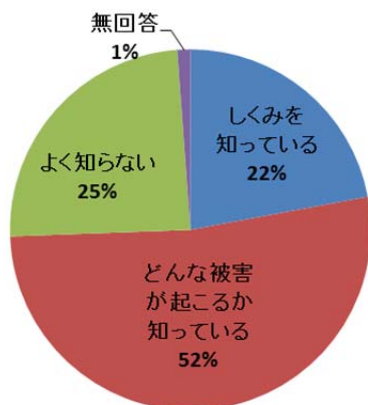
鏡島小学校



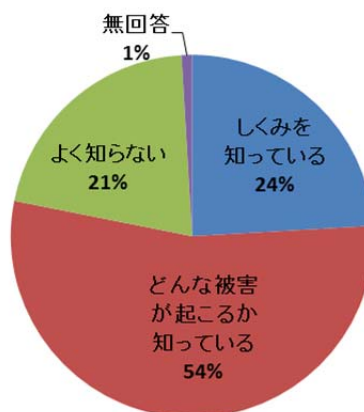
長良小学校



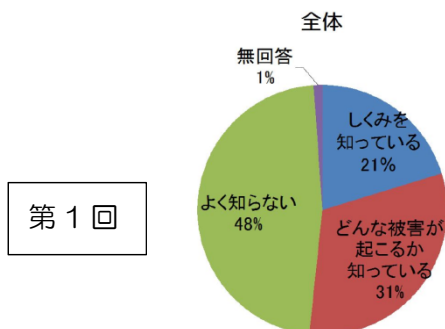
三輪南小学校



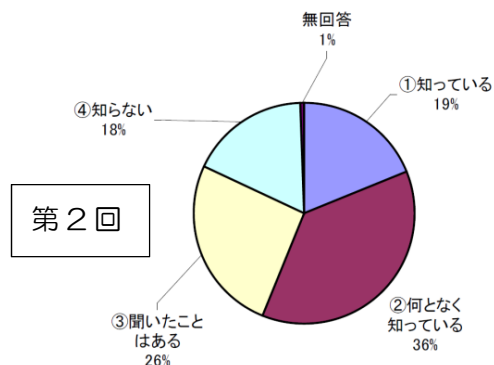
全体



全体

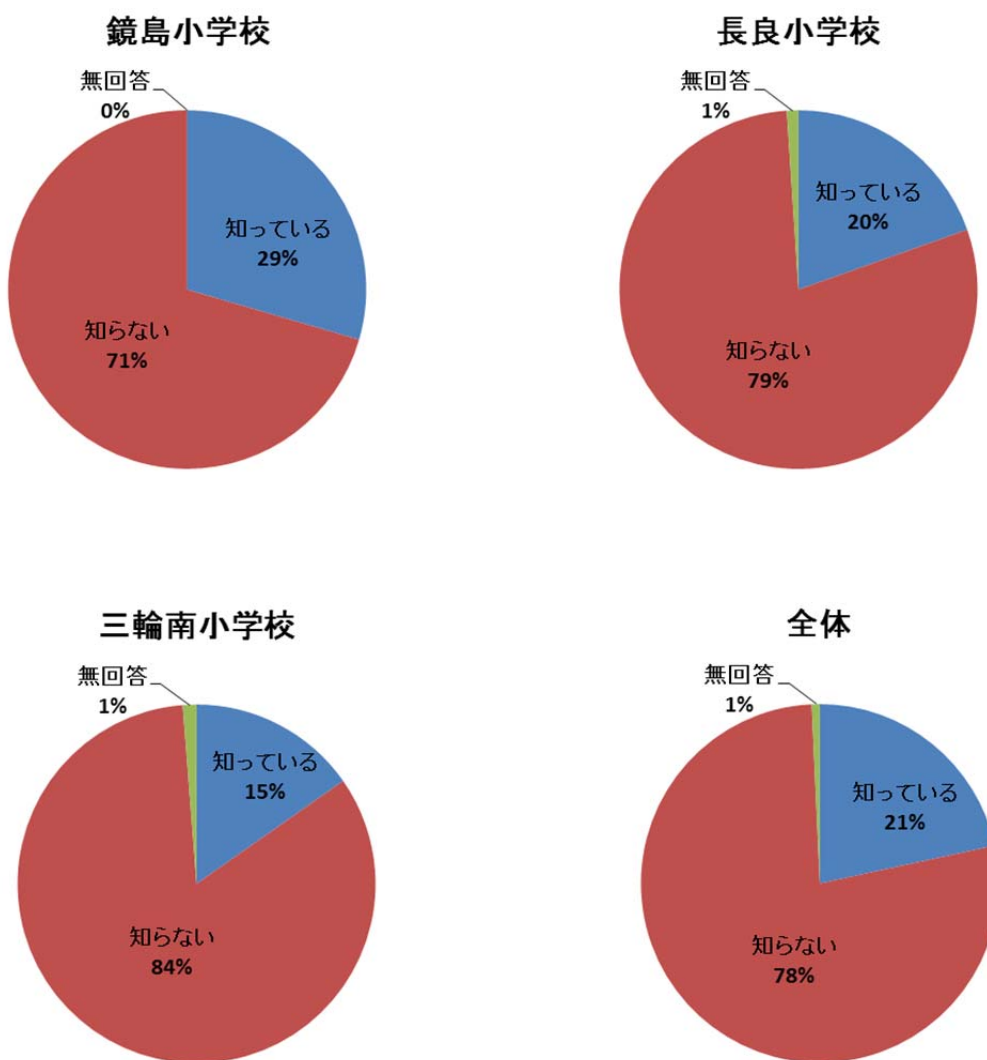


無回答



6. 岐阜県で起こる地震の二次災害としては、液状化と延焼火災が大きな被害となることが予想されていることを知っていましたか？

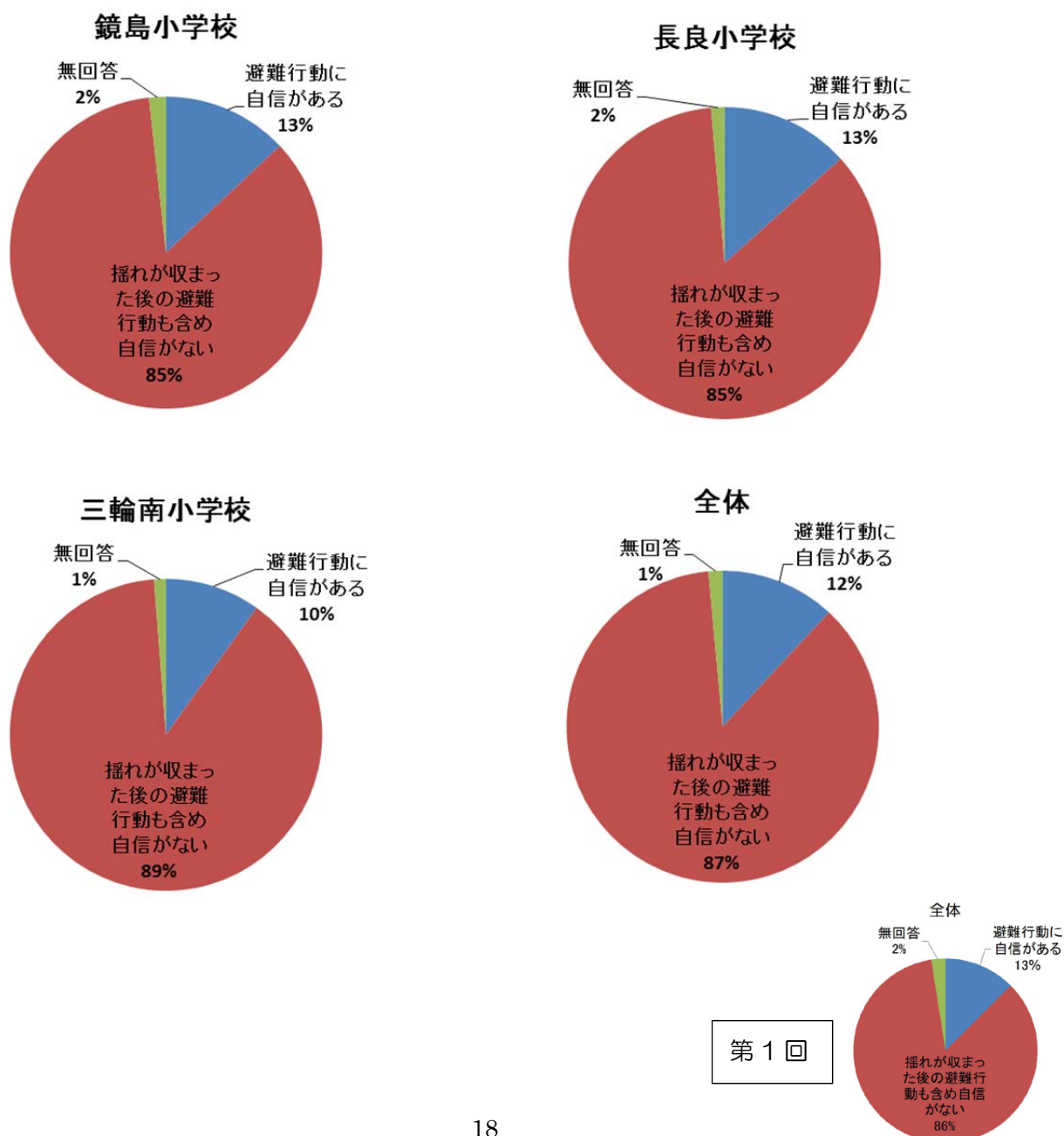
各小学校とも回答の比率は同じような傾向を示している。「知らない」と回答した人が8割近く、東日本大震災で注目された液状化や津波については認知が進んでいるものの、延焼火災についてはまだまだ認知されていない状況となっている。



## C. 地震が起きたら

1, 地震が起きたら、まず身体を守り（机の下にもぐる、頭を保護するなど）、揺れが収まったら無理のないように火の始末をし、脱出口を確保します。停電し、テレビの情報もない中、火災などの 2 次災害に備えて電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を閉めるなど、避難するまでの行動に自信がありますか？

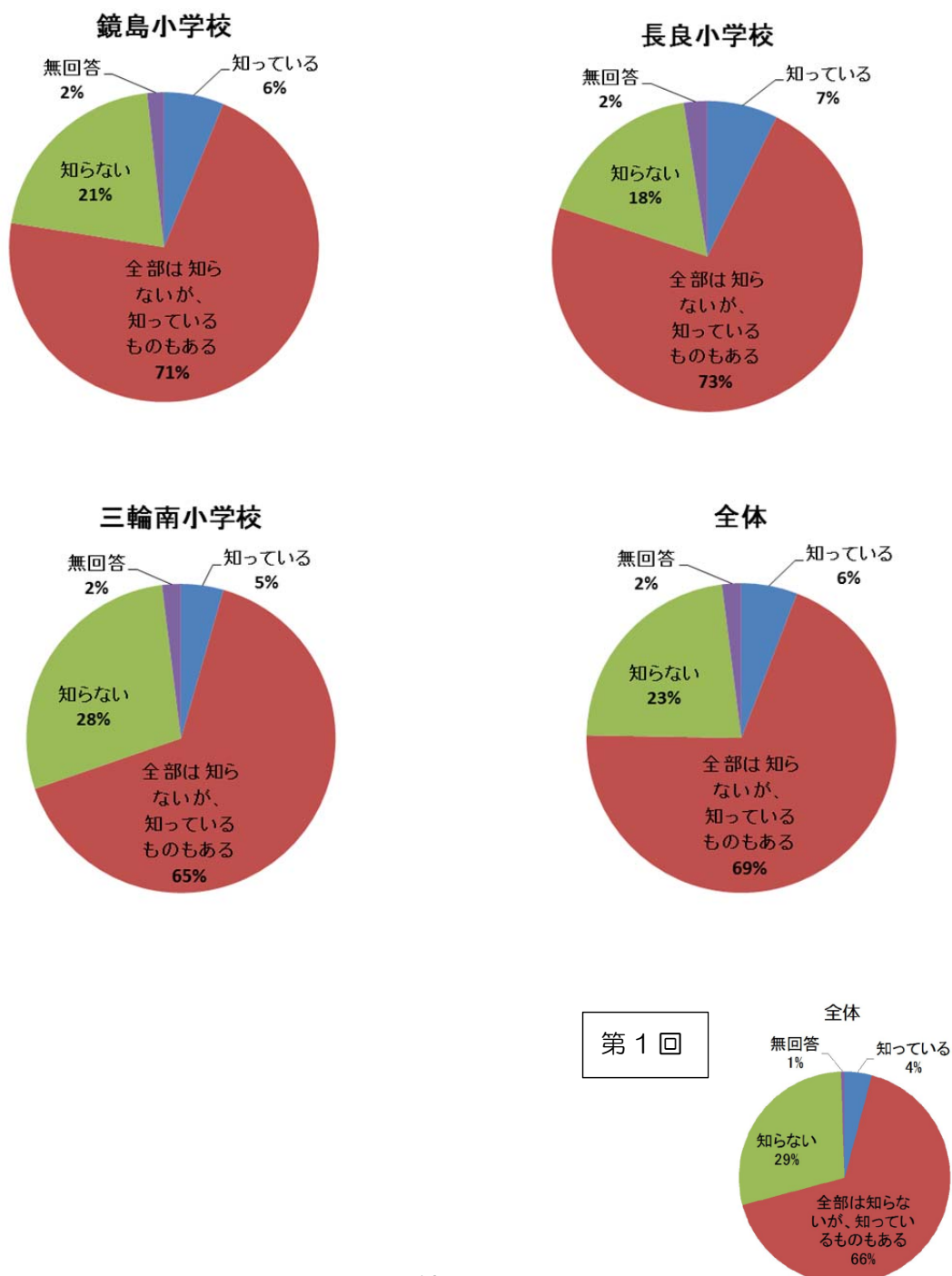
各小学校とも回答の比率は同じような傾向を示している。「避難行動に地震がある」と回答した人は全体の 12%しかなく、9 割近い人が「避難行動に自信がない」として不安を抱えている状況となっている。



## 2. 自動車の運転中、電車やバスに乗車中、買い物中、地下街、エレベーター内など、自宅以外で被災した場合にどのように行動すればよいか、知っていますか？

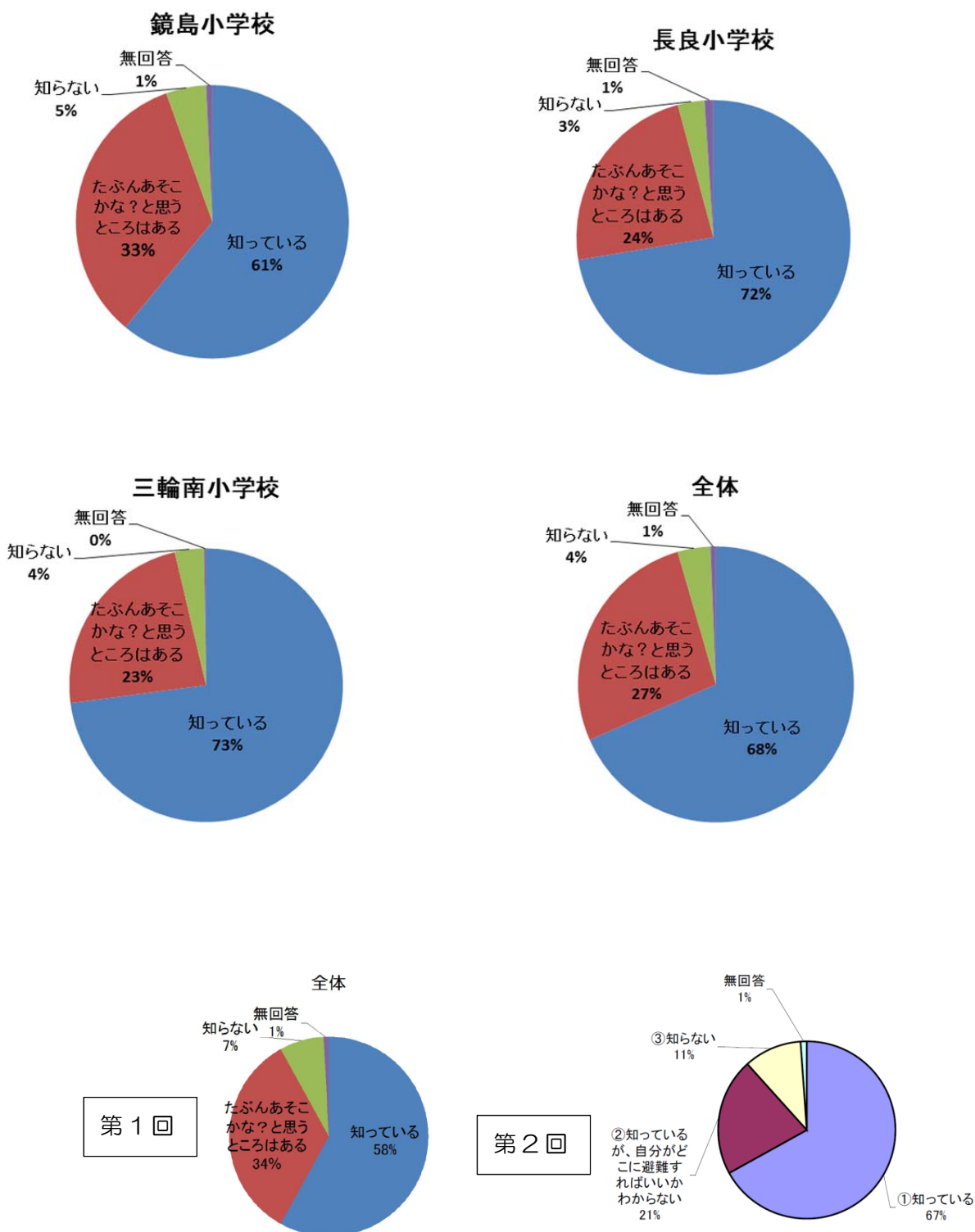
各小学校とも回答の比率は同じような傾向を示している。自宅以外で被災した場合の避難行動について「知っている」と回答した人は全体のわずか6%であった。

「全部は知らない」「知らない」を合わせると92%となり、被災した場面によっては9割以上の方が正しい避難行動がとれないということになる。



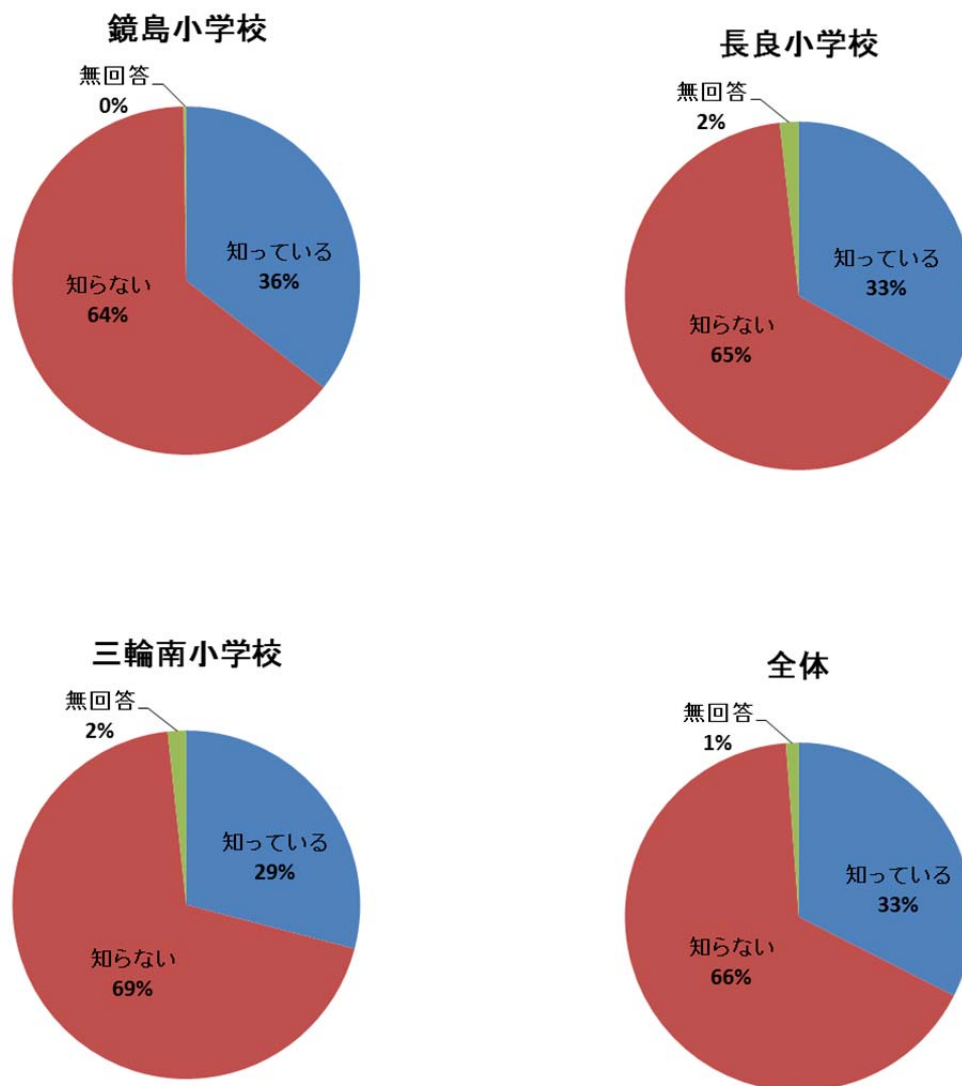
### 3. 自宅近くの避難所や避難場所がどこにあるか知っていますか？

各小学校とも回答の比率は同じような傾向を示している。「たぶん」知っている人を含めると、全体の95%の人は避難所の見当が付いている。



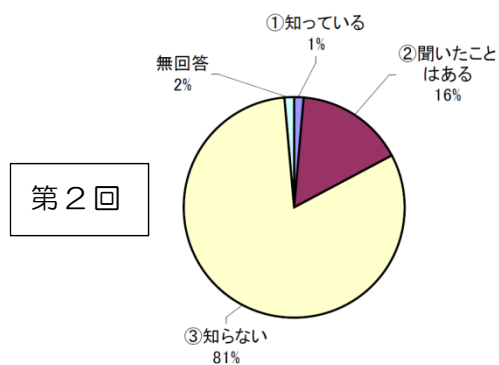
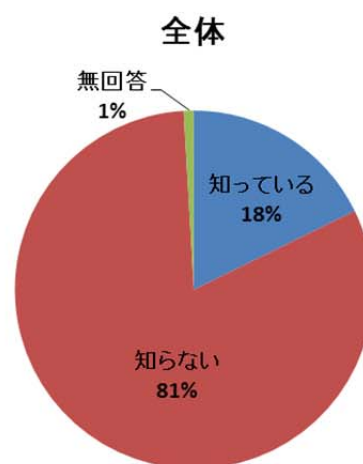
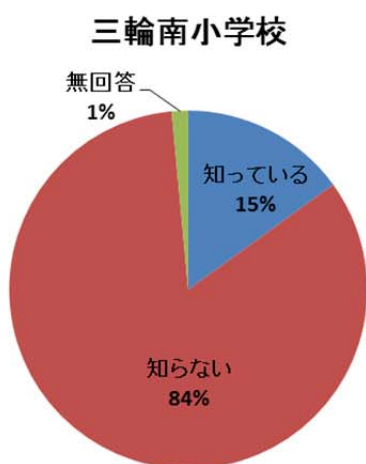
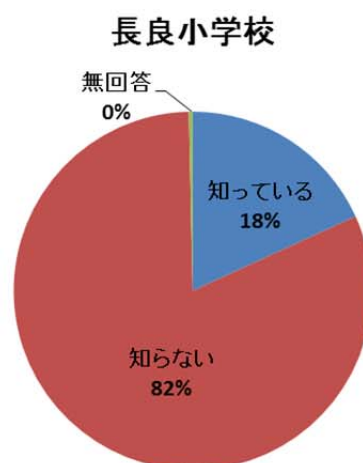
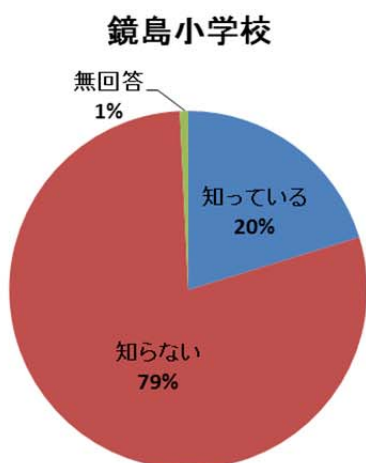
#### 4. 災害時に診療してもらえる近くの医療施設を知っていますか？

各小学校とも回答の比率は同じような傾向を示している。全体では66%の人が「知らない」と回答しており、問3の「避難所」と比べ、医療施設については認知が進んでいない状況となっている。



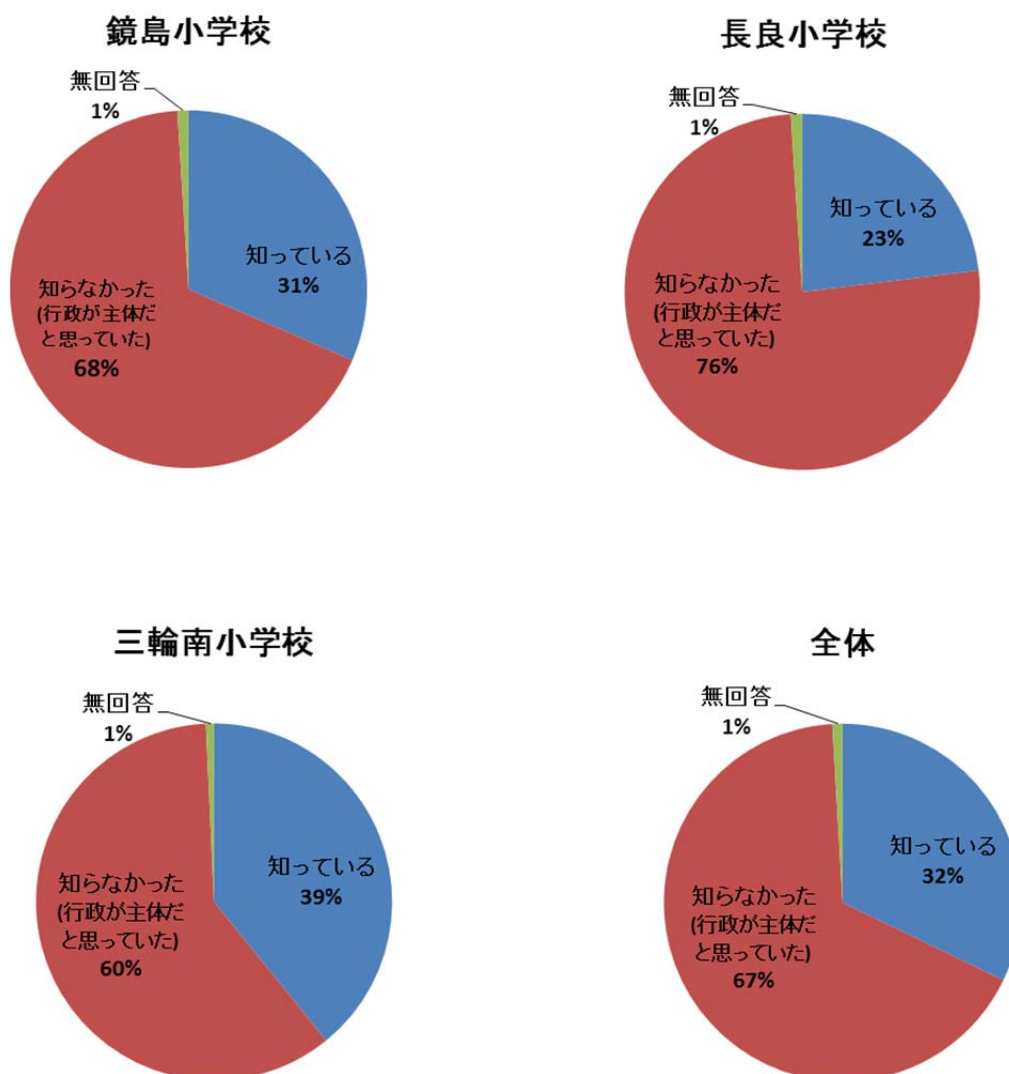
5. 岐阜市では、災害時に各指定拠点避難所、コミュニティーセンターに物資を備蓄しています。避難所やコミュニティーセンターにはどんな備蓄品があるか知っていますか？

各小学校とも回答の比率は同じような傾向を示している。全体では「知らない」と回答した人が81%と8割を超え、避難所の場所はわかっているものの、避難所にどのような物資が備蓄されているかは知られていない状況である。



## 6. 避難所の運営は、地域が主体となって行うことを知っていましたか？

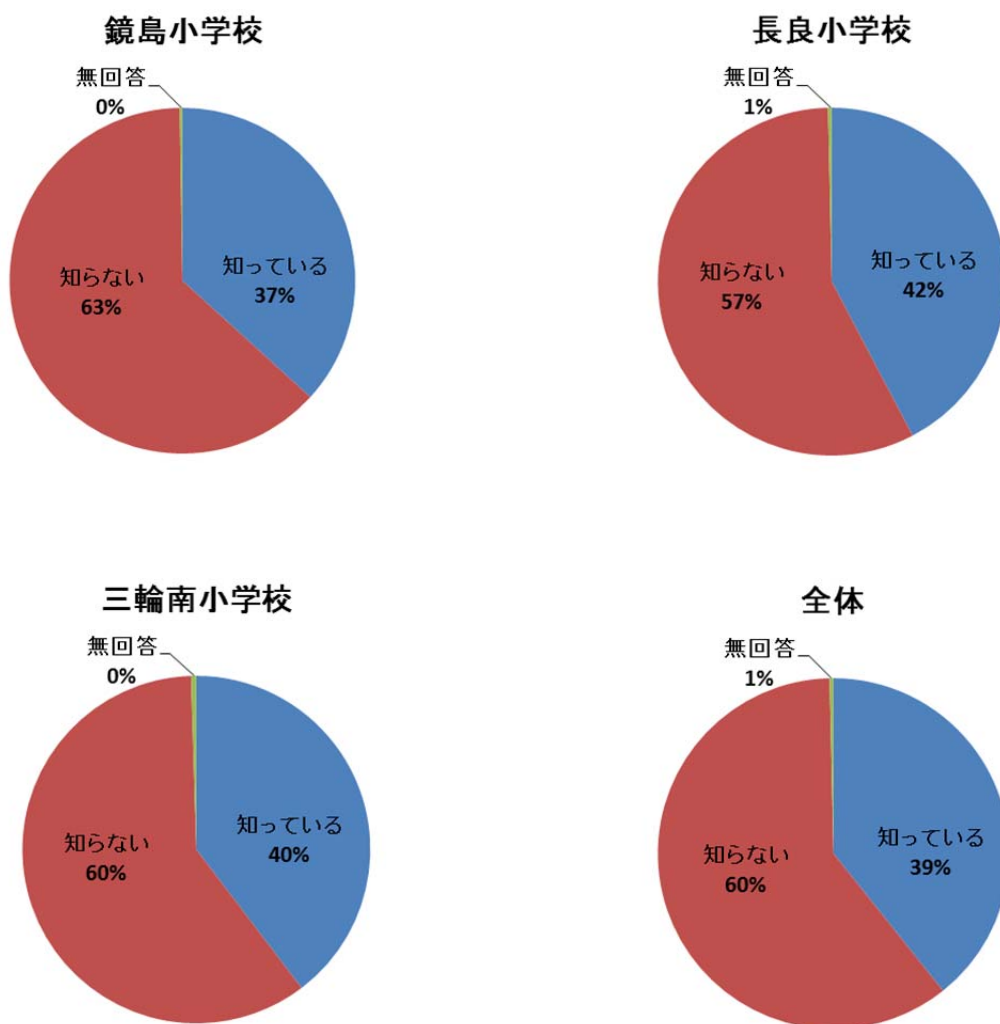
各小学校とも回答の比率は同じような傾向を示しているが、長良小学校で若干「知っている」と回答した人の割合が少なくなっている。全体では、避難所の運営は行政（市役所）が主体となって行うと思っていた人は7割近く、自分の地域の避難所の運営を自分達で行うという「自助」「共助」の意識はまだ希薄であることがわかる。





7. 災害発生時には、信頼できる情報源から正しい情報を仕入れることが重要です。  
 岐阜市からの情報入手方法について知っていますか？

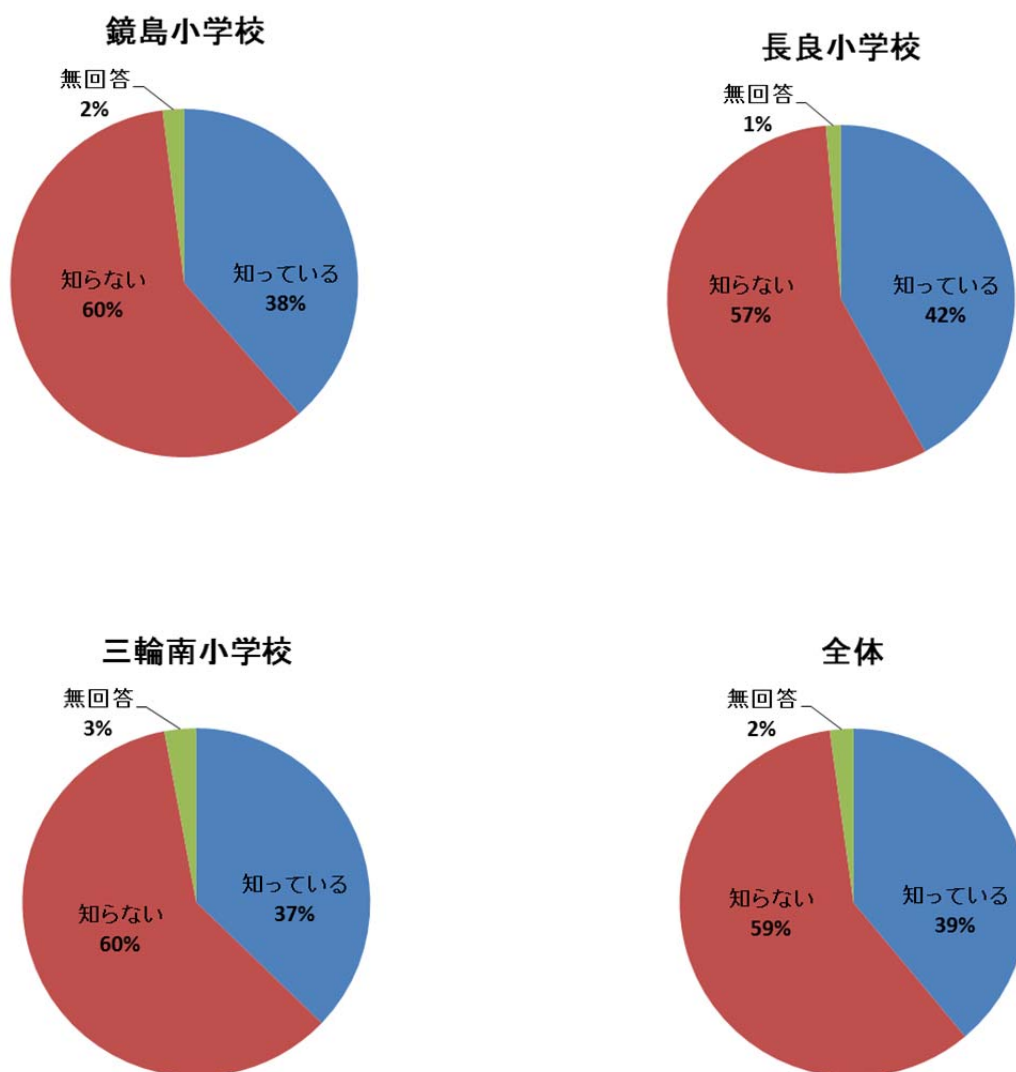
各小学校とも回答の比率は同じような傾向を示している。災害時に信頼できる情報源から正しい情報を入手できる人は4割にとどまる。歴史的に大きな災害時にはデマによる混乱も多く見られたが、その教訓が生かされていない状況となっている。



8. 岐阜市において、携帯電話のメールアドレスを登録しておく、防災情報（市内の気象情報、県内の地震情報、市内の災害情報など）が配信されることを知っていますか？

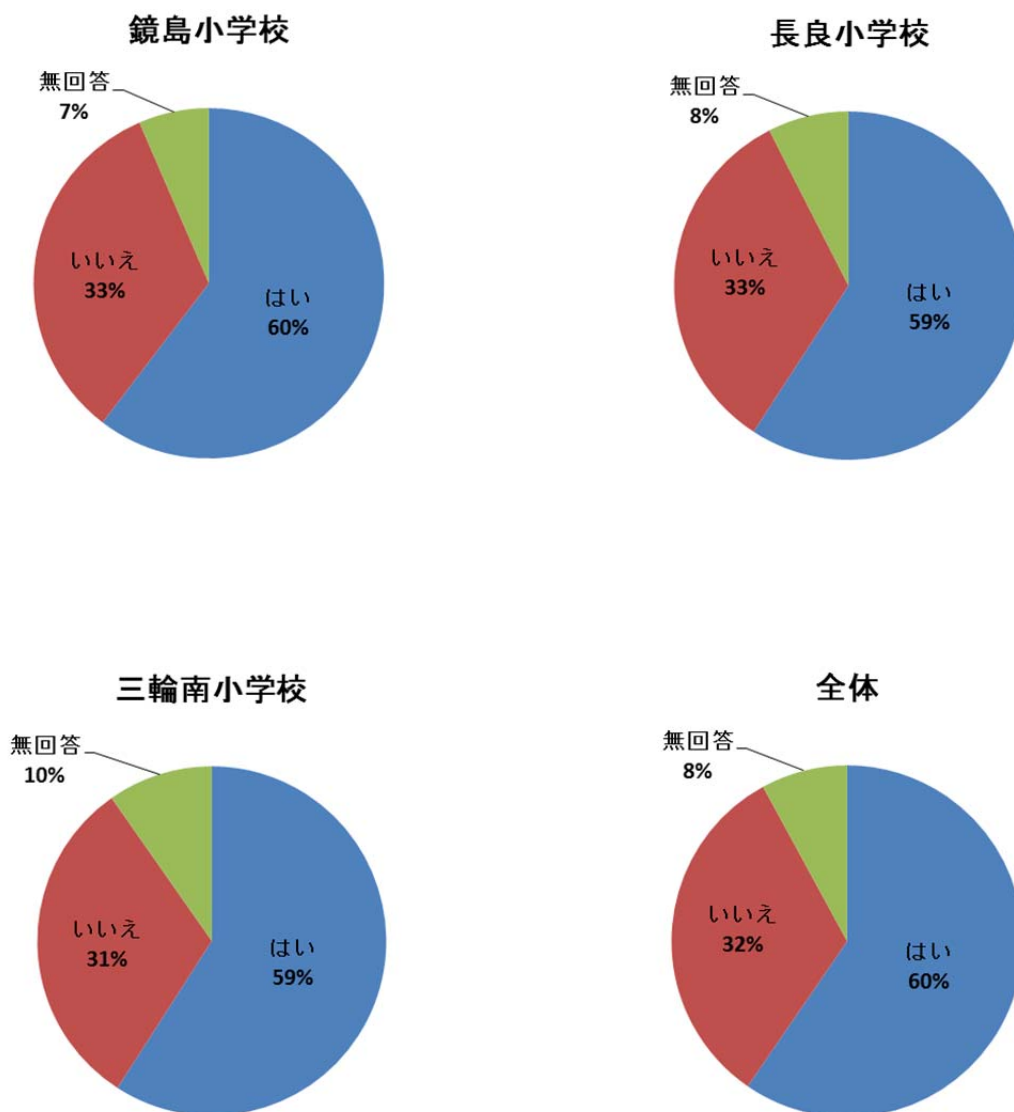
各小学校とも回答の比率は同じような傾向を示している。全体では6割近い人が「知らない」と回答しており、認知が進んでいない状況となっている。

登録していたが夜中に情報が届くのがわずらわしく解除してしまったという意見もあった一方、このアンケートを読んで登録したという嬉しい意見も見られた。



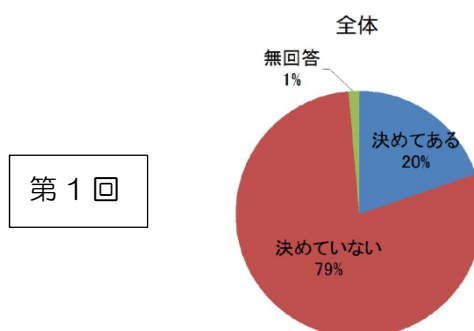
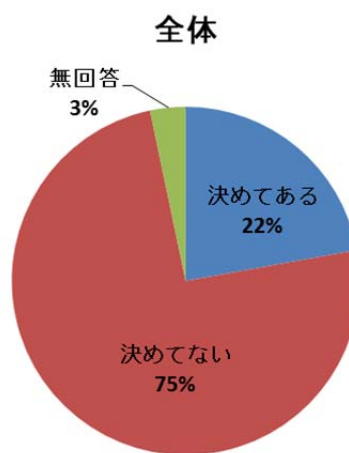
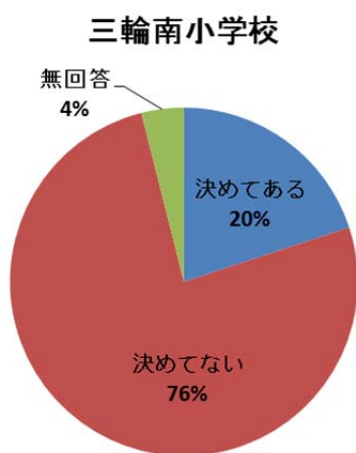
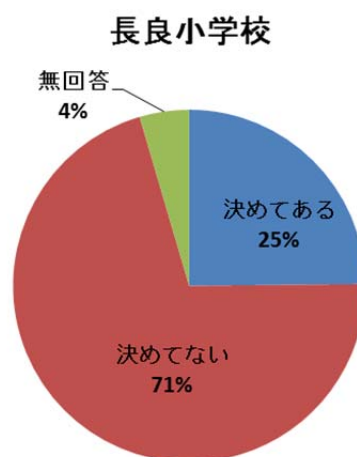
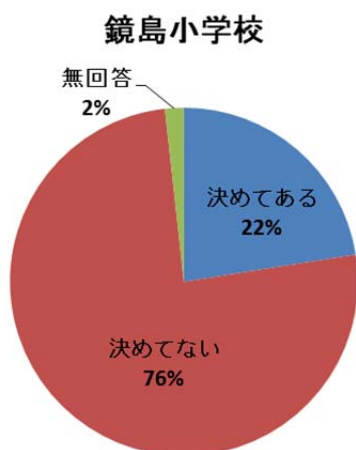
9. 質問 8 で①と回答された方に伺います。情報が届くよう、携帯電話のメールアドレスを登録していますか？

各小学校とも回答の比率は同じような傾向を示している。携帯電話のメールアドレスを登録しておく、防災情報が配信されることを知っていると回答した人の6割は、実際に登録していた。まずは、「登録すると防災情報が配信される」ことを多くの人に知ってもらうことが重要であると言える。



## 10、外出中に被災して帰宅困難者になった場合、家族との連絡方法は決めてありますか？

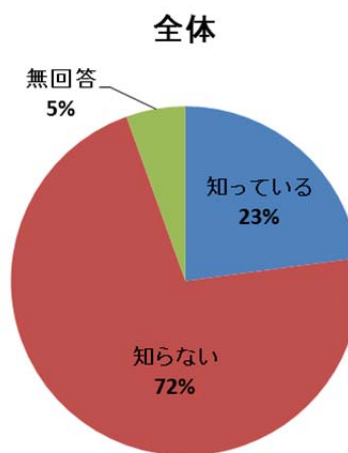
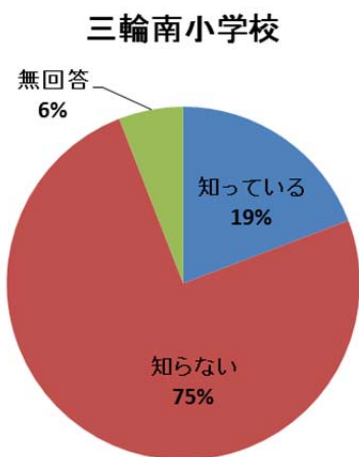
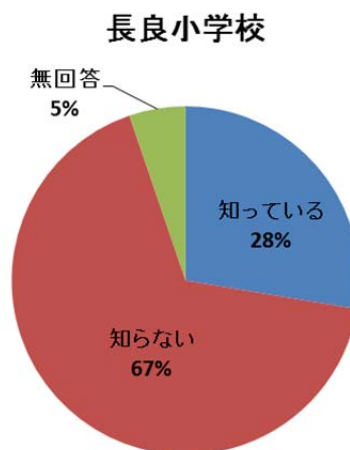
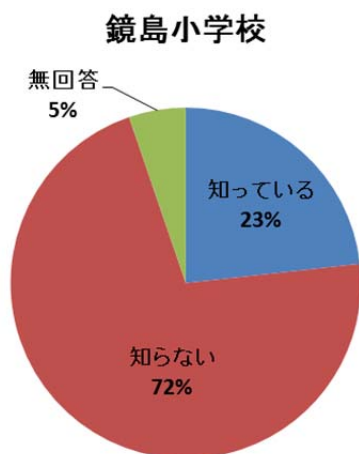
各小学校とも回答の比率は同じような傾向を示している。全体では「決めていない」と回答した人は 75%にのぼる。問 2 で、外出先で被災した場合どのように避難行動を取れば良いか「全部は知らない」「知らない」と答えた人を合わせると 92%となったことから、多くの人が外出先で被災した場合について、日頃から想定していないということがうかがえる。



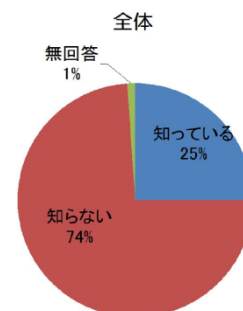
第 1 回

## 11. 災害伝言ダイヤルの番号と使い方を知っていますか？

各小学校とも回答の比率は同じような傾向を示している。「知っている」と回答した人は全体の4分の1程度の23%に過ぎない。災害伝言ダイヤルは災害時に家族と連絡を取る有効な手段であるため、一層の認知向上が求められる。問2、問10からもうかがえるが、多くの人が想定している被災状況は自宅で家族が揃っている時であると思われる。



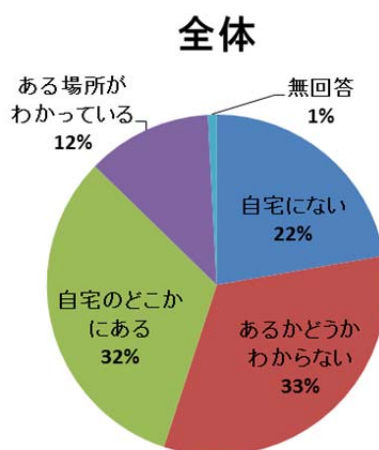
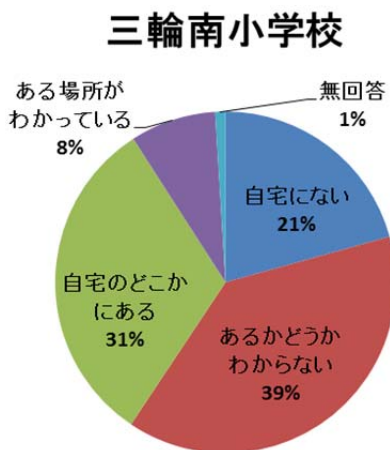
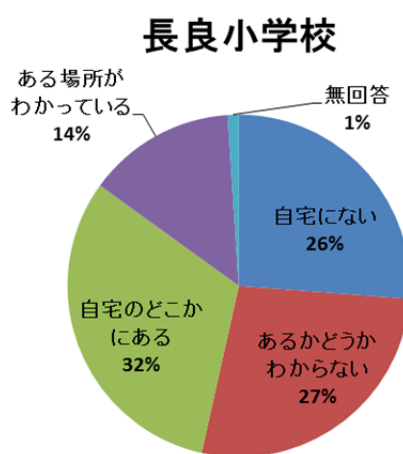
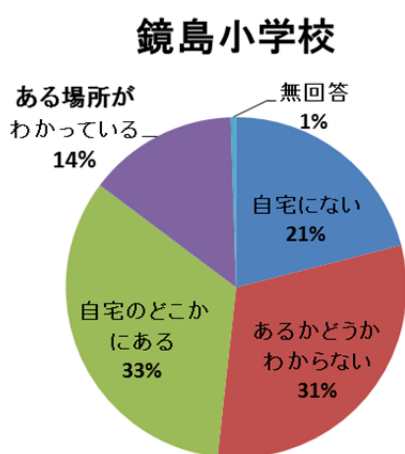
第1回



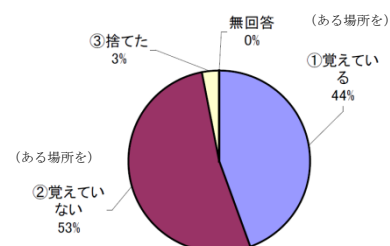
## D. 災害への備えについて

### 1, 平成 20 年に岐阜市から全ご家庭に配布された「地震ハザードマップ」をお持ちですか？

各小学校とも回答の比率は同じような傾向を示している。「ある場所がわかっている」と回答した人は 12%と少なく、「自宅のどこかにある」は 32%、「自宅にない」は 22%、「あるかどうか分からない」は 33%で、すぐに取り出せない状況にある人は全体の 87%にのぼり、ほとんど有効活用されていない現状が浮き彫りとなっている。



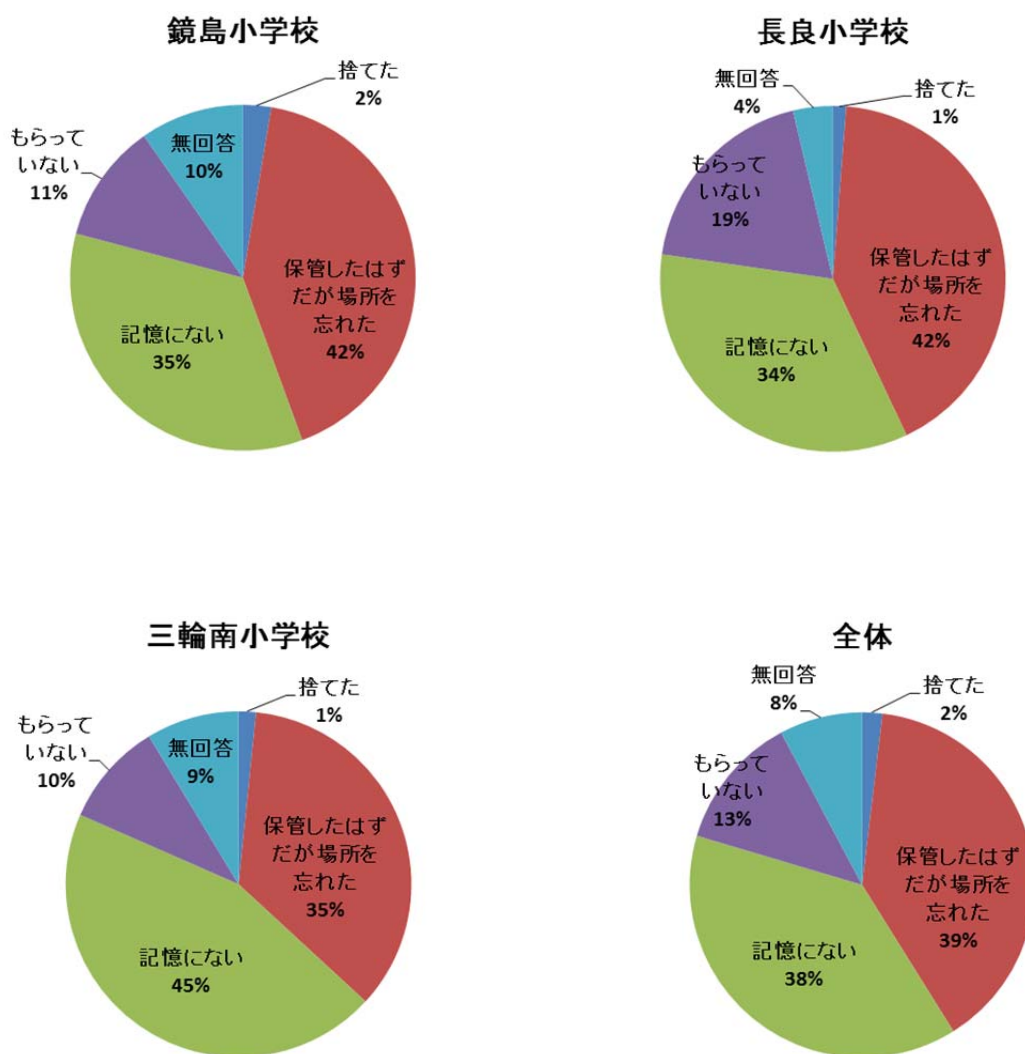
### 第 2 回



## 2. 質問 1 で④以外の方に伺います。なぜ、紛失してしまったのでしょうか？

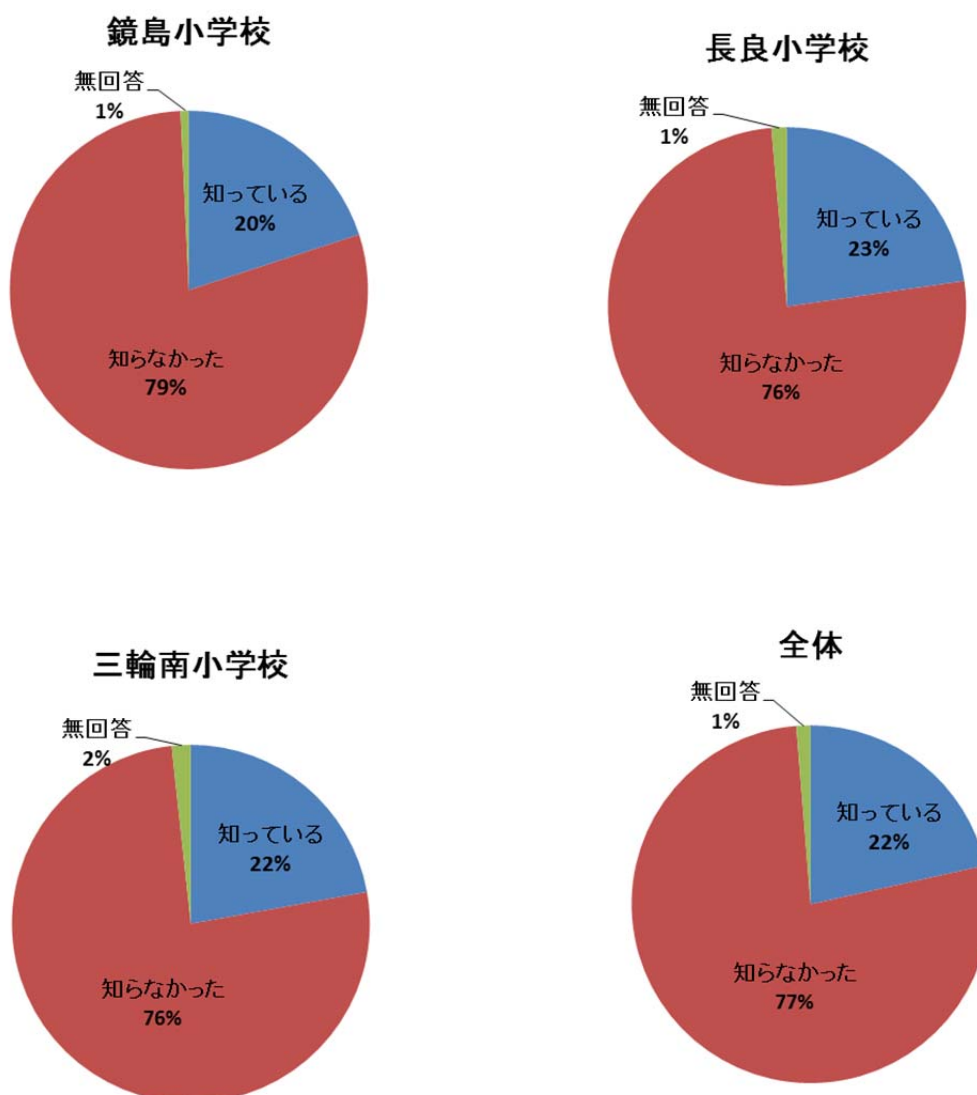
各小学校とも回答の比率は同じような傾向を示している。はっきりと「捨てた」と回答した人は 2%で、「確実に不要なもの」という意識は低いと考えられる。

しかし、「保管したはずだが場所を忘れた」人が 39%、もらったことを「記憶にない」人が 38%と、全体の約 8 割で、「命に関わる重要なもの」という意識も低いと考えられる。



### 3. 地震ハザードマップが配布された後に、東日本大震災が起こり、岐阜県でも被害の想定地震が巨大化されました。ご存じでしたか？

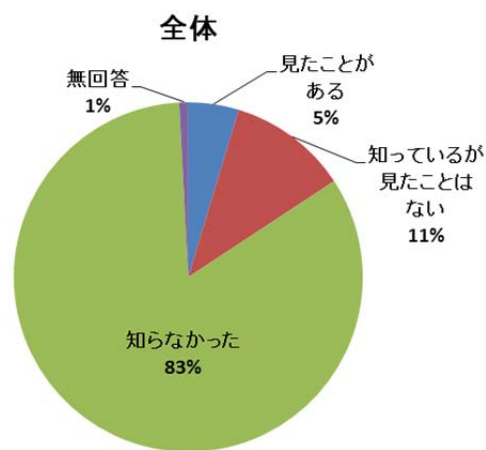
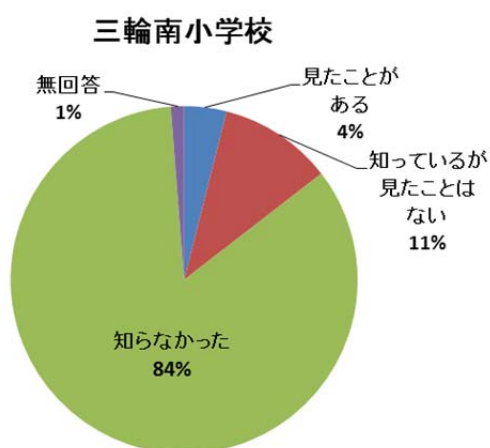
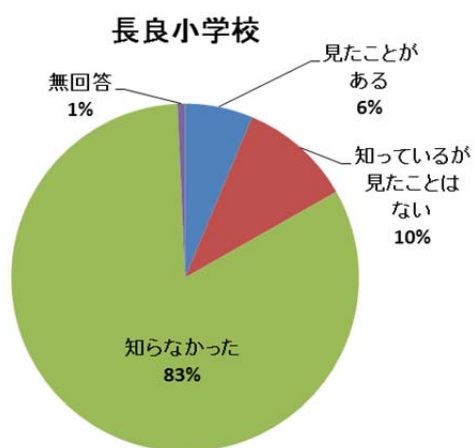
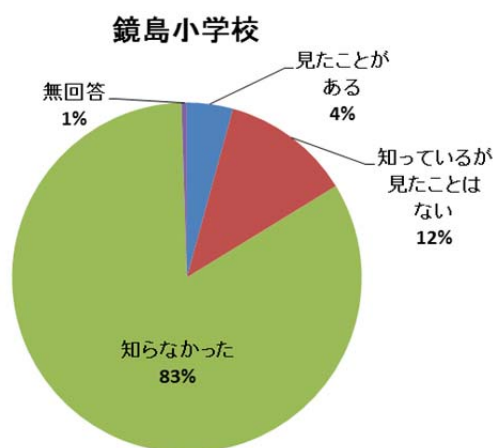
各小学校とも回答の比率は同じような傾向を示している。「知らなかった」と回答した人は77%と、全体の8割近く、ほとんど認知されていないと言える。





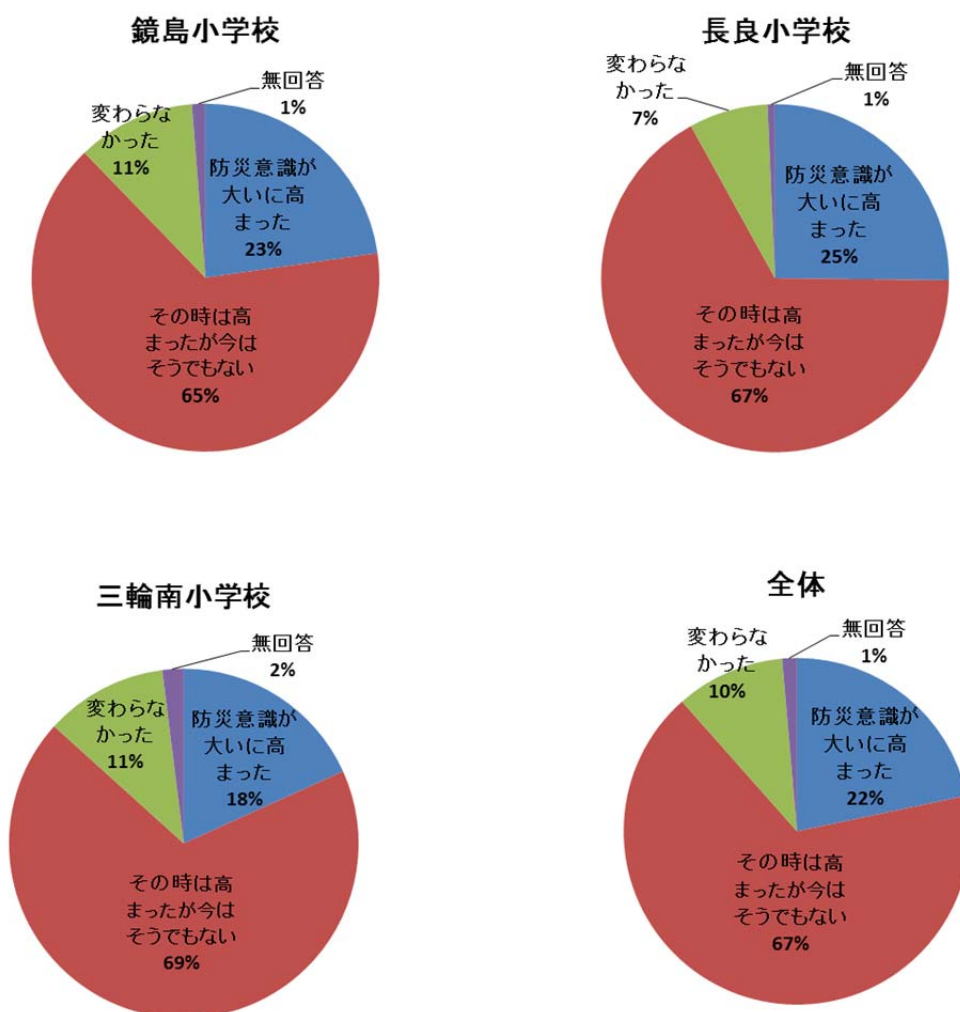
4. 岐阜市のHPでは、新たな被害想定地震ハザードマップを公開しています。  
ご存じでしたか？

各小学校とも回答の比率は同じような傾向を示している。「見たことがある」と回答した人は全体のわずか5%で、「知っているが見たことはない」11%、「知らなかった」83%を合わせると94%の人が新しい地震ハザードマップを見ていないということになる。



## 5. 東日本大震災を機に防災意識に変化はありましたか？

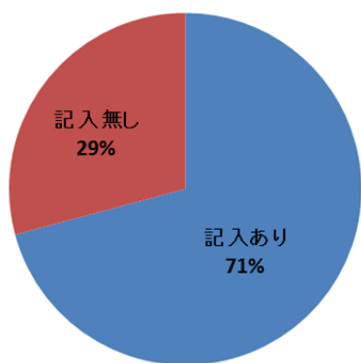
各小学校とも回答の比率は同じような傾向を示している。「防災意識が大いに高まった」22%、「その時は高まったが今はそうでもない」67%を合わせると9割近い人が、東日本大震災直後は防災意識が高まったとしている。しかし、現在も「意識が高まった」ままの人は2割程度ということで、どれほど大きな災害を目の当たりにしても日常生活を送るうちに意識は薄れていくことがわかる。防災意識を高く保ったままにするためには、定期的・持続的な啓蒙活動が必要であると思われる。



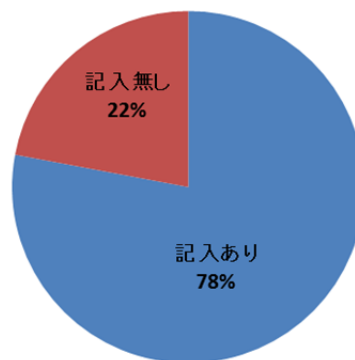
6. 問「5」で、①または②と答えた方、具体的にどのような行動を取られましたか？

長良小学校が最も記入率が高く 78%、次いで三輪南小学校が 73%、鏡島小学校が 71%となっている。一般的にアンケートに対する自由記述の回答率はあまり高くないと言われているが、全体で 7 割以上の方が回答を寄せており、東日本大震災を機に「具体的な」防災行動をとった人の多さがうかがえる。また、アンケートに真摯にご回答いただいていることが表れており、大変有り難いことである。

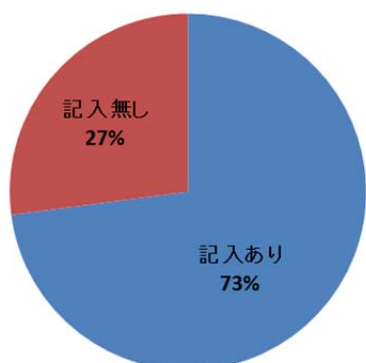
鏡島小学校



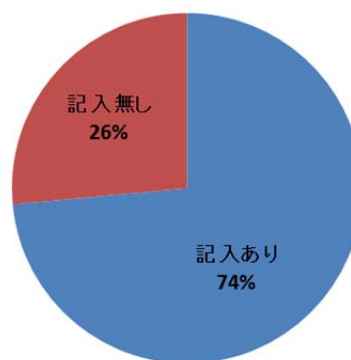
長良小学校



三輪南小学校



全体

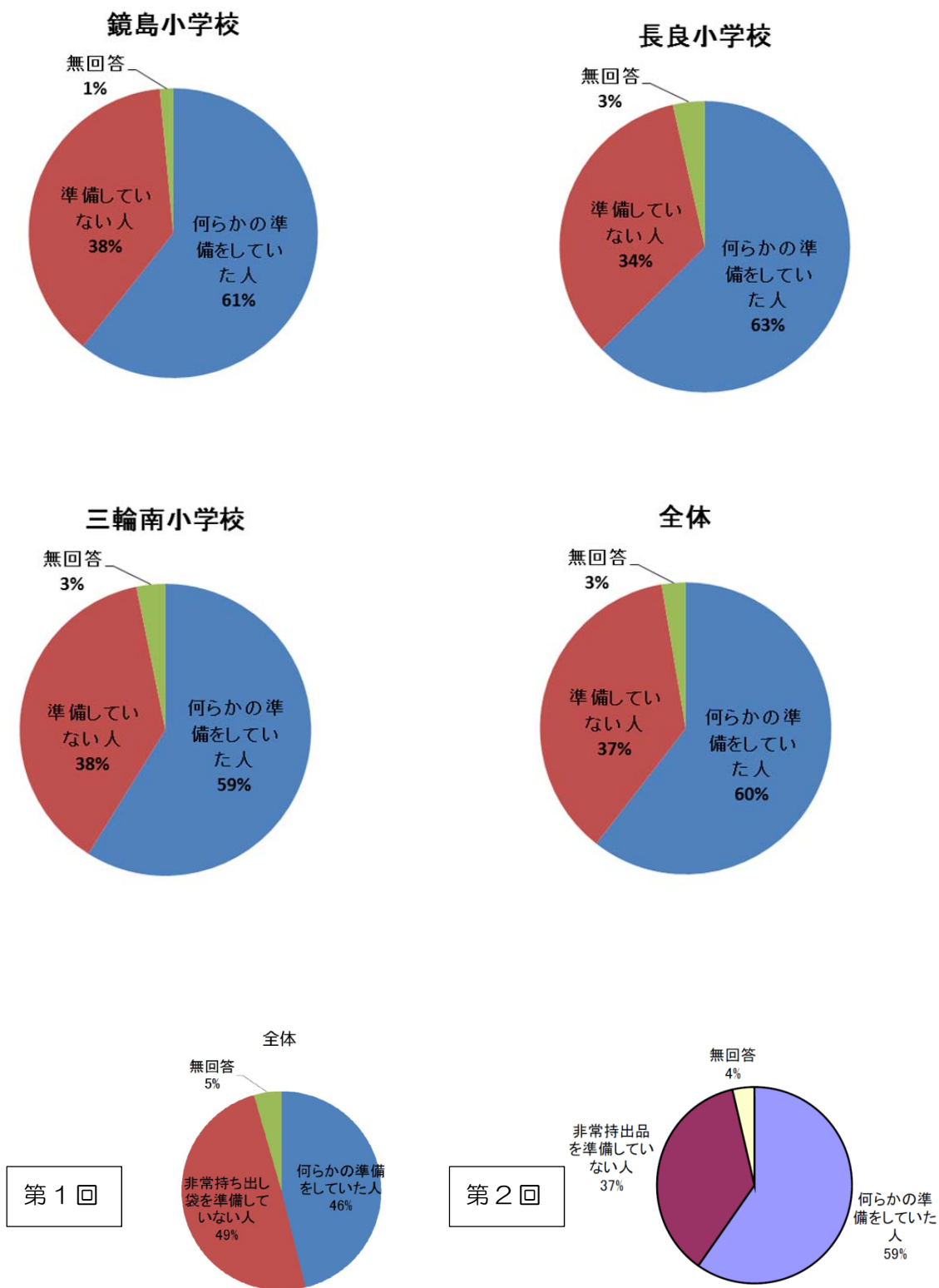


回答が非常に多いので、参考資料として添付することとし、ここでは主な具体的にとった防災行動と類似の回答数を以下の表にまとめる。

主な「具体的にとった防災行動」	件数
備蓄をした（増やした、見直した）	248
非常持ち出し袋（品）を用意した	197
防災グッズを購入した（確認した、見に行った）	71
家族で話し合いをした	59
避難所の確認をした	28
防災に対する意識が変わった（高まった）	33
家具の転倒防止や配置変え、家の耐震化など行った	37
行動していない	24
その他	14

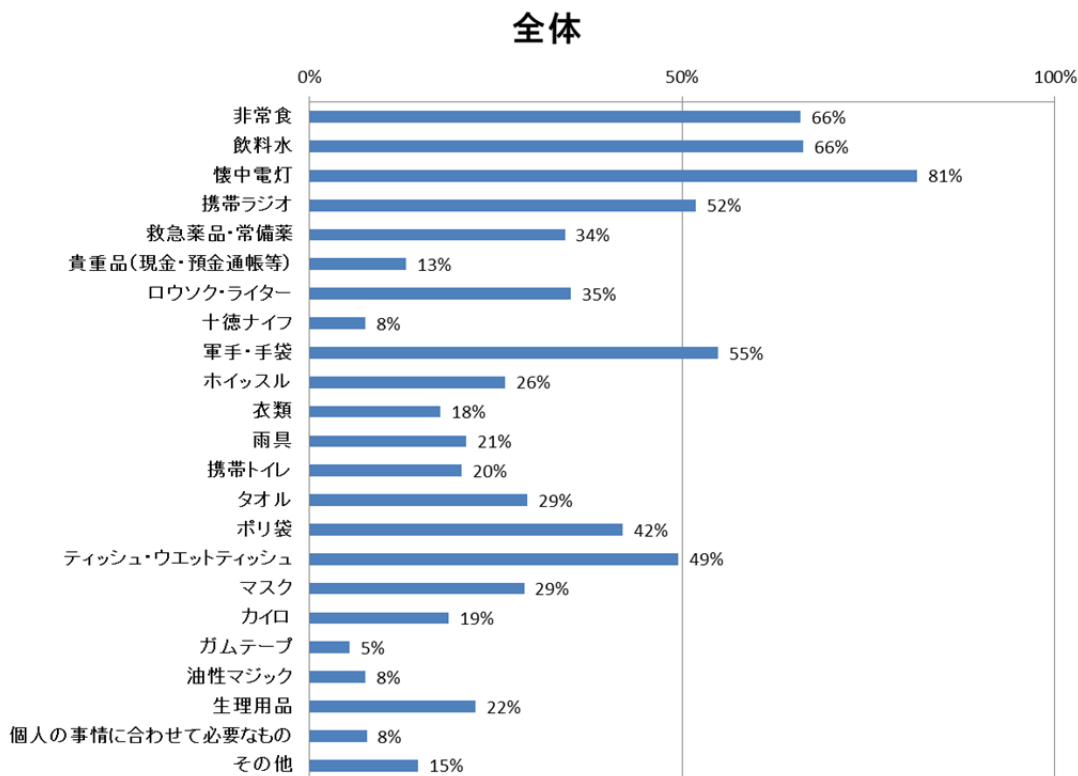
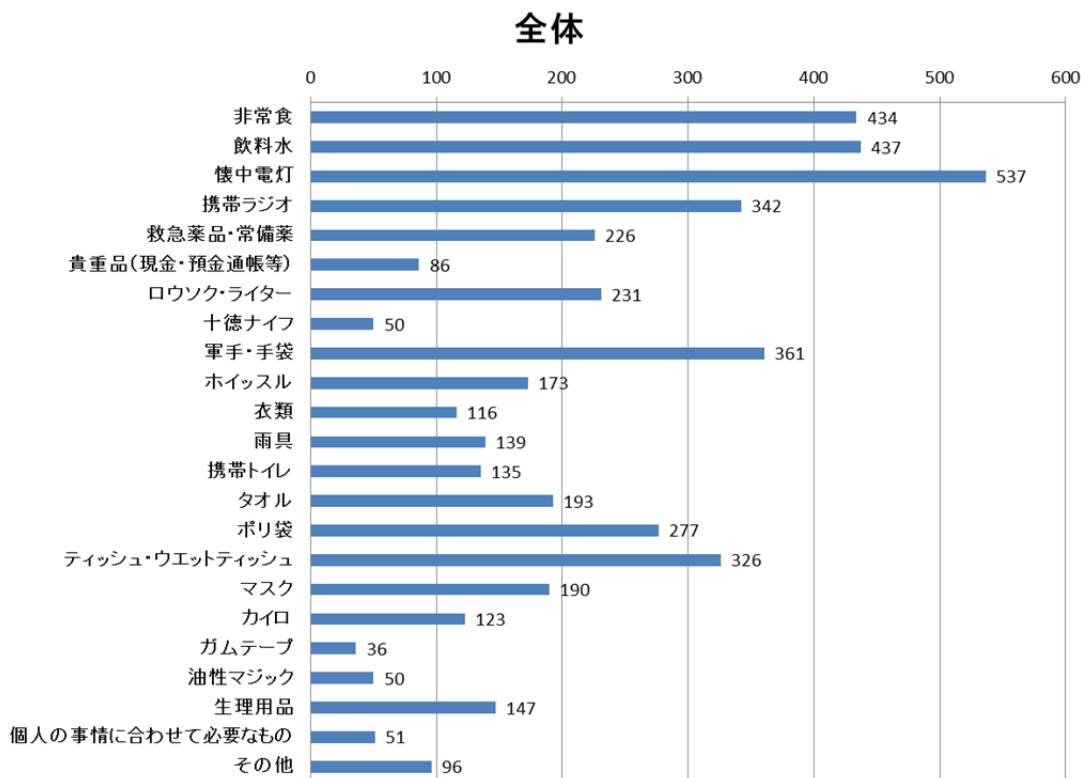
## 7. 非常持ち出し袋に以下のものを準備していますか？（〇いくつでも）

各小学校とも回答の比率は同じような傾向を示している。何か1つでも「準備していた」人は全体の6割で、「準備をしていない」人の37%を大きく上回っている。



上のグラフは回答数を表しており、下のグラフは「何か一つでも準備をしている」人を総数とした回答比率（%）を表している。

非常持ち出し品で最も多かったのは「懐中電灯」(537 回答)で、これは準備をしている人の81%にあたる。次いで66%の人が「非常食」「飲料水」を準備しており、「軍手・手袋」55%、「携帯ラジオ」52%、「ティッシュ・ウエットティッシュ」49%と続いている。



「その他」の自由記述では、以下の意見があった。

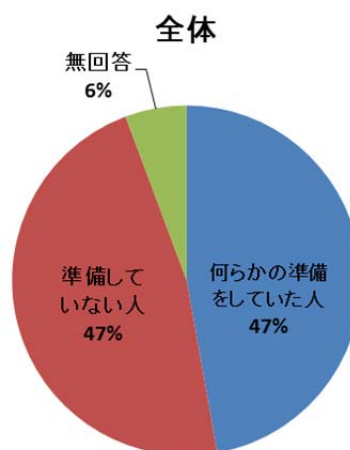
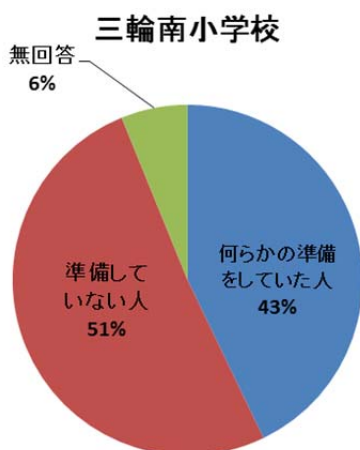
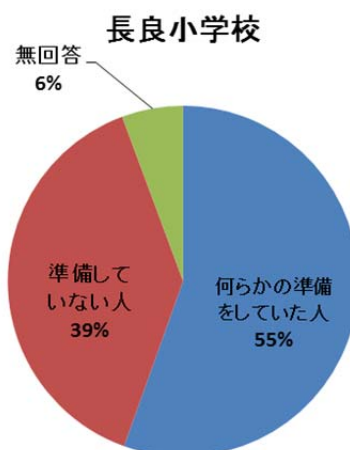
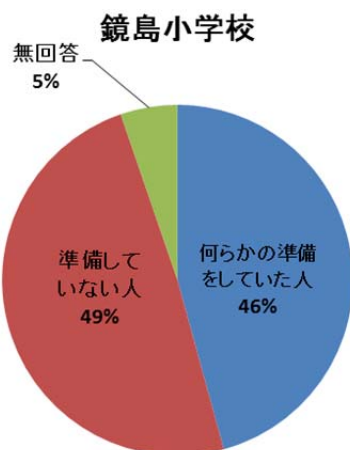
非常持ち出し品	件数
ラップ	38
保温シート	16
コップ（紙コップ）	8
スリッパ	8
紙皿	7
ひも、ロープ	7
毛布	6
歯ブラシ（歯磨き用品）	6
筆記用具	6
キャンプ用品	5
靴	5
アルミホイル	4
寝袋	4
カセットコンロ	4
ヘルメット	3
スプーン、はし	3
応急手当用品（絆創膏、消毒液など）	3
眼鏡	3
テント	3
ゴミ袋	3
オムツ	3
保険証のコピー、番号のメモ	2
ペット用品	2
水を入れるタンク	2
充電器	2
水なし使用シャンプー	1
地図	1
防災ずきん	1
ハンマー	1
新聞紙	1
下着	1
家族の生年月日、常備薬の名前、通帳の番号等を控えている	1
尿を固める粉末の薬	1
防犯ブザー	1
石けん	1
小銭	1
家族や親戚の連絡先を書いたメモ	1
耳栓、アイマスク	1
トイレットペーパー	1
ライフジャケット	1
浄水器	1
ブレンダー	1
非常脱出器具（スコップ、レンチ）	1

- ・家族全員分を色々準備しようとするのとたくさんで何個にも袋がなくなってしまふ。非常時にそんなにたくさん持ち出せない。
- ・中身のチェックを怠っているの見直す必要がある。
- ・自宅に準備はありますが非常時に持ち出すことは考えなくなりました。
- ・頭では分かっているけど何をしたいか分からない。
- ・物置に用意してある。      ・家の倉庫に準備してある。

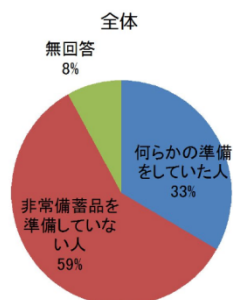
## 8. 非常備蓄品を用意していますか？（〇いくつでも）

各小学校とも回答の比率は同じような傾向を示している。何か1つでも準備していた人は全体の47%であった。問7の非常持ち出し袋の準備より、13%低くなっている。

多くの人々が、地震後には避難所に行くことを想定しており、災害後に自宅で生活するための備蓄をしている人の割合は半数以下であるということがわかる。



第1回

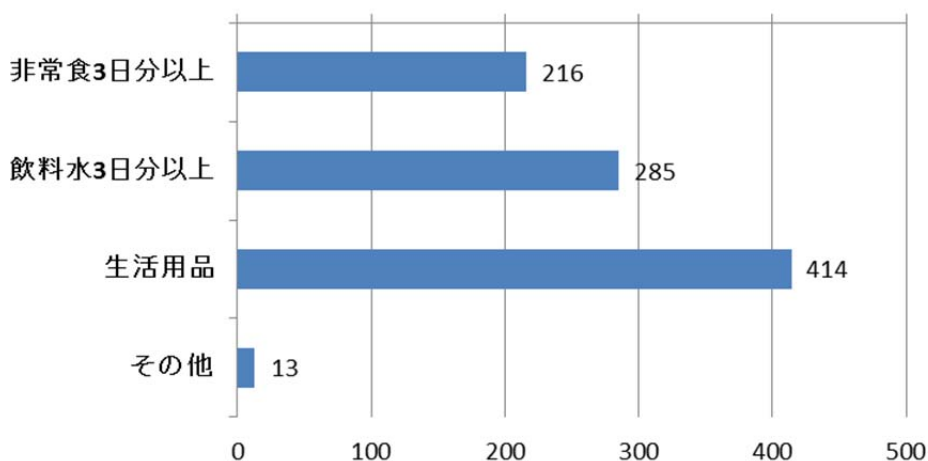




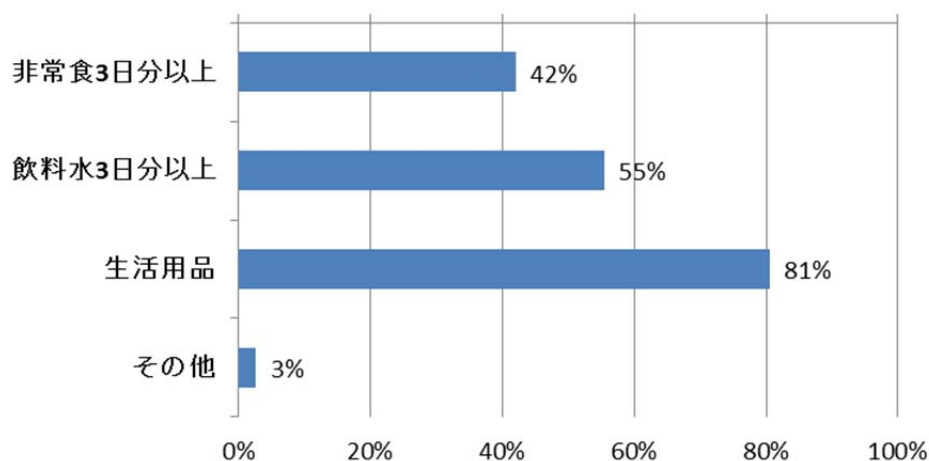
上のグラフは回答数を表しており、下のグラフは「何か一つでも準備をしている」人を総数とした回答比率（％）を表している。

非常持ち出し品で最も多かったのは「生活用品」（414 回答）で、これは準備をしている人の 81％にあたる。「飲料水 3 日分以上」を準備している人は 55％で、「非常食 3 日分以上」は 42％であった。

### 全体



### 全体

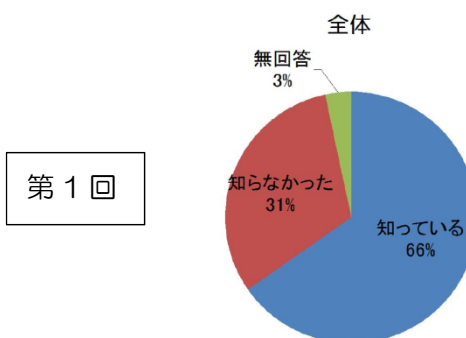
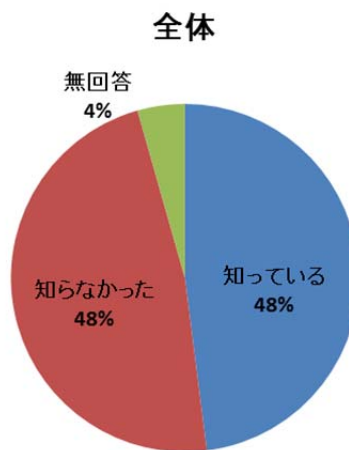
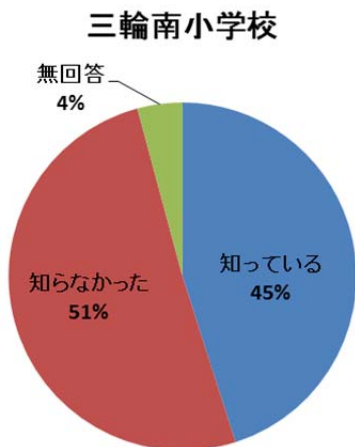
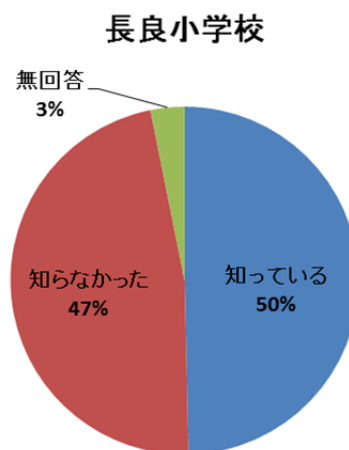
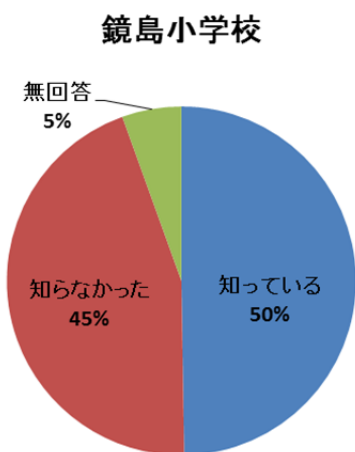


「その他」の自由記述では、以下の意見があった。

- 2日分しかない
- 3日分は無いと思うが、若干、非常食、飲料水は用意してある
- 非常用ランタン（LED）
- 縄はしご
- 簡易トイレ
- 石油ストーブ
- キャンプテント、ヘルメット、靴、デッキ、長靴
- キャンプ用バーベキューコンロ、飲料水用ポリタンク、アルミ毛布、非常用電灯  
手動式洗濯機
- ゴミ袋
- アルミシート
- 一日分だけ
- ヘルメット
- オムツ、救急薬
- 眼鏡
- まとめていない

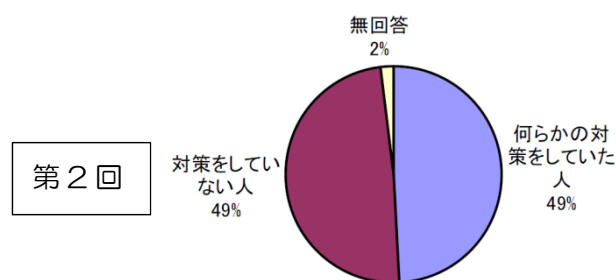
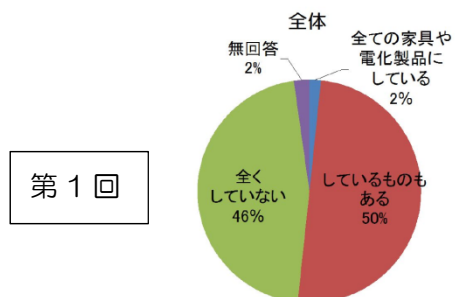
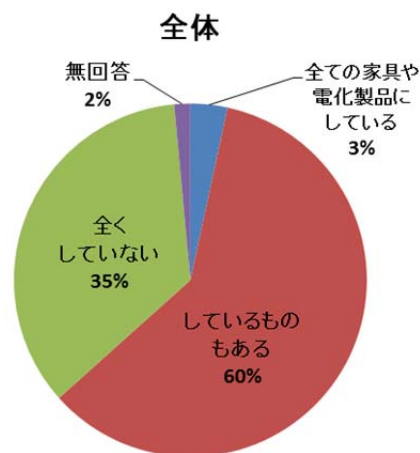
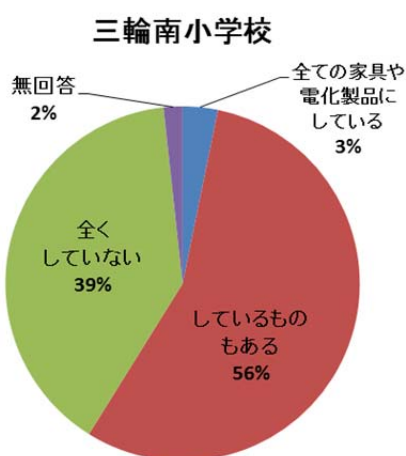
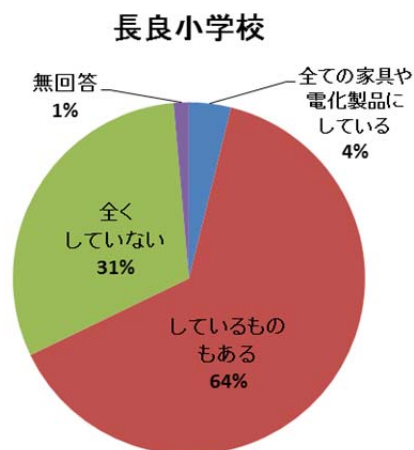
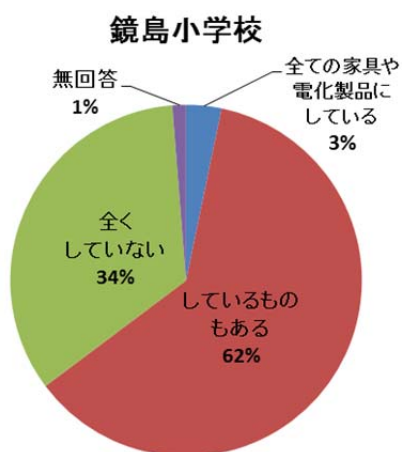
9. 阪神淡路大震災では、約 8 割の方が家具や家屋の倒壊で圧死・窒息死されたと知っていましたか？

各小学校とも回答の比率は同じような傾向を示している。「知っている」と回答した人と「知らなかった」と回答した人が半数ずつという結果になった。



## 10. 家具や電化製品の転倒落下防止をしていますか？

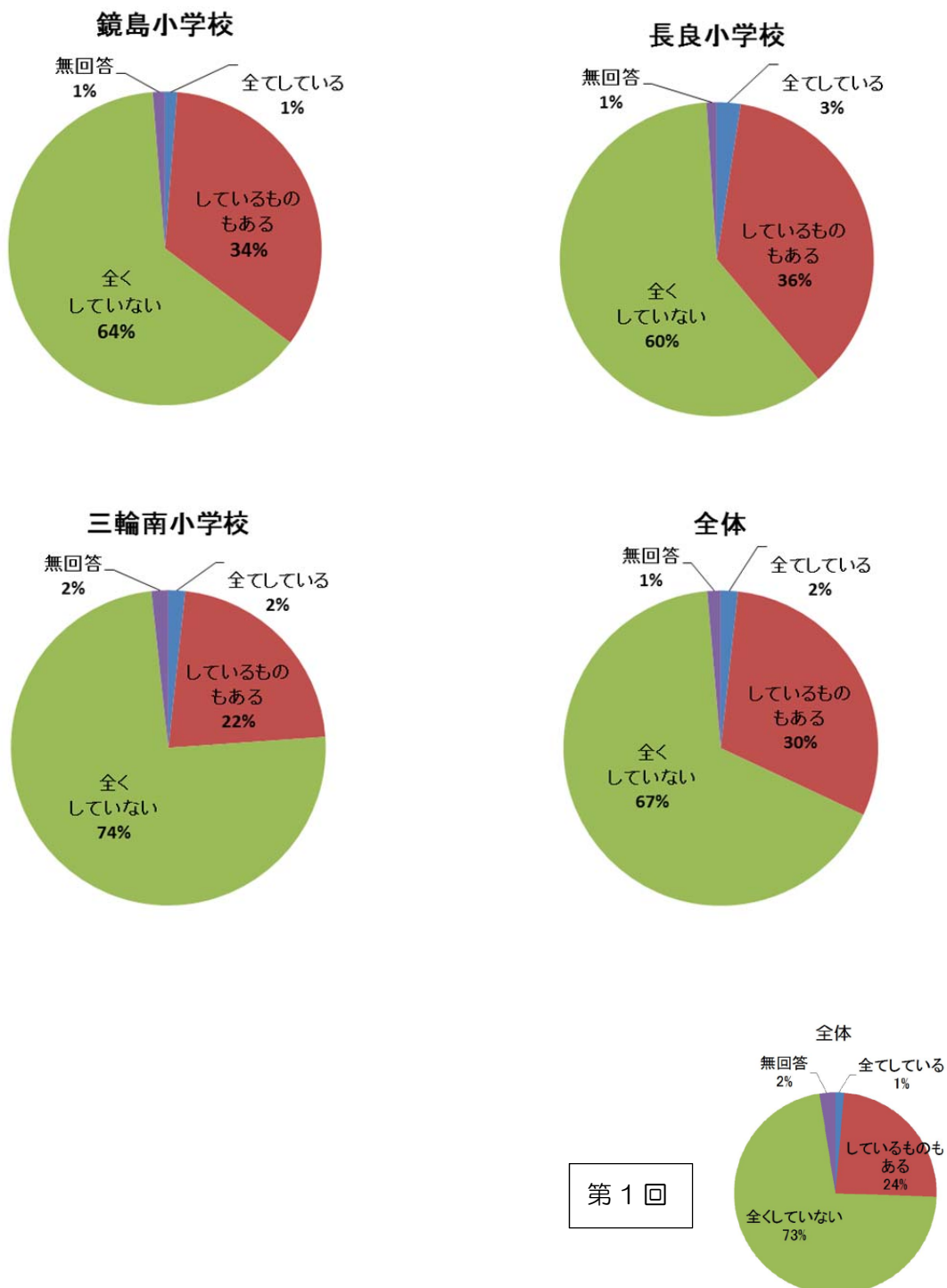
各小学校とも回答の比率は同じような傾向を示している。「全ての家具や電化製品にしている」と回答した人は全体の3%と少ない。しかし、「しているものもある」と回答した人は全体の60%あり、6割の人が何らかの対策を講じている。全く対策をしていない人は35%となっている。



## 11. 窓や戸棚、額縁などのガラスの飛散防止対策をしていますか？

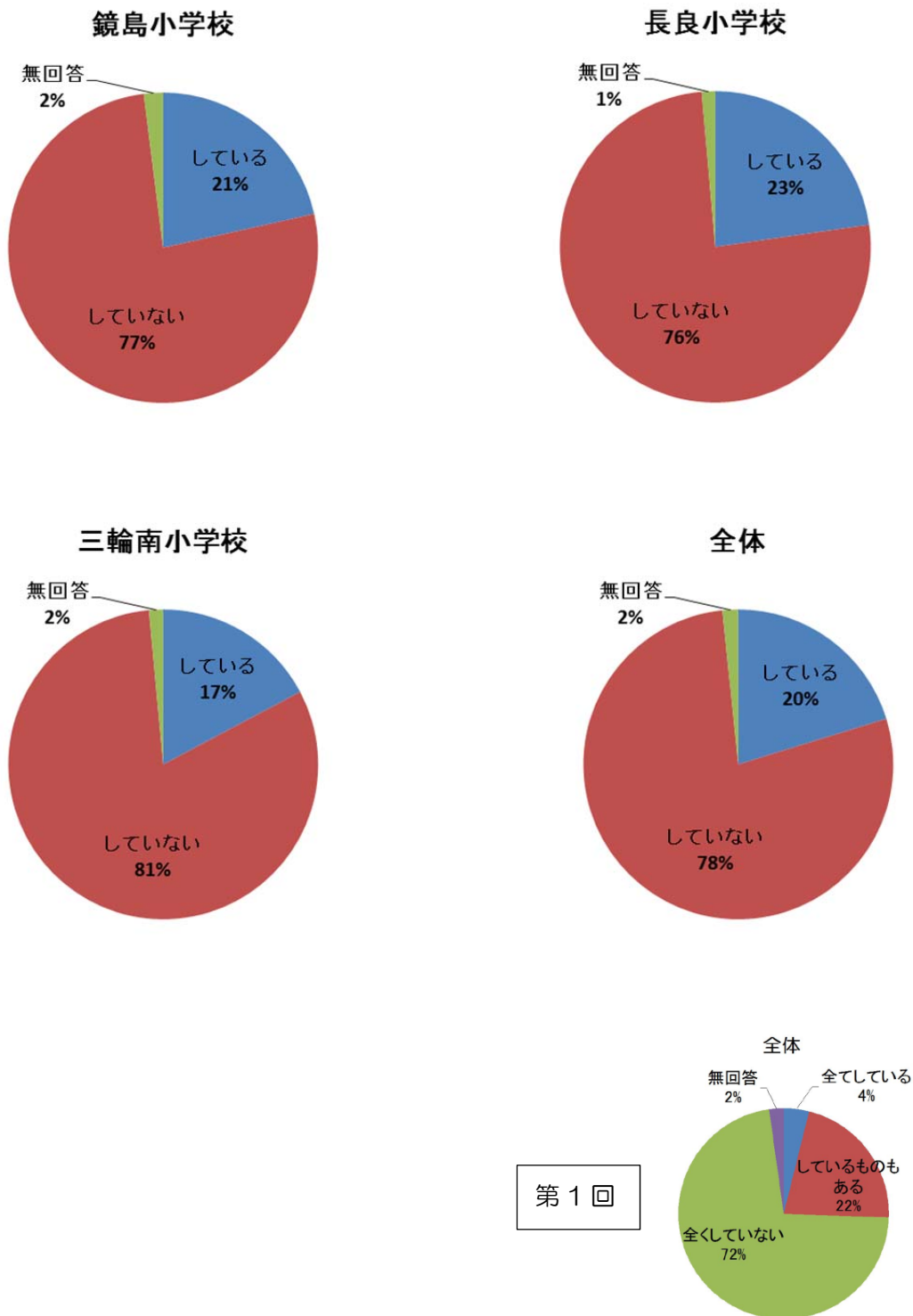
ガラスの飛散防止を完璧にしている人は全体の2%であり、部分的にしている人は30%、全くしていない人は67%となっている。家具や家電の転倒落下防止対策に比べて、ガラスの飛散防止対策については対策が遅れている状況がうかがえる。

学校別では、三輪南小学校がやや対策が遅れている結果となっている。



## 12. 食器棚に、食器類の飛び出し防止対策をしていますか

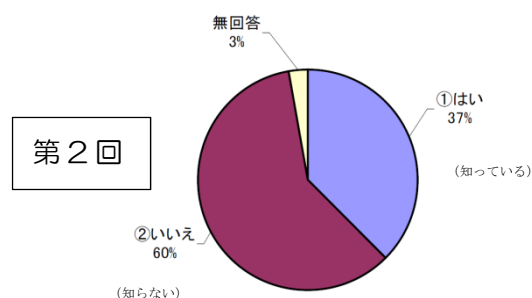
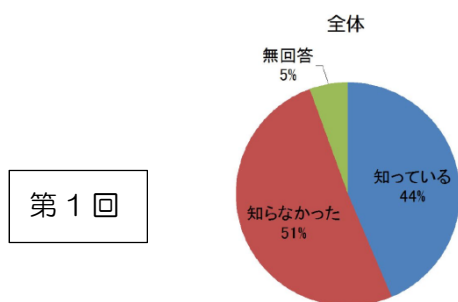
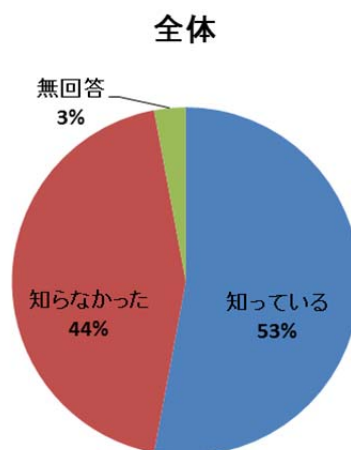
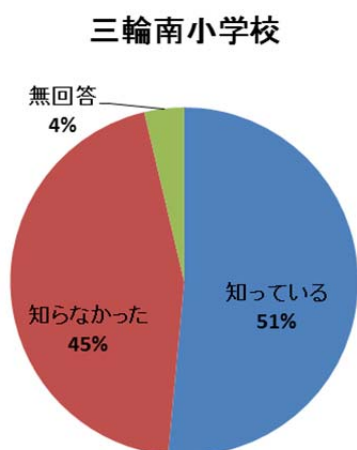
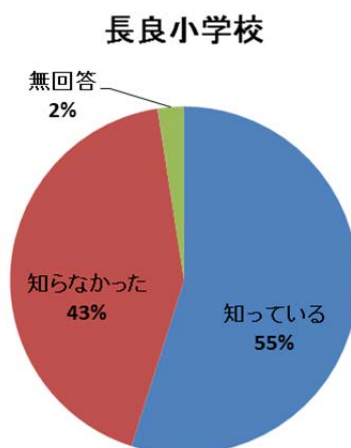
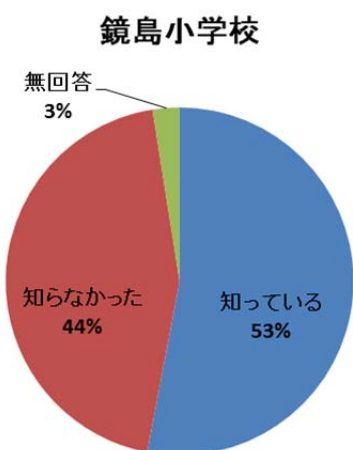
各小学校とも回答の比率は同じような傾向を示している。飛び出し防止対策をしている人は全体の2割であり、していない人は78%であった。飛び出し対策についても、家具家電の転倒落下防止対策に比べて、対策が遅れていると言える。



## E. 自宅の耐震診断・耐震補強等について

### 1. 耐震診断や耐震補強工事に補助金制度があるのを知っていますか？

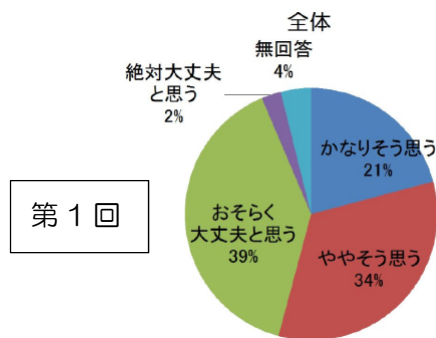
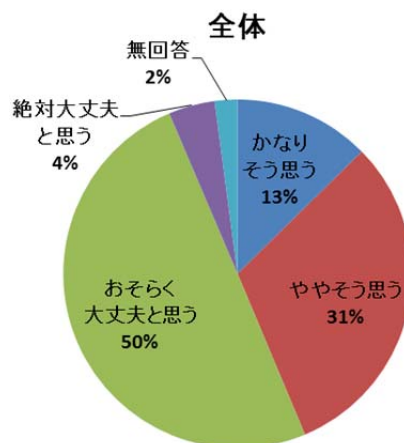
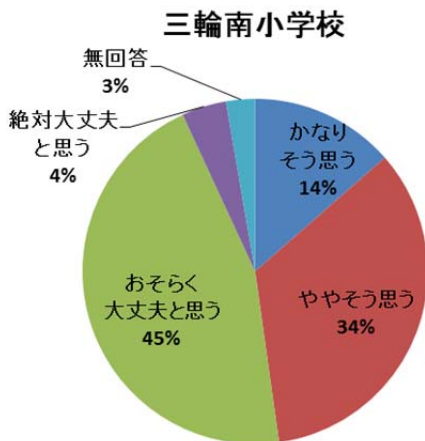
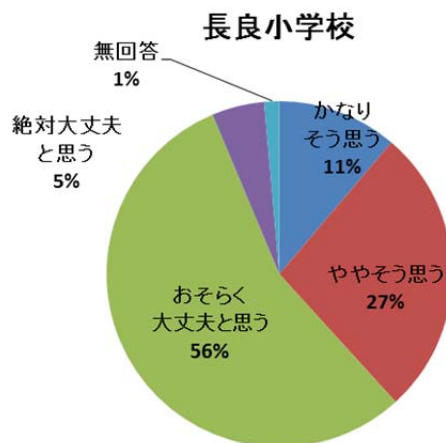
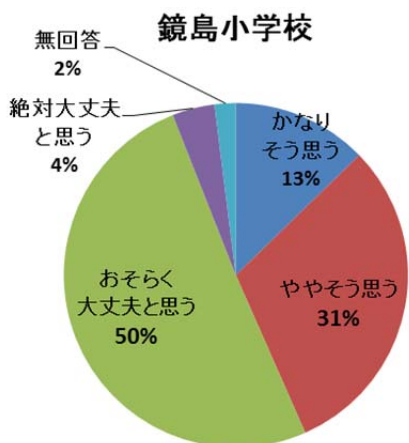
各小学校とも回答の比率は同じような傾向を示しており、「知っている」が「知らなかった」をやや上回る結果となっている。



## 2. 想定される最大級の地震が発生した場合、あなたの自宅は倒壊すると思いますか？

鏡島小学校と長良小学校では、半数以上の方が「大丈夫」と考えているのに対し、三輪南小学校では、「大丈夫」と考える人が半数を割っている。

全体では「かなりそう思う」「ややそう思う」を合わせると、44%の人が自宅の倒壊の危険を懸念している。

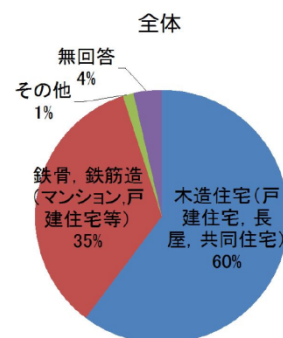
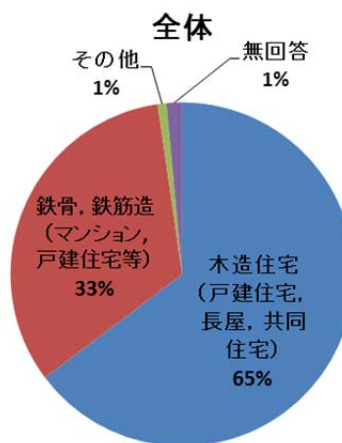
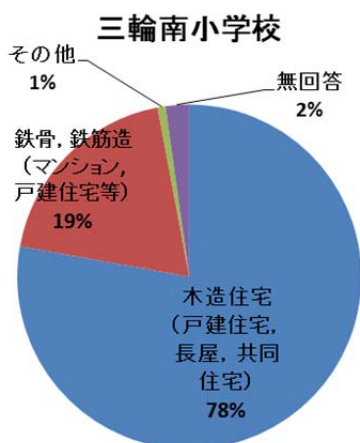
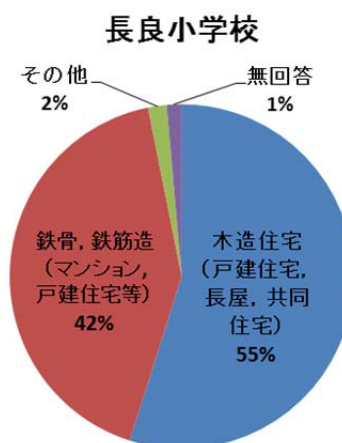
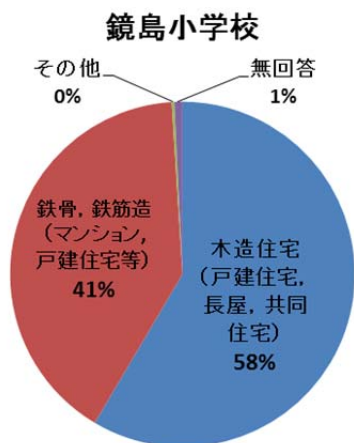




### 3. お住まいの住居形態は以下のどれにあてはまりますか？

全体では木造が65%、非木造が33%となっている。学校別では、三輪南小学校では木造率が大きく78%となっている。

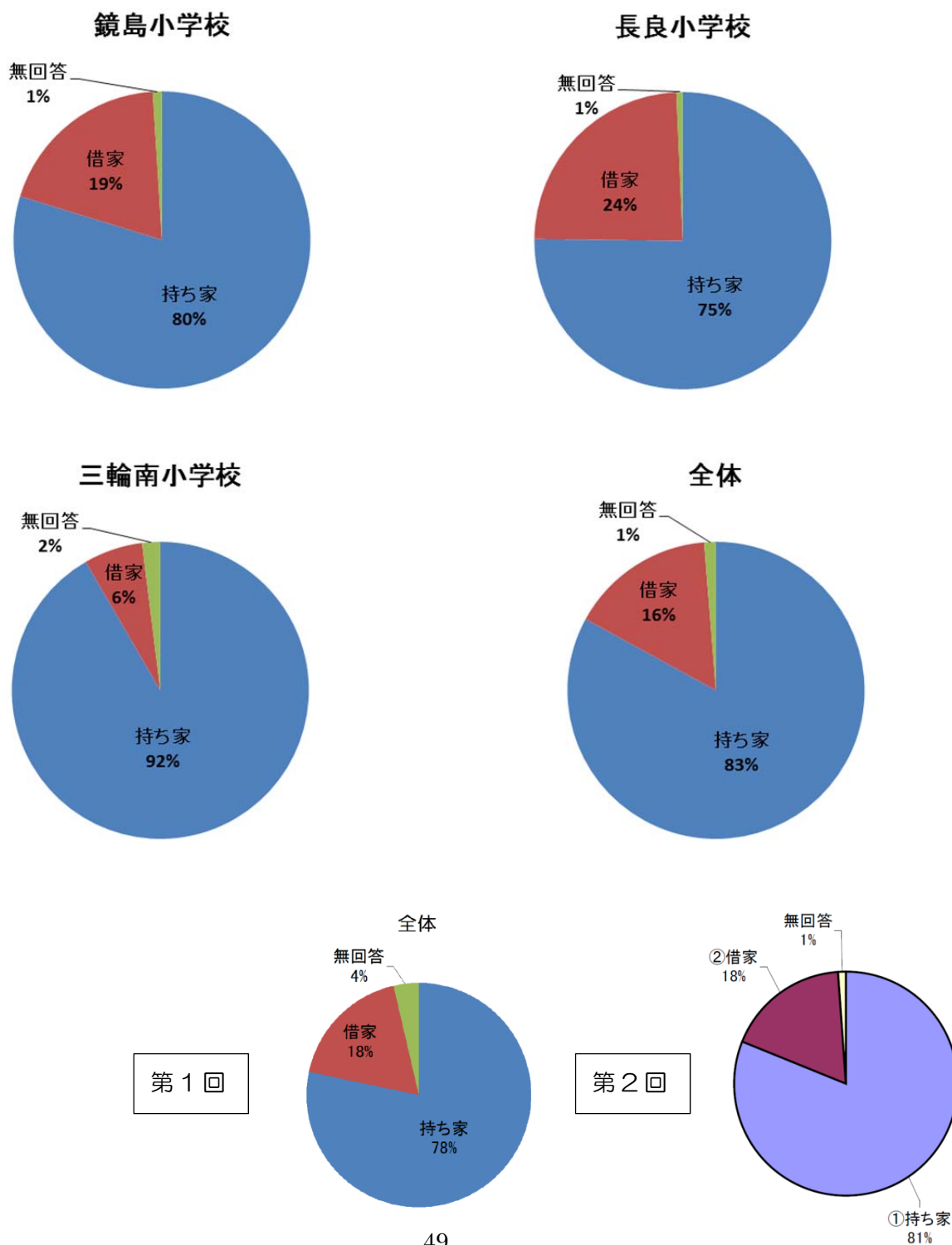
その他の自由記述では、木造+鉄骨や、軽量鉄骨、コンクリート造、木造+鉄骨+鉄筋造の複合構造、わからない、といった意見があった。



第1回

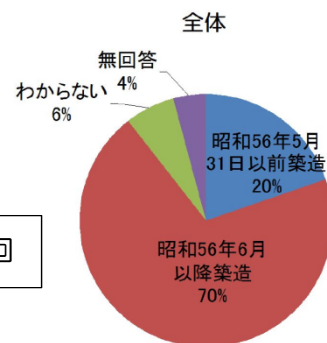
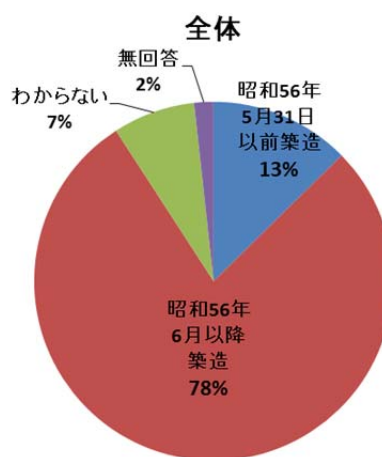
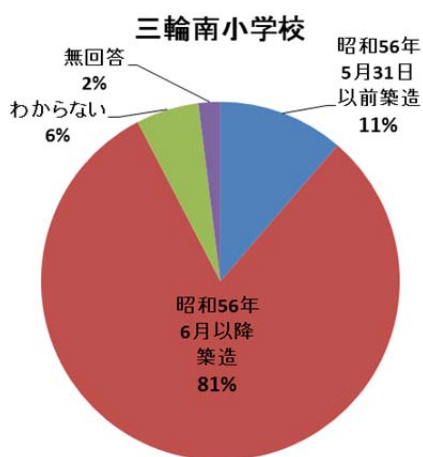
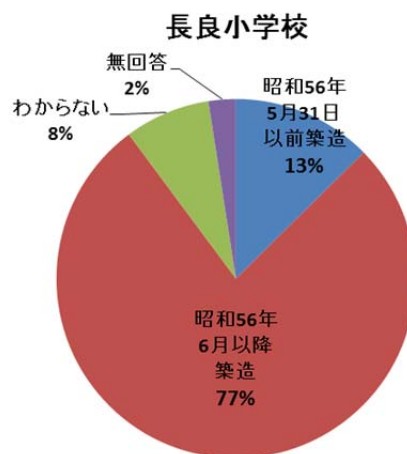
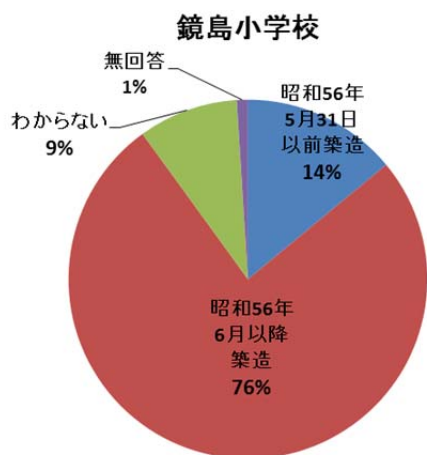
#### 4. お住まいは持ち家ですか。借家ですか？

「持ち家」が全体の83%をしめ、「借家」は16%となっている。学校別では三輪南小学校の持ち家率が高く92%、次いで鏡島小学校の80%、長良小学校が75%となっている。長良小学校区では、鉄筋・鉄骨造の比率と、借家の比率が高いことから、賃貸マンションなどに入居している可能性が高いと考えられ、鏡島小学校でも同様の傾向が見られる。



## 5. ご自宅の建築時期は？

各小学校とも回答の比率は同じような傾向を示している。確実に現行の耐震基準を満たしていると考えられる「昭和56年6月以降築造」は全体の78%にのぼる。



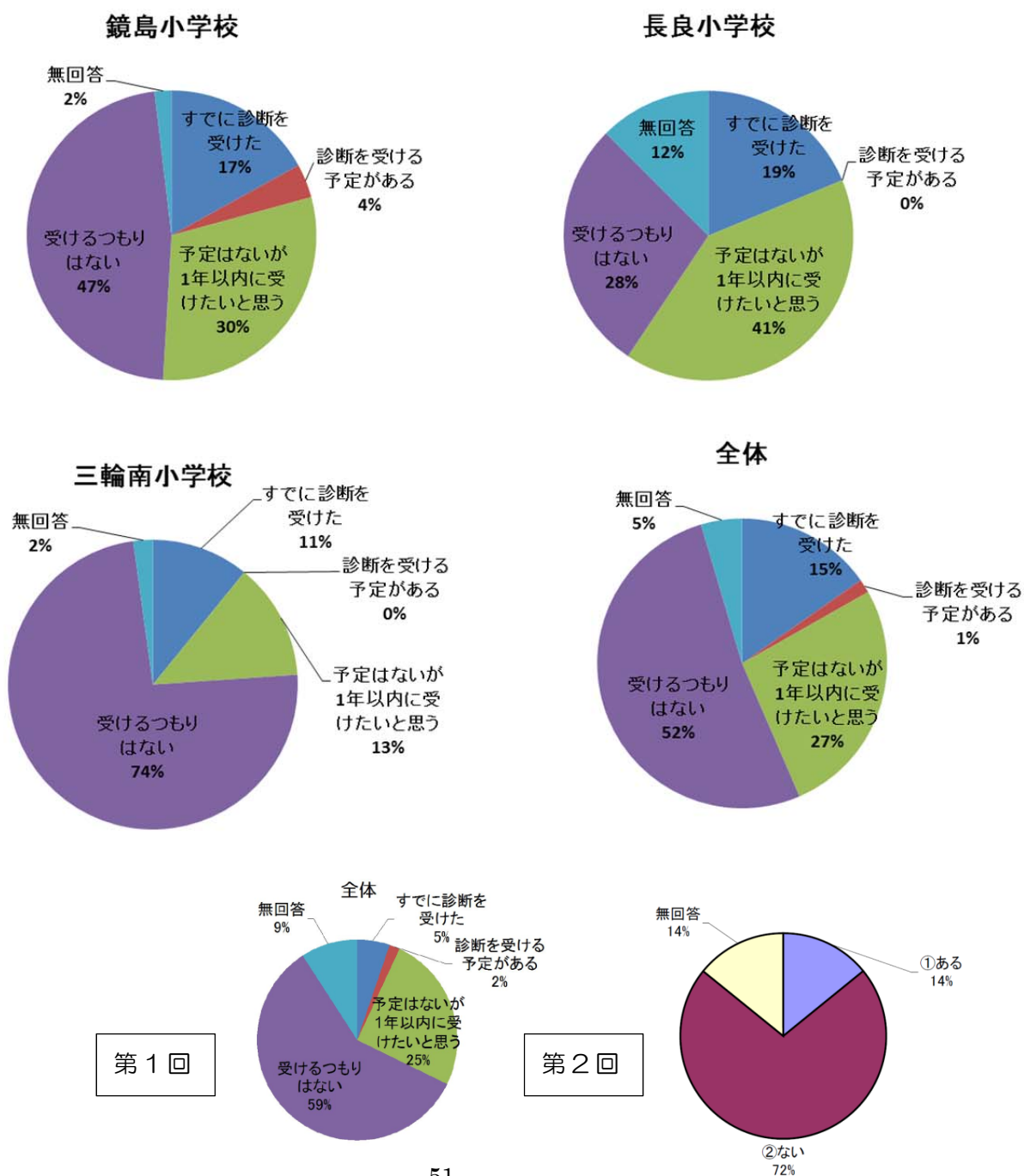
第1回

## 6. 問5で①と答えられた方に耐震診断について伺います

全体では、現行の耐震基準を満たしていない可能性のある「昭和56年6月以前築造」の人の中で、半数以上の52%の人が耐震診断を「受けるつもりはない」と回答している。

ただ、各校に回答のばらつきがあり、長良小学校では「すでに診断を受けた」「予定はないが1年以内に受けたらと思う」と回答した人を合わせると60%、「受けるつもりはない」が28%なのに対し、三輪南小学校では積極派はわずか24%、「受けるつもりがない」人が74%にのぼる。

なお、この集計以外で、昭和56年6月以降築造の新耐震基準で建築された自宅でも、すでに診断を受けた人やこれから1年以内に診断を受けたいという回答が複数あった。

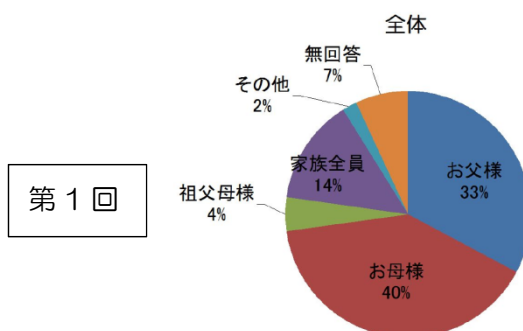
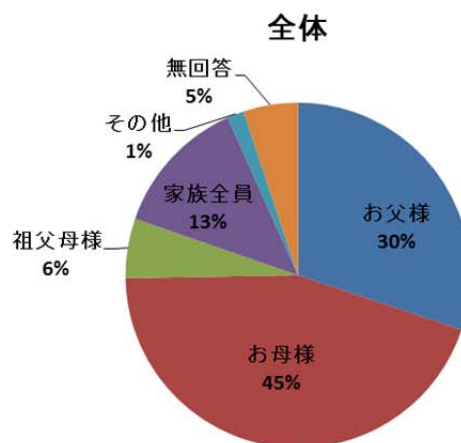
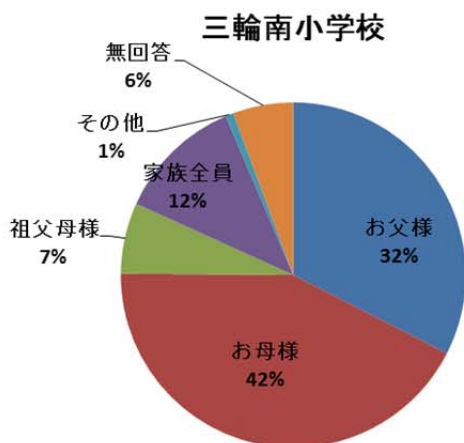
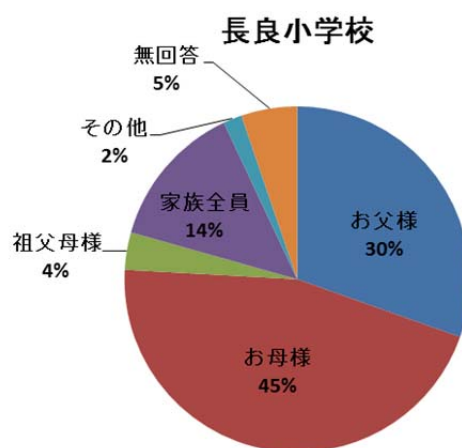
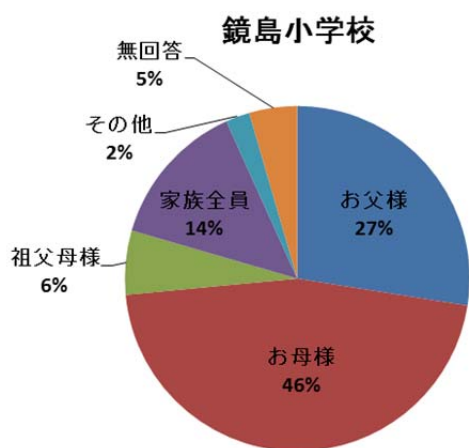


## F. 防災活動について

### 1. ご家族の中で主に防災対策をしている(これからされる)主体となる方はどなたですか？

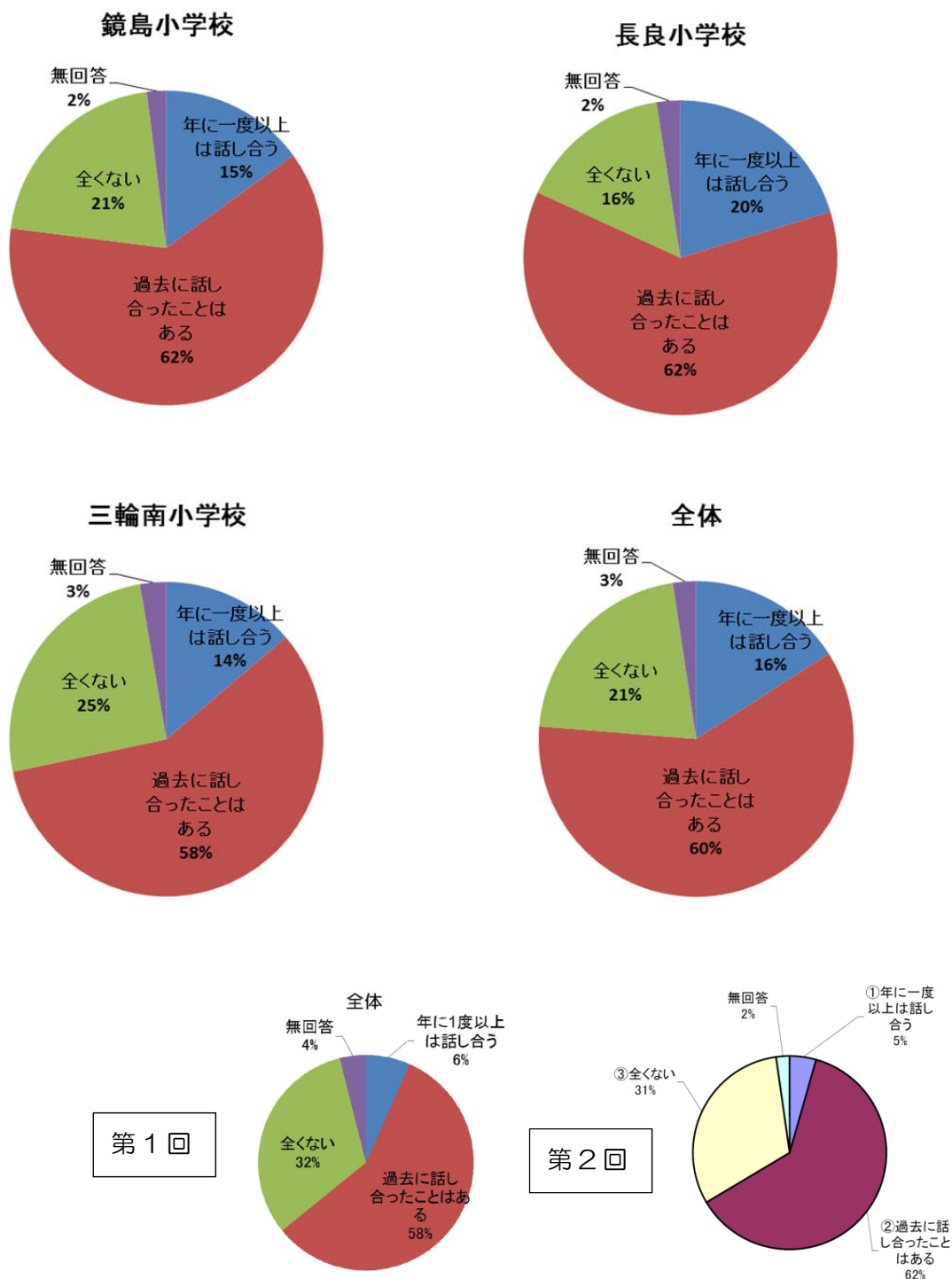
各小学校とも回答の比率は同じような傾向を示している。全体では父親主体が 30%、母親主体が 45%で、母親の方が 15%高い結果となっている。

その他の自由記述では、「特に決めていない」「子供」「法人」「いない」「わからない」などの回答がよせられている。



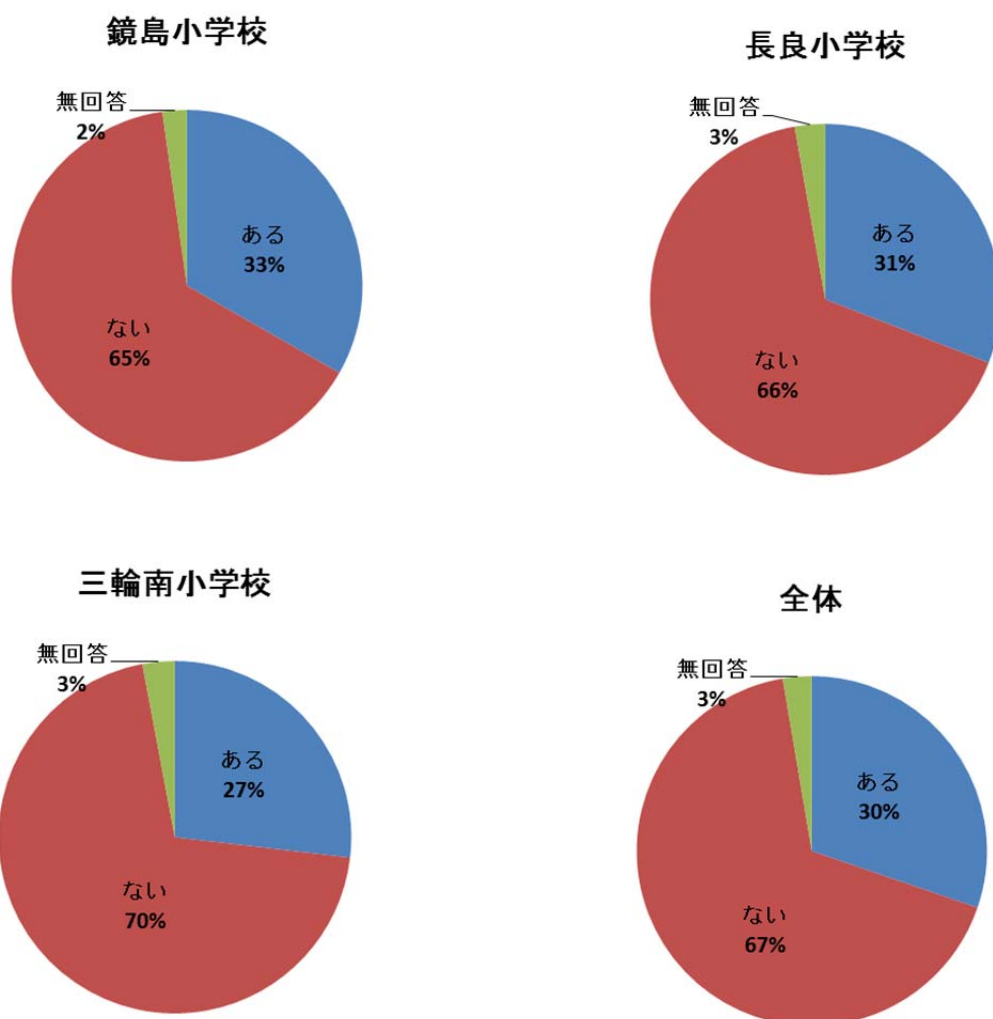
## 2. 学校では年に数回、避難訓練を行っておりますが、ご家族では防災について話し合ったことがありますか？

各小学校とも回答の比率は同じような傾向を示している。「年に一度以上話し合う」「過去に話し合ったことはある」を合わせると、76%の人が一度は家族で防災について話し合ったところがあることになる。「全くない」と回答した人は21%だった。



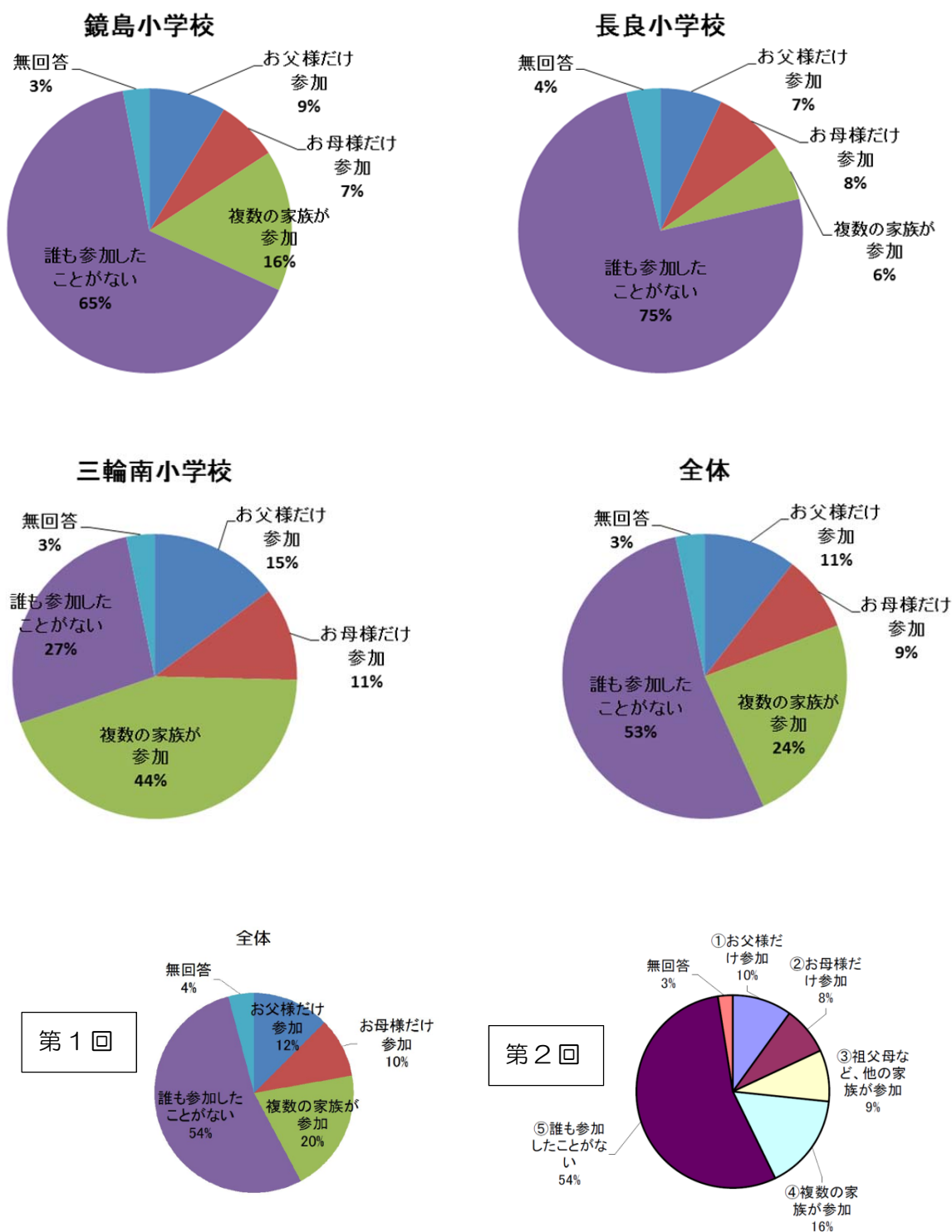
### 3. 子供だけで出かけていたり、子供だけで留守番をしている場合に地震が起こった際の行動について話し合ったことはありますか？

各小学校とも回答の比率は同じような傾向を示している。「ある」と回答した人は全体の3割にとどまる。問2で、「防災について話し合ったことがある」と回答した人は76%にのぼったが、被災時に子供だけしかない状況を想定している人は少ないということが分かる。



#### 4. 地域の防災訓練に参加したことはありますか？（学校の避難訓練は含みません）

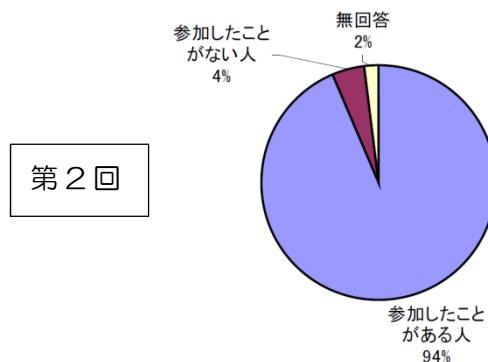
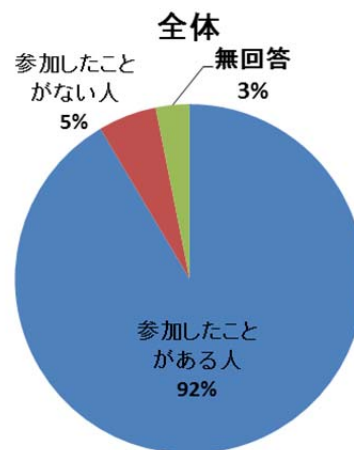
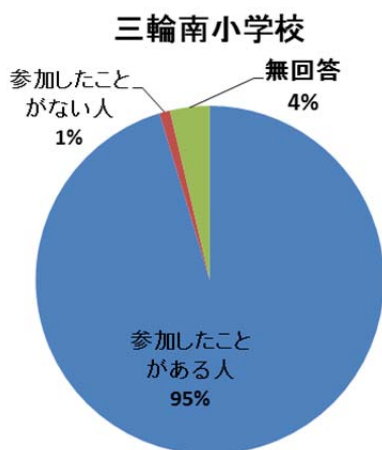
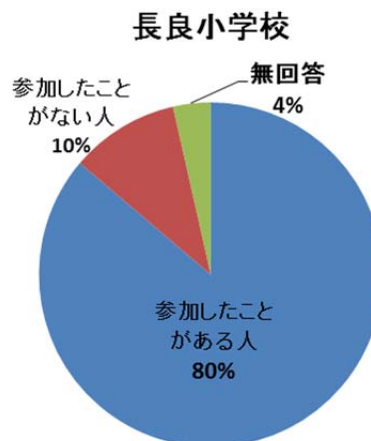
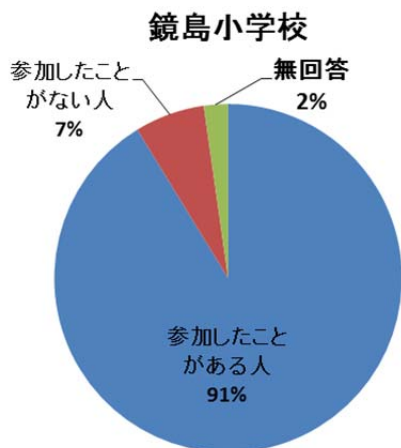
地域の防災訓練に「誰も参加したことがない」世帯が、鏡島小学校では 65%、長良小学校では 75%と非常に高い。一方、三輪南小学校では「複数の家族」「父親」の参加率が良く、「誰も参加したことがない」はわずか 27%となっており、地域の防災訓練への参加が積極的であることが分かる。





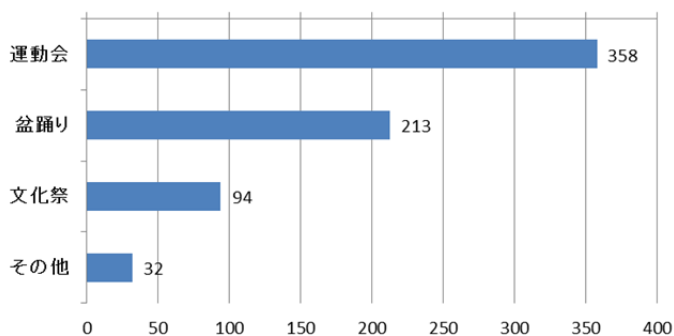
## 5. 地域の行事に参加したことはありますか？（複数回答可）

三輪南小学校では、地域の行事に「参加したことがある人」が95%、「参加したことがない人」がわずか1%で、参加率がとても高い。長良小学校、鏡島小学校でも高い値を示しており、地域の行事への参加率はとても高いものとなっている。自由記述の回答数も多く、関心の高さがうかがえる。

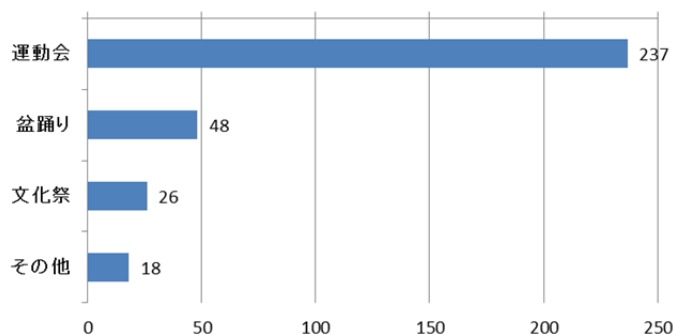


「参加したことがある人」の中の具体的な項目の回答数と回答率を表す。

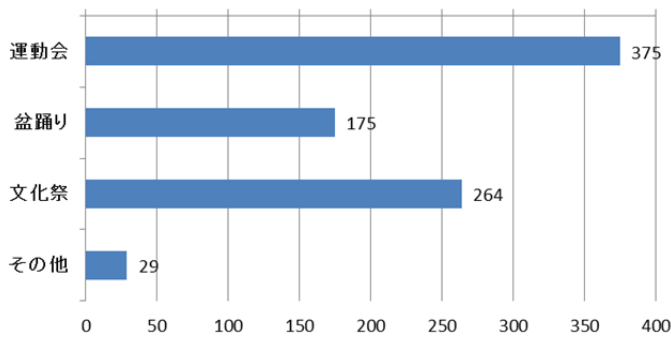
鏡島小学校



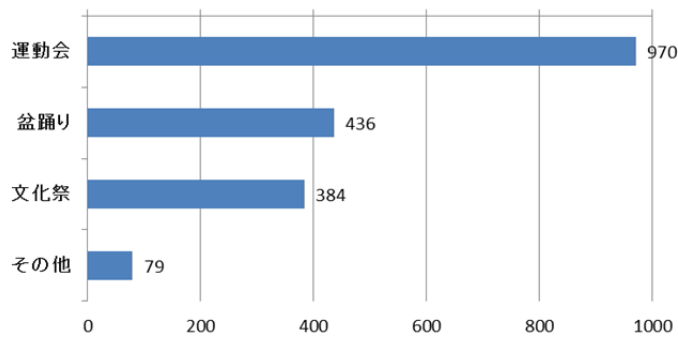
長良小学校



三輪南小学校



全体

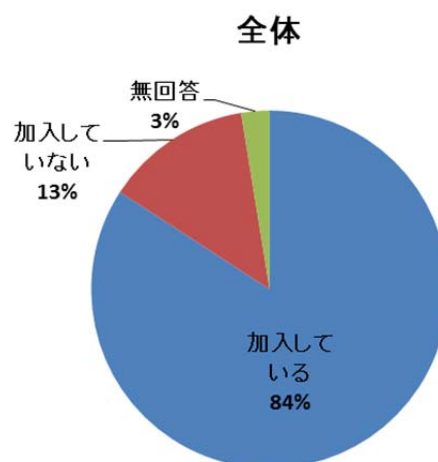
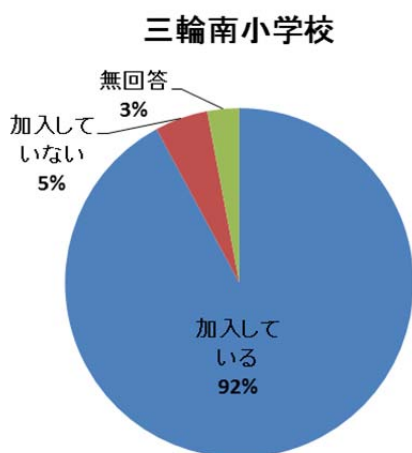
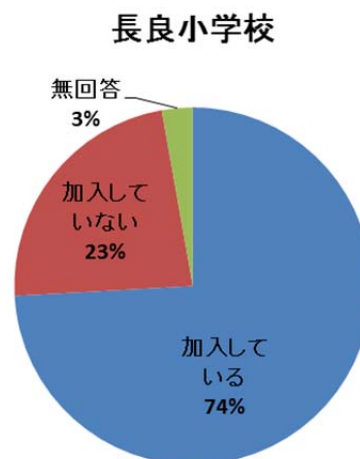
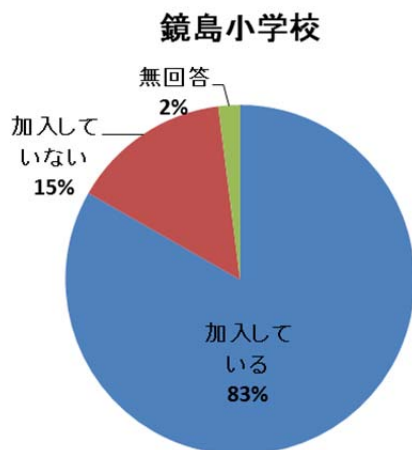


「その他」の自由記述では以下の回答があった。

行事・イベント	鏡島 小学校	長良 小学校	三輪南 小学校	合計
清掃活動	8	2	3	13
草取り	1	—	1	2
凧揚げ大会	8	—	—	8
お祭り	3	2	8	13
おみこし	4	4	1	9
子供会	2	—	2	4
鬼火たき	—	1	—	1
餅つき	—	1	—	1
芋煮会	—	—	1	1
防災訓練	—	—	3	3
市民運動会	1	—	2	3
おひまち	—	—	1	1
ふれあい大会	—	—	1	1
あるけあるけ大会	—	—	1	1
バーベキュー	—	—	1	1
自治会総会	—	1	—	1
バザー	—	1	—	1
グランドゴルフ	—	1	—	1

## 6. 自治会には加入していますか？

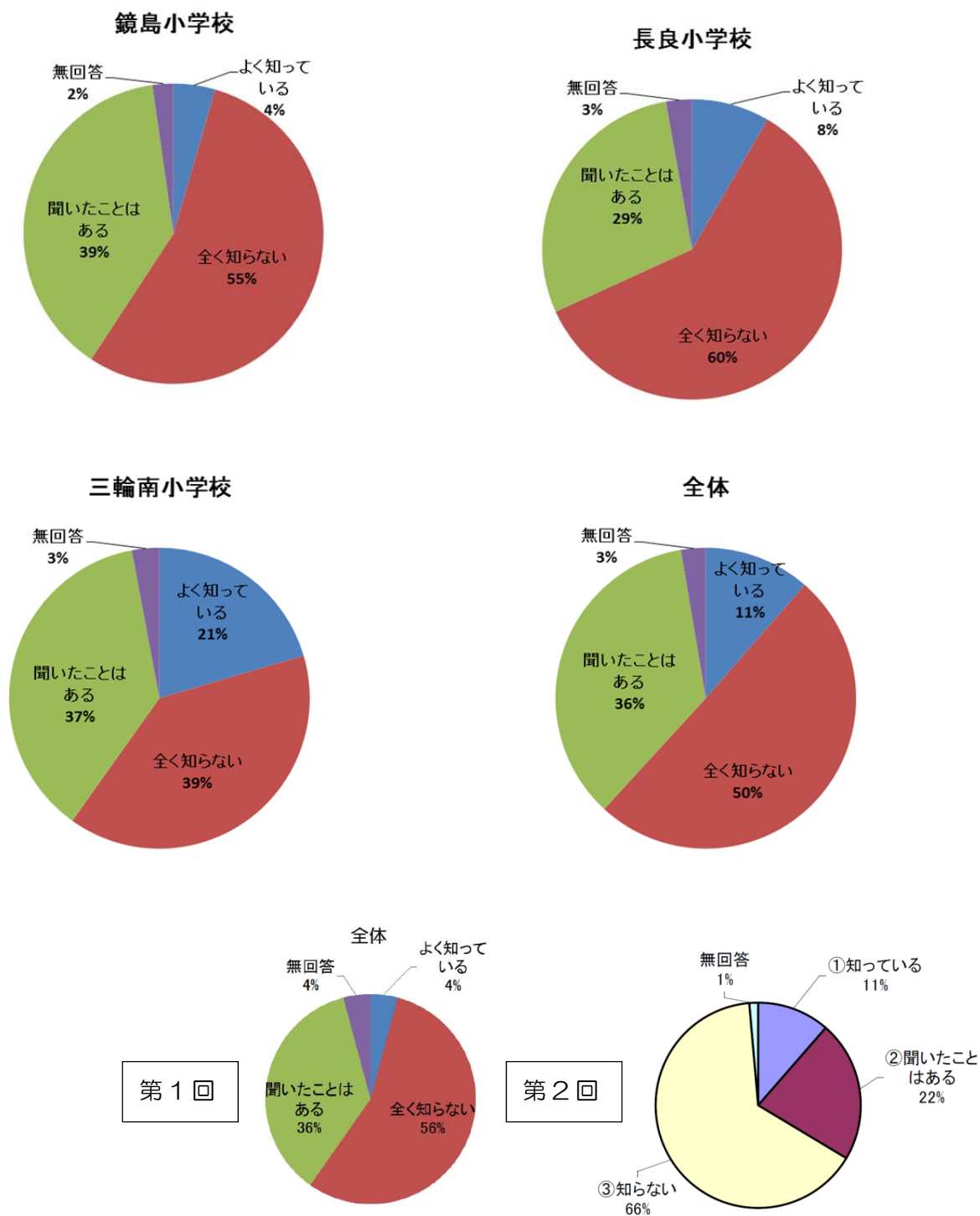
三輪南小学校で自治会の加入率が高く、92%にもものぼる。鏡島小学校では自治会に「加入している」と回答した人は83%、長良小学校で74%となっており、おおむね高い加入率であると言える。



## 7. 自主防災組織の存在を知っていますか？

鏡島小学校は「全く知らない」と回答した人が55%、長良小学校は60%であるのに対し、三輪南小学校は39%と低く、他の2校より自主防災組織の認知度が高かった。

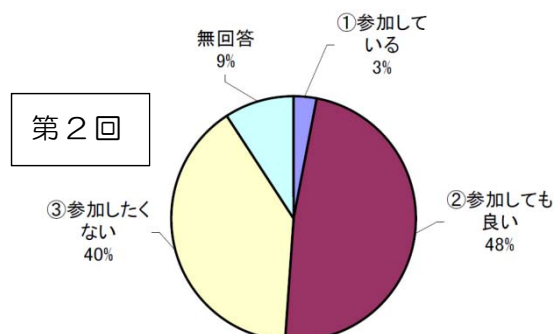
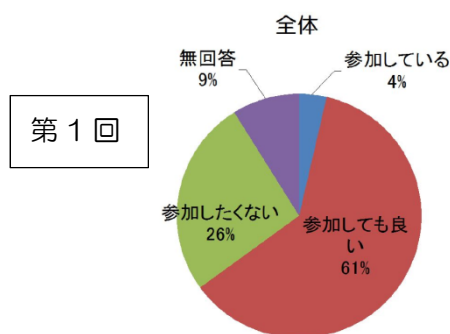
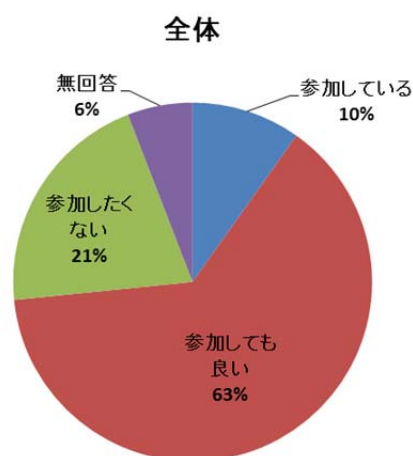
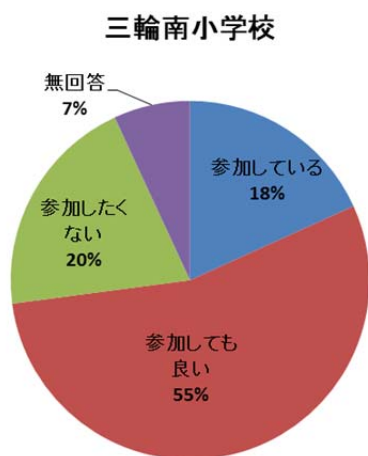
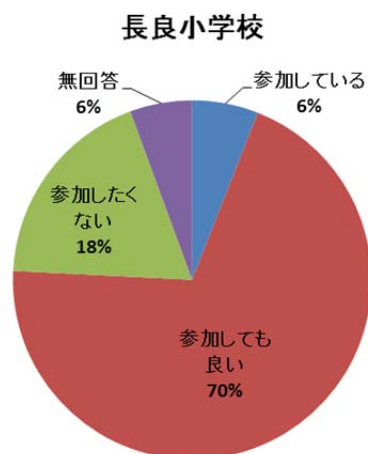
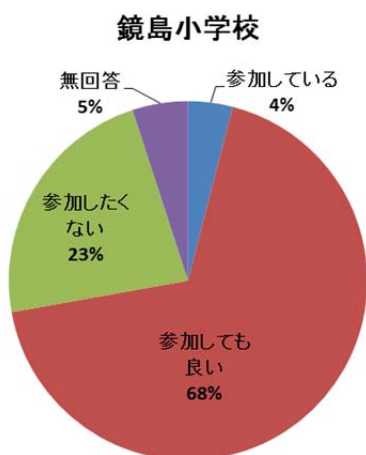
全体では、「聞いたことはある」「全く知らない」を合わせると86%の人が、自主防災組織のことをよくはわかっていないという状況である。「全く知らない」とした人も全体の半数にのぼった。



## 8. 自主防災組織への参加について

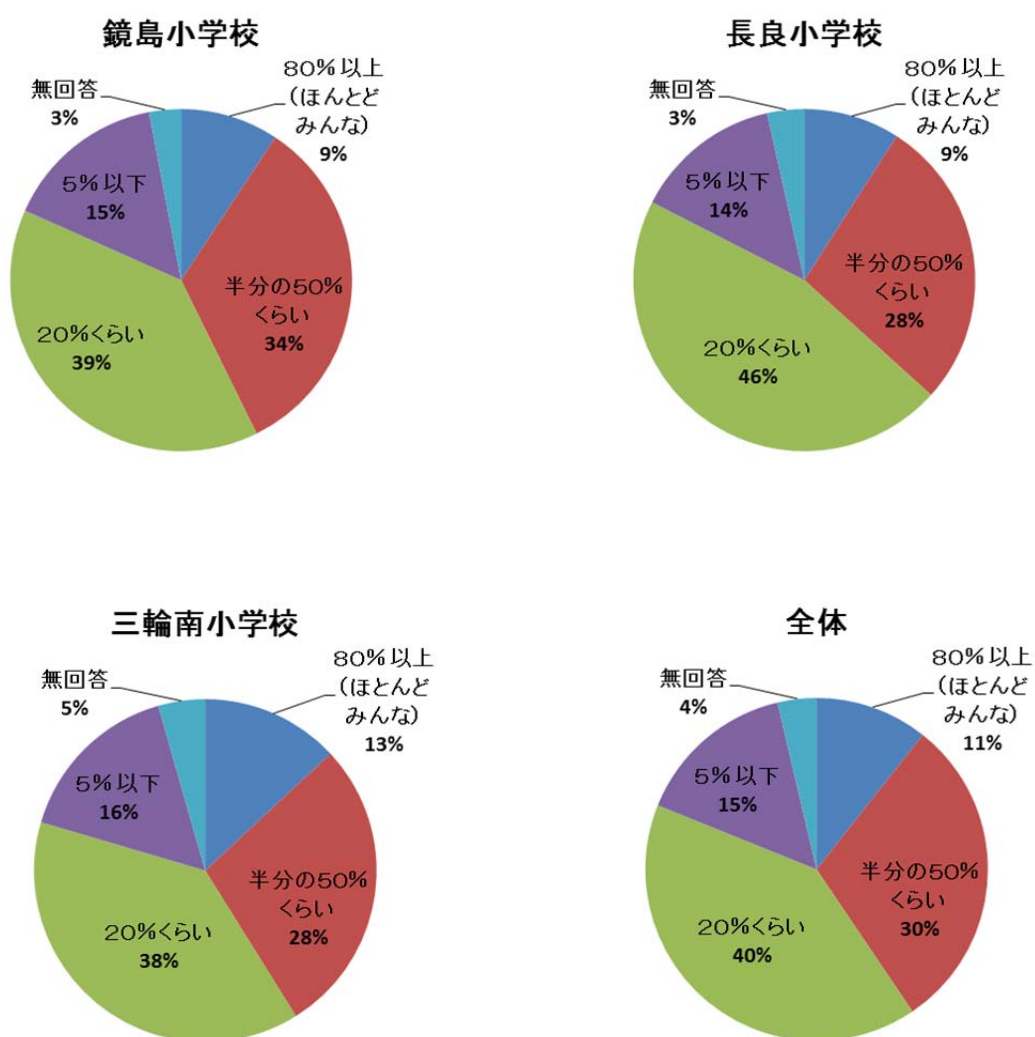
自主防災組織に「参加したくない」と回答した人は 2 割ほどで、多くの人が「参加しても良い」としている。

問 7 で、防災組織のことを「よくは知らない」人が 86%であることを考えると、防災組織の存在や活動がきちんと知られば、参加者は大幅に増えると思われる。



## 9. 阪神淡路大震災が発生したときに、消防や自衛隊などの公的な機関に助けられた人の割合はどのくらいだったと思いますか？

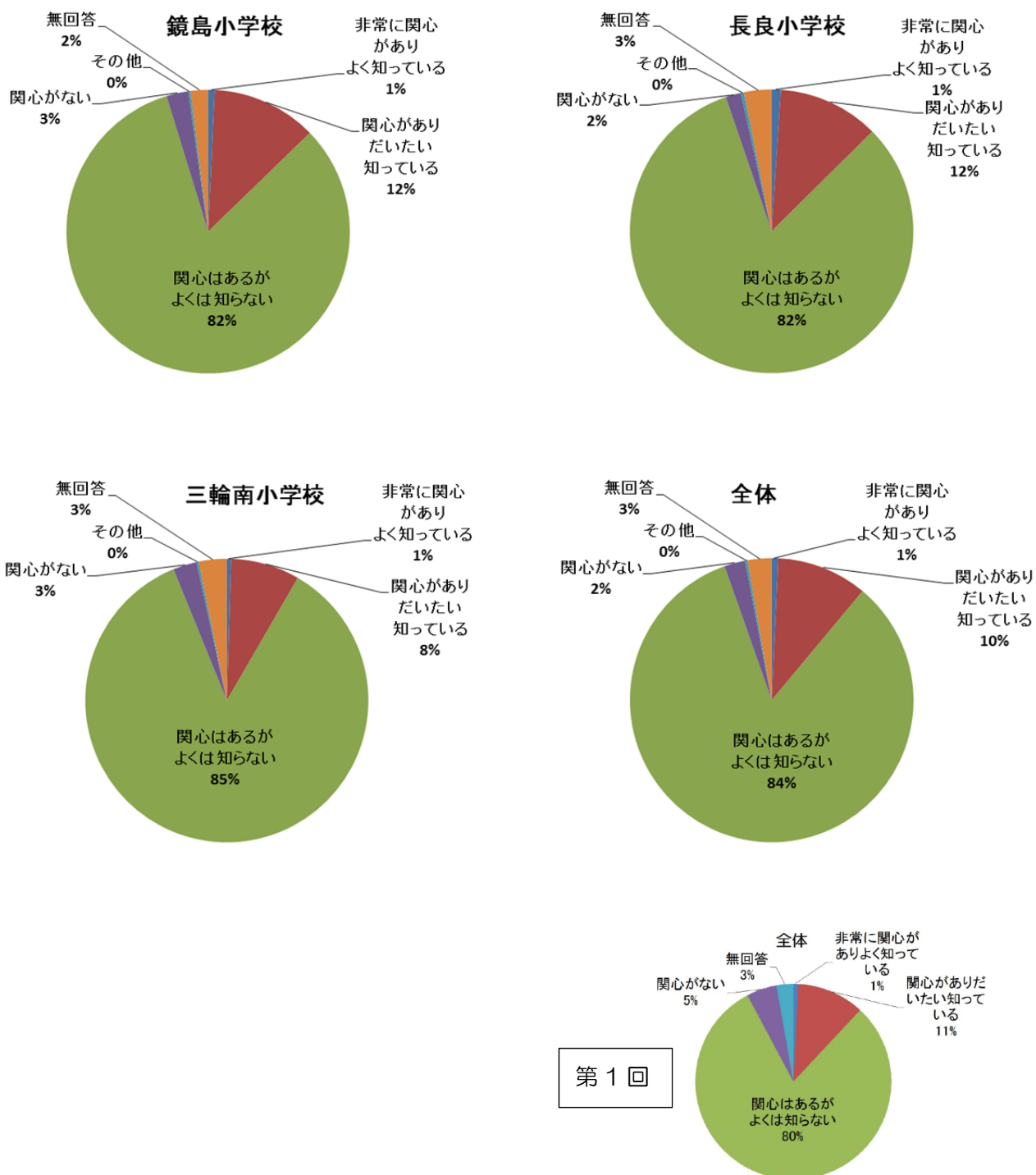
各小学校とも回答の比率は同じような傾向を示している。「半分の50%くらい」は、または「20%くらい」は公的な機関に助けられたのだろう、と思っている人が合わせて7割にもなった。実際は公的な機関に救助された人は全体の5%以下に過ぎない。「5%以下」と回答した人は全体で15%しかおらず、被災時には公的な機関に救助してもらえると考えている人が多いと言える結果となった。



## 10. あなたの地震や防災の知識はどの程度あると思いますか？

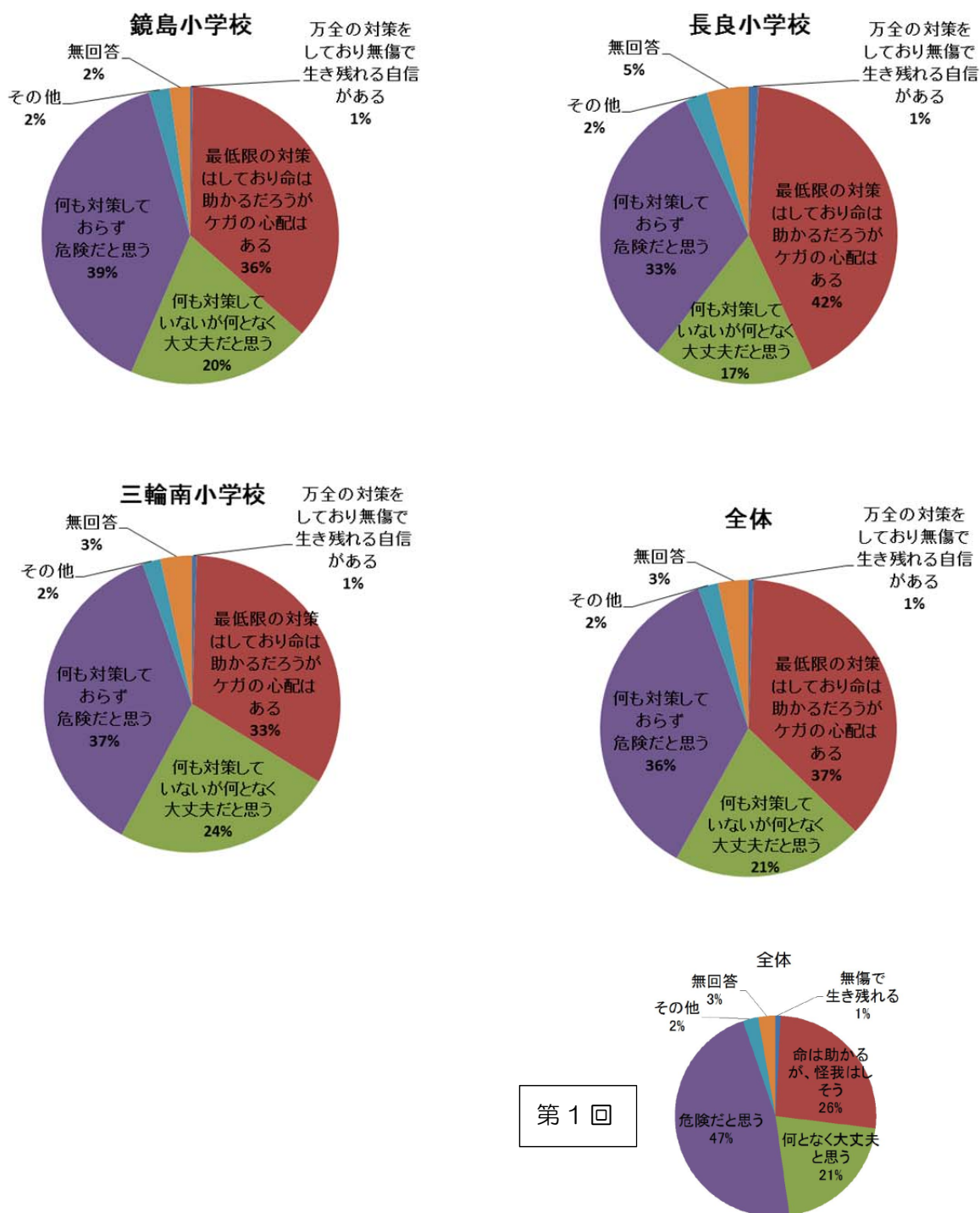
各小学校とも回答の比率は同じような傾向を示している。「非常に関心がありよく知っている」と回答した人は各小学校とも1%しかない。全体の95%が「関心がある」が、そのうち84%は、「よくは知らない」状況にある。

「その他」の自由記述では「関心はあるがどの程度かよく分からない」「普通」「阪神淡路大震災の時の被災者です」といった意見があった。



## 11. あなたのお宅の地震対策はどの程度できていると思いますか？

各小学校とも回答の比率は同じような傾向を示している。「万全の対策をしており無傷で生き残れる自信がある」人は全体のわずか1%しかおらず、全体の7割以上の方が危険を感じている結果となっている。また、半数以上の方が「何も対策をしていない」と回答している。





「その他」の自由記述では、以下の回答があった。

#### 〈対策しても不安〉

- リフォーム時に家の耐震に力を入れたがあとは何も出来ていない。
- 対策が不十分だと思う。身障者の身内がいるので危険だと思う。
- 対策が中途半端で心配。
- 対策はしているが十分ではないので命、ケガの心配はある。
- 対策をしているが不十分だと思う。
- 簡単な対策しかしていないので命が助かるかどうか自信がないのと、助かっても何日間も自力で生きていけるか自信がない。
- 足りないと思う。
- 少しはしているが危険だと思う。
- 少しだけ対策している。
- 対策してあるところとしていないところがあり、危険かもしれない。対策してあっても万全ではないかも。
- 対策はしているか十分かどうか分からない。

#### 〈わからない〉

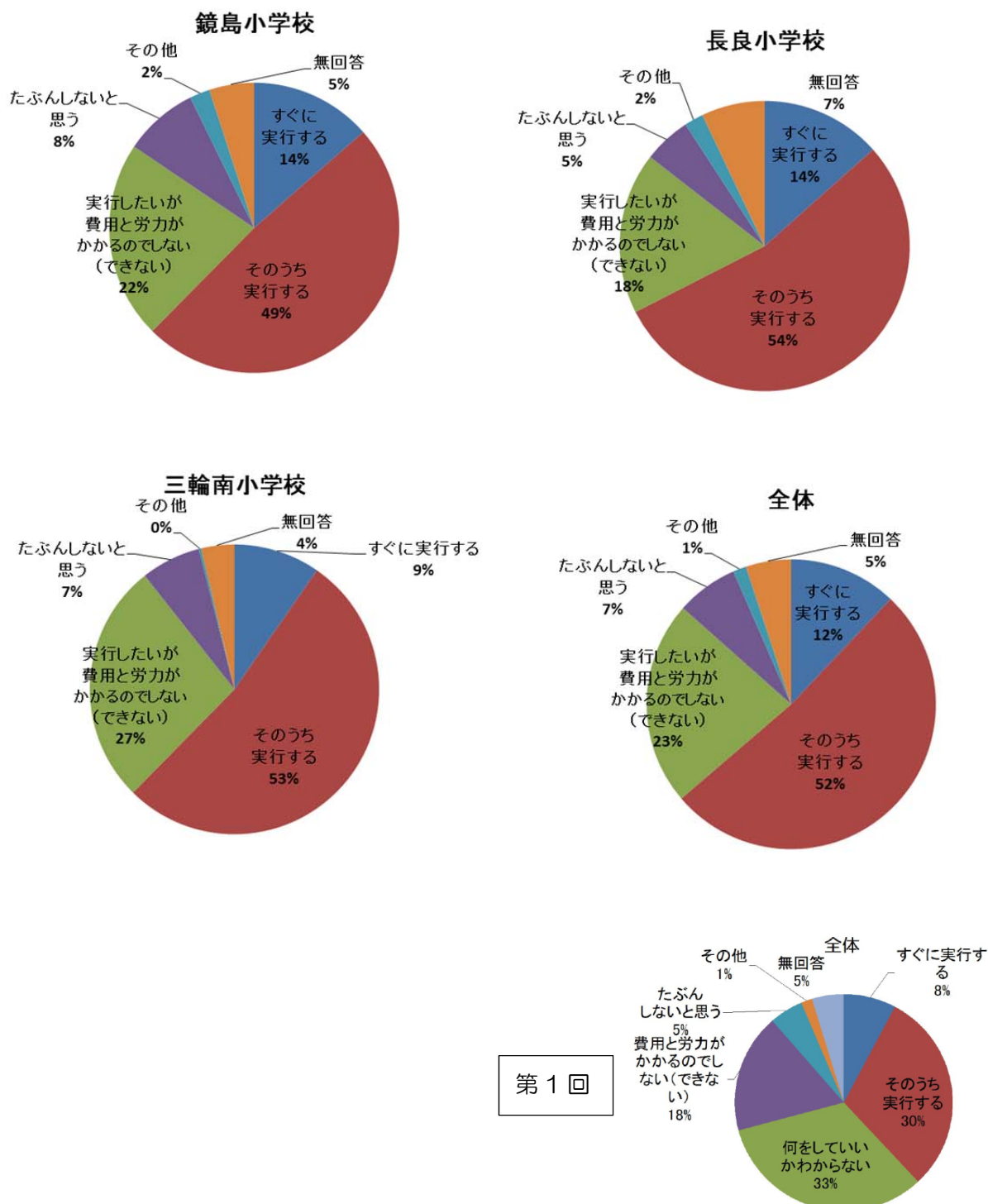
- 何とも言えない。
- わからない。
- 分からない。
- 古いマンションなのでよくわからない。
- わからない。
- わかりません。
- わからない。

#### 〈その他〉

- マンション（集合住居）のため、あまり手をかけられない。
- マンションで対策を行っていないので不安だ。
- 該当無し。

## 12. 質問 11 で①以外の方に伺います。今後、ご家庭で具体的な防災対策を実行されますか？

各小学校とも回答の比率は同じような傾向を示している。「すぐに実行する」とした人は全体で12%しかおらず、半数以上の方が「そのうち実行する」としている。「しない」としている人は全体の3割ほどであった。



「その他」の自由記述では、以下の回答があった。

〈少しずつやる（している）〉

- 少しずつしている。
- 少しずつする。食品の備えなど。
- 徐々にやっている。

〈できることからやる〉

- 全部は出来ないが出来ることはすぐに実行したい。
- 家具の固定、電化製品、窓ガラスなど家族で話し合っ準備していかなくてはいけないと思います。あとヘルメットや靴も寝室に用意しておくべきだと思いました。
- できることからやっていきたい。

〈わからない〉

- 実行したいが、何からすれば良いかわからないので時間がかかりそう。
- 実行したいが、どのようにしたらいいかわからない。

〈自分では出来ない〉

- アパートのため、自分では出来ない。
- 大家さん次第。
- 借家なので出来ない。

〈その他〉

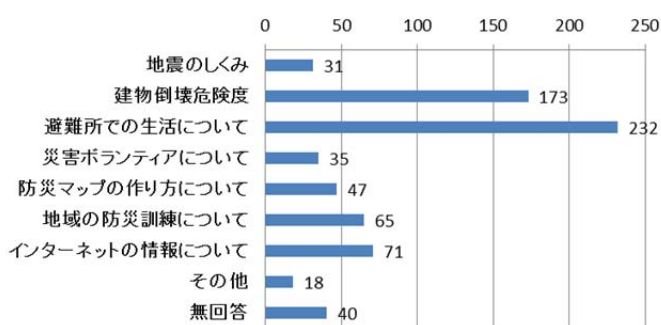
- 引っ越し。
- 防災用品を購入しているが設置場所に手が届かず思案中。
- 全て実行してあるがどうしても無理なところもある。

## G. 最後に

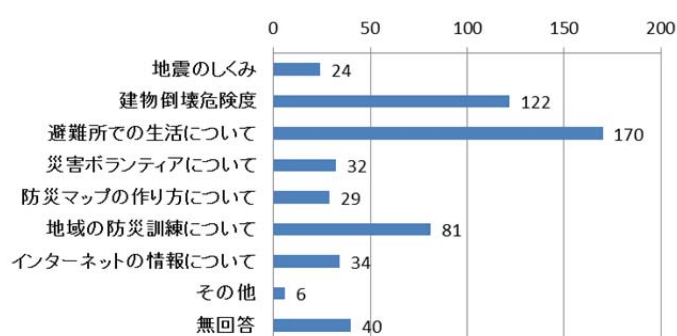
### 1. 地震や防災のことで知りたい情報はどんなことですか？（〇いくつでも）

各校とも、知りたい情報として「避難所での生活について」が一番多く、全体で634人の人が挙げている。これまでのアンケート結果からも分かるように、多くの方は「自宅」で被災し、「非常持ち出し袋」を持って「避難所」へ避難する、という状況を想定していると言える。次いで「建物倒壊危険度」が469件で、被災したときに自宅や小学校、職場などがどうなるのかを心配している人が多いという結果となった。

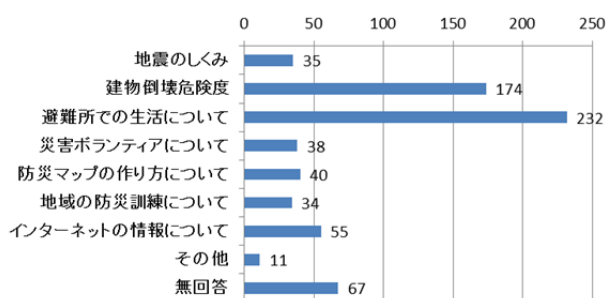
鏡島小学校



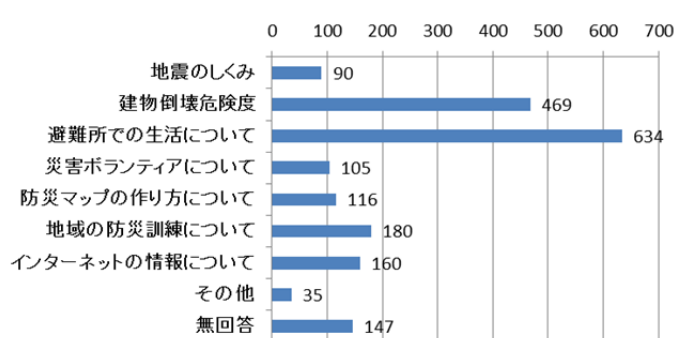
長良小学校



三輪南小学校



全体



「その他」の自由記述では、以下の回答があった。

#### 〈避難の仕方について〉 5 件

- 家族がそれぞれの生活をしているとき、どう行動して連絡を取ったらいいか、参考になる資料が欲しいです。
- 細い道（住宅に囲まれた）をどう避難するのか？
- 周囲は電柱が多く、避難時に危険度が増すのだが、スムーズな避難の仕方を教えてほしい
- 避難方法、小学校や南公民館まで遠い。
- 地震発生から避難までの具体例。

#### 〈避難所について〉 6 件

- 是非学校で避難所体験を実施させていただきたい。以前おやじの会主催で避難所体験を実施したいと申し上げたとき、拒否された。実際、災害が起これば選択の余地もなく避難所になる学校が、了承してくれる学校と、拒否する学校が二手に分かれる事を疑問に思う。是非開催を許可して欲しい。（三里小、島小では実施しているが、鏡島小では断られた）
- どこに集まるか。
- 寒い時期に避難生活を送ることが多いので不安です。
- 地区住民の大半が避難所に避難できるのか。
- 過去の他地域における災害時の避難生活についての情報（避難生活のノウハウや必需品など）  
地域毎の危険な場所（地図などに表したり、学校で子供達に教える機会を持ってもらったりも良いかも）など。
- 地域の避難所が山沿いだったりして本当に安全な場所なのか再確認して欲しい。水没地域は近所にないか？

#### 〈自宅の危険度や対策について〉 3 件

- 賃貸アパート・マンションの倒壊危険度を知りたい。
- 自宅がどのくらいの地震に耐えられるのか。どこをどうすると良いか。
- 液状化現象について対策とその後。

#### 〈ハザードマップ〉 2 件

- 最近建ったマンションなので、マップは無いと思います。
- ハザードマップをもう一度配布してほしい。

#### 〈その他〉 6 件

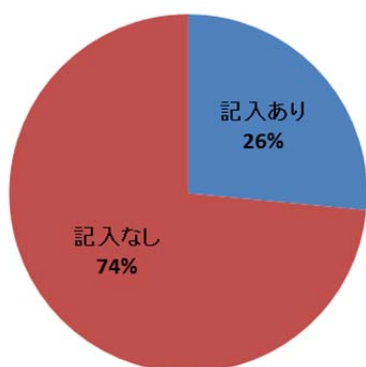
- 地震時の対応について
- 地域の防災訓練の案内が回ってこないで、参加のしようが無い。地域の自主防災組織に参加したいがどうすれば参加できるのか？

- どのくらい生活の保障をしてもらえるのか？
- 長良地区では防災訓練を見たことがないです。地域でもっとやるべきです。
- 特になし。
- なし。

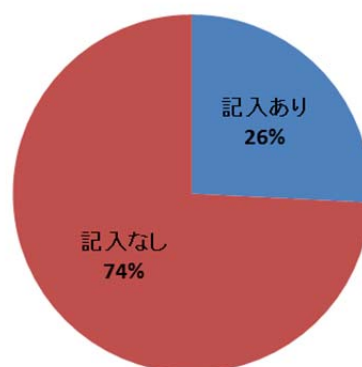
## 2. 地震時の対応で、特に市役所に望むことは何ですか？

各小学校とも回答の比率は同じような傾向を示している。一般的にアンケートに対する自由記述の回答率はあまり高くないと言われているが、全体で24%の人が回答を寄せており、市役所に対する要望の大きさや期待の高さがうかがえる。

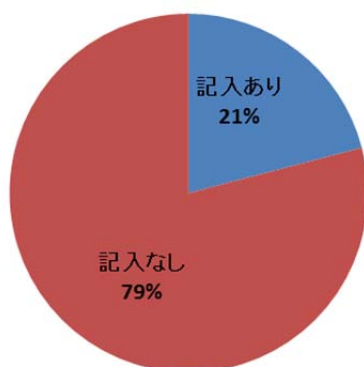
鏡島小学校



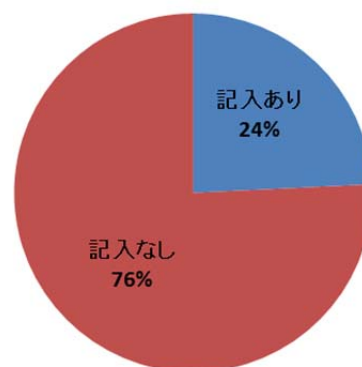
長良小学校



三輪南小学校



全体



回答が非常に多いので、参考資料として添付することとし、ここでは主な要望事項と類似の回答数を以下の表にまとめる。

主な要望事項	件数
正確で迅速な情報提供、情報公開、連絡など	68
救援物資の備蓄と速やかで平等な配布	34
ライフライン、災害復旧	22
迅速な対応	21
避難所、仮設住宅、避難生活の充実	19
災害弱者への適切な対応	10
柔軟、平等な対応（差別をしない）	10
啓発活動（マニュアル配布、勉強会、防災訓練など）	9
特になし	8
支援制度、補助の充実（建物、生活など）	8
安否確認	8
わからない	7
避難勧告、避難誘導、災害時の的確な指示・リーダーシップの発揮	7
子供の安全確保	6
災害時に機能する市役所内の適切な体制づくり	5
人命救助など	5
その他	20



### 3. 南海トラフの巨大地震が起こった場合、この地域の震度はどのくらいになるか知っていますか？

各小学校とも回答の比率は同じような傾向を示している。全体で6割ほどの人は「知らない」と回答しており、大きい地震が来ることは知っているが、その震度までは把握していないという現状が分かる。

